

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定（令和2年9月末現在）

基本戦略1:多様な人材が活躍できる農業経営の実現

戦略分野1:人材の育成・確保

- (1) 新たな担い手育成確保支援プロジェクト P1
 (2) 輝くアグリウーマン育成プロジェクト P3
 (3) 農業労働力確保プロジェクト P5

戦略分野2:経営体育成

- (1) 農業トップランナー育成・発展プロジェクト P7
 (2) 農業経営力向上支援プロジェクト P8
 (3) 農業者ネットワーク化支援プロジェクト P10
 (4) 担い手農地集積・集約化促進プロジェクト P10
 (5) 農業情報発信力強化プロジェクト P11
 (6) 農業経営セーフティネット強化プロジェクト P12
 (7) スマート農業普及拡大プロジェクト P13

戦略分野3:地域活性化

- (1) 中山間地域持続的農地保全推進プロジェクト P16
 (2) 中山間地域農業・農村活性化プロジェクト P17
 (3) 元気な地域づくり支援プロジェクト P18
 (4) 鳥獣被害防止対策プロジェクト P20
 (5) 再生可能エネルギー導入推進プロジェクト P21

基本戦略2:水田農業の収益性の向上

戦略分野1:土地利用型作物

- (1) 県産米ブランド化戦略プロジェクト P23
 (2) 需要に応じた米生産対策推進プロジェクト P26
 (3) 県産大豆評価向上・安定生産プロジェクト P27
 (4) 県産そばブランド化推進プロジェクト P28

戦略分野2:生産基盤

- (1) 水田農業低コスト化基盤整備促進プロジェクト P30
 (2) 農村インフラ機能保全プロジェクト P31

基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

戦略分野1:果樹

- (1) 山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト P32
 (2) 西洋なし産地ブランド強化プロジェクト P35
 (3) りんご産地生産力強化プロジェクト P36

- (4) ぶどう産地活性化プロジェクト P37
 (5) 「北の桃源郷」もも産地拡大プロジェクト P38
 (6) 特産果樹産地強化プロジェクト P39

戦略分野2:野菜

- (1) 山形えだまめ・すいか日本一産地化プロジェクト P41
 (2) 野菜産地ランクアッププロジェクト P42
 (3) やまがた野菜産地再生プロジェクト P43
 (4) やまがた次世代型施設園芸推進プロジェクト P45

戦略分野3:花き

- (1) 露地花き産地拡大プロジェクト P47
 (2) 施設花き生産性向上プロジェクト P48

戦略分野4:園芸産地の基盤強化

- (1) 園芸作物大規模集積団地推進プロジェクト P50
 (2) 水田畑地化基盤強化プロジェクト P51

基本戦略4:県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

戦略分野1:6次産業化

- (1) 農林漁業者自らの6次産業化プロジェクト P52
 (2) 農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化プロジェクト P54
 (3) 地域の6次産業化プロジェクト P57
 (4) 「農」と「食」による観光交流拡大プロジェクト P58
 (5) 6次産業化推進基盤確立プロジェクト P61

戦略分野2:流通販売・食文化発信

- (1) 「おいしい山形」流通戦略推進プロジェクト P64
 (2) 県産農産物等販路拡大プロジェクト P66
 (3) 「山形ブランド」評価向上プロジェクト P68
 (4) 食育・地産地消県民運動展開プロジェクト P69
 (5) 県産農産物等輸出拡大プロジェクト P70
 (6) 輸出基盤対策プロジェクト P72

戦略分野3:環境農業

- (1) エコ農産物生産推進プロジェクト P74
 (2) 有機農産物生産拡大・ブランド化プロジェクト P75
 (3) 安全農産物生産推進プロジェクト P76

基本戦略5:畜産業の競争力強化

戦略分野1:畜産生産

- (1) 地域で支える畜産クラスター推進プロジェクト P78
 (2) やまがたの和牛増頭加速化プロジェクト P79
 (3) 酪農生産性向上・消費拡大プロジェクト P80
 (4) 県産銘柄豚生産・販路拡大プロジェクト P81
 (5) 養鶏生産・販路拡大プロジェクト P82
 (6) やまがた畜産ブランド推進プロジェクト P83

戦略分野2:耕畜連携・自給飼料

- (1) 県産飼料生産拡大プロジェクト P84

基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

戦略分野1:人材育成

- (1) 森林ノミクスを支える人材育成・確保プロジェクト P86

戦略分野2:木材生産・加工

- (1) 再造林推進プロジェクト P89
 (2) 県産木材安定供給プロジェクト P90

戦略分野3:木材利用

- (1) 県産木材率先利用プロジェクト P93
 (2) 林工連携推進プロジェクト P94

戦略分野4:特用林産

- (1) やまがた山菜・きのこ日本一産地化プロジェクト P95

基本戦略7:水産業のさらなる振興

戦略分野1:海面漁業

- (1) 海面漁業生産基盤強化プロジェクト P97
 (2) 県産水産物付加価値向上推進プロジェクト P98
 (3) 県産水産物利用拡大プロジェクト P100

戦略分野2:内水面漁業

- (1) 内水面漁業振興プロジェクト P101

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略1:多様な人材が活躍できる農業経営の実現

戦略分野1:人材の育成・確保～意欲ある新規就農者の確保・育成と地域農業を支える多様な人材の確保～

[凡例]

・[新]:R2新規の取組み

・[拡]:拡充した取組み(一部新規を含む)

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 新たな担い手育成確保支援プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○地域の実情にあわせた新規就農者の確保・育成のため、就農意欲の喚起から就農定着、経営発展までの各段階に応じたプログラムの実践に取り組むとともに、熟練農業者からの農地と技術の一体的継承や異業種からの農業参入、集落営農の組織化等を推進する。</p> <p>【主担当課】 農業経営・担い手支援課 (一部農政企画課)</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農意欲の喚起から就農定着、経営発展までの各段階に応じたプログラムの実践への支援。 ・補助事業の活用や専門家派遣、経営塾の開催などにより、経営発展の取組みの支援。 ・学部・学科構成やカリキュラム編成等大学の具体的な事項を定める基本計画について、基本計画検討委員会を設置し検討を進めるとともに、新校舎の基本・実施設計等、キャンパス整備を実施。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 農業経営に係る成功事例の情報発信の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまがたアグリネットを活用し、農業に関心のある方に広く情報発信。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS活用による効率的な情報発信。 ・新規就農の優良事例集の作成と、各種イベント等での活用。 </div> <p>ii) 新規就農者の確保・育成対策</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまがた農業支援センターに設置しているワンストップ相談窓口において、各種相談に対応(受付件数 53 件) ・新規就農者向けのパンフレットを 3,000 部作成し、関係機関への配布や相談対応で活用。 ・農業専門求人情報業者のメーリングリストを活用したメールマガジンを発信(3回) ・令和2年度山形県・市町村・関係団体の新規就農者支援事業の紹介をホームページ掲載及び冊子 1,000 部作成。 ・国の農業次世代人材投資資金や県独自事業等による支援を実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業短期体験の実施による動機付けの強化。 ・首都圏における新・農業人フェアやUIターンフェアへの出展により就農希望者の相談対応の実施。 ・首都圏を中心に、全国の新規就農に興味を持つ人に対するSNS活用による情報発信。 ・国の農業次世代人材投資資金や県独自事業等による就農・定着支援。 </div> <p>iii) 農地と技術の一体的継承の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における遊休農地等を活用し、新規就農者への農地等の経営基盤と技術を円滑に継承するためのモデル的な取組を実施する地域を県内 7 か所選定、支援を実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離農予定の農地及び遊休農地等を活用した、新規就農者への農地等の経営基盤と技術の </div>	<p>【目標指標】 新規就農者数 (4年間の累計)</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 1,095 人 (H24～27 年度累計)</p> <p>【直近】 R1:1,001 人 (H29～R1 年度累計)</p> <p>【目標値】 R2:1,400 人 (H29～R2 年度累計)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者確保・育成支援事業費 ・独立就農総合支援事業費 ・地域の経営基盤と技術の継承支援事業費 ・農林業専門職大学設置推進事業費 ・農林大学校教務費 ・農林大学校人材育成研修費 <p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[新]農林業専門職大学等キャンパス整備事業費 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県農業再生協議会(担い手部会) ・新規就農者受入協議会

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>一体的継承の支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地と技術の一体的継承の取組みが県全域に拡大されるよう、県全体で研修会を開催し、受け皿となる協議会の組織化の支援。 <p>iv)「地域の担い手は地域で育てる」取組みの推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における遊休農地等を活用し、新規就農者への農地等の経営基盤と技術を円滑に継承するためのモデル的な取組を実施する地域を県内7か所選定、支援を実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離農予定の農地及び遊休農地等を活用した、新規就農者への農地等の経営基盤と技術の一体的継承の支援。 <p>v)農林大学校の新規就農支援</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>(養成部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教養科目に就農コース及び雇用就農コースを設置し、新規就農の支援(4コース制) ・年度当初在籍者114名の内訳 (就農コース18名、雇用就農コース12名、就職コース75名、進学コース9名) ○農業法人との就職相談会を1回実施(7/2 参加法人:32社、参加学生:65名) <p>(研修部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農支援研修を開講(受講者 1年目:23名、2年目:1名)、就農者の育成・確保に向けた研修会を実施。 <hr/> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>(養成部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業法人との就職相談会の実施。 <p>(研修部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了生の就農定着に向けて、当校研修部の就農研修アドバイザー等が研修修了生を巡回指導、課題解決のための相談活動の実施。 <p>vi)異業種からの参入支援</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外企業1社から農業参入の相談があり助言等を実施(1回) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業等の円滑な農業参入のための助言指導の実施。 ・農林水産省主催の「農業参入フェア」での企業等への情報提供。 <p>vii)集落営農の組織化対策</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化を目指す農業経営体に専門家アドバイザーを派遣し、助言指導を実施(農業経営体:32経営体、計37回) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p>			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化入門及び経営能力向上研修会・相談会の開催(県内4地域) ・法人化実践研修・相談会の開催(県内3地域) <p>viii) 明日の農林業を担う専門職大学構想の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部学科構成、カリキュラム編成等を定める基本計画を検討するため、基本計画検討委員会を設置し、検討委員会を2回(5/29、9/14)開催し、基本計画の中間報告を策定。 ・大学の名称を「東北農林専門職大学(仮称)」に決定。 ・「就農等支援検討PT」(事務局:農政企画課)を設置し、関係団体と連携して専門職大学卒業生が県内で就農・就業しやすい仕組み等を検討。 ・各総合支庁において「地域連携PT」(事務局:各総合支庁)を設置し、市町村、関係団体と連携して、専門職大学の実習先等、大学と地域の連携について検討。 ・「附属農林大学校機能強化検討PT」(事務局:農林大学校)を設置し、専門職大学の附属校となる農林大学校の人材育成方針や教育環境等を検討。 ・大学校舎の基本・実施設計の委託業者について、公募型プロポーザル方式により選定し、9月から設計業務を開始。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本計画の検討(基本計画検討委員会の設置等)(~R3) ・「就農等支援検討PT」、「地域連携PT」、「附属農林大学校機能強化検討PT」における検討(~R3) ・大学校舎の基本・実施設計(~R3) ・大学建設予定地にある、農林大学校旧学生寮の解体(~R3) </div> <p>③ 令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手を確保するため、動機付けとなる本県の支援策や農業の魅力などの情報発信の更なる強化が必要である。 ・新規就農者の約半数を占める雇用就農の受け皿となる農業法人等の経営発展の支援と、それを支える高度な人材を育成していく必要がある。 ・基本計画検討委員会などを設置し、R2. 9月に委員会において基本計画中間報告を策定。その後、大学名称を「東北農林専門職大学(仮称)」に決定するなど、予定どおり、大学設置に向けた検討が進んでいる。 ・今後は、専門職大学のR5.4月の開学に向け、教員の招聘や個別科目の具体的な内容の検討、多彩な臨地実務実習先の確保、校舎を始めとするキャンパス整備など、この大学に県内外から多くの学生が集まる魅力ある大学となるよう準備を進める必要がある。 			
<p>(2) 輝くアグリウーマン育成プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○ 将来の地域農業をリードする役割を担う女</p>	<p>① 令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリウーマン塾を継続開催し、新たに受講生を募集して、経営力を備えた将来の地域農業をリードする女性農業者を育成。 ・女性が生産現場で活き活きと活躍できる環境を整備。 ・各地域での女性農業者のリーダーの育成を推進。 	<p>【目標指標】</p> <p>① 女性農業士数(指導農業士+青年農業士)</p> <p>② 農業協同組合の役員</p>	<p>【ソフト】</p> <p>・輝くアグリウーマン育成事業費</p>	

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>性農業者の経営力向上を支援するとともに、各地域で女性農業者のリーダーを育成し、女性農業士等の確保を図る。</p> <p>【担当課】 農業技術環境課</p>	<p>・女性による地域資源を活かした起業化の取組みを支援。</p> <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 女性農業者のリーダー育成</p> <div data-bbox="385 288 1364 496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度アグリウーマン塾(目的:経営力向上)を開催し、14名が受講(開講式・第1回研修7/31、第2回8/26) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリウーマン塾の開催(実施回数:10月、12月、1月) ・インターンシップ研修等(随時)の実施(10月) </div> <p>ii) 農業経営における女性の活躍促進</p> <div data-bbox="385 549 1364 719" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリウーマン塾1～4期生のフォローアップ研修の実施(8/19、31、延べ参加者数:15人) <p>主な研修内容:家族経営における事業継承、資金繰り表の作成と継続するためのコツ等</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリウーマン塾1～4期生のフォローアップ研修の実施(10月) </div> <p>iii) 農林水産業ウーマノミクスの推進</p> <div data-bbox="385 772 1364 1078" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に作成した「中学生のための農業ガイドブック」を10,000部増刷し、「キャリア教育」を学習する中学2年生全員に配布、「農業」の魅力を発信(7月) ・やまがた女性農業者応援・相談窓口で農業とくらしに関する相談にワンストップで対応(H29,4.17～) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の継続設置。 ・若い女性農業者を対象とした地域学習会(11～12月)、県域の研修会(11月)を引き続き開催しながら、女性農業者のネットワークづくりを支援。 </div> <p>iv) 農協等における女性登用の促進</p> <div data-bbox="385 1131 1364 1374" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年役員改選の5JAに対し、会議や対話等の機会に登用を働きかけ。 ・女性役員不在の1JAが2名に登用し、県内15JA全てで女性役員が登用。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年及び令和4年の役員改選JAに対し引き続き、各種会議やヒアリング、農協との対話等の機会を活用し、女性役員登用と役員候補となる女性農業者育成の働きかけを実施。 ・特に、10%未満のJAに強力に働きかけ。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリウーマン塾を開催し、これまで64名がビジネスプランを作成し、修了した。 ・託児サービスを備えた若手女性農業者向けの講座のニーズと効果は大きく、アグリウーマン塾を 	<p>に占める女性の割合</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 ①34人(H27) ②7%(H28)</p> <p>〔直近〕 ①53人(R1) ②8.8%(R1)</p> <p>【目標値】 ①60人(R2) ②15%(R2)</p>		

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>今後も実施していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性相談員が対応しているので相談しやすいなど、女性農業者のためのワンストップ相談窓口の設置に加え、悩みの相談や、相互研鑽、農業へのモチベーションアップにつながるネットワークづくりを今後も支援していく必要がある(H29.4.17～) 女性役員の登用率が高いJA数は、15%以上2JA、10%以上 15%未満2JAであり、R2.9.30 現在の県全体の登用率は 9.5%に微増した。JA役員の任期は3年であり改選に向けて、候補者の発掘、育成が課題である。 			
<p>(3) 農業労働力確保プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○農業経営を支える農業労働力確保のための地域推進体制の整備とモデル的な取組みを進めるとともに、農福連携による障がい者の雇用・就労の取組み等を推進する。</p> <p>【担当課】 農業経営・担い手支援課 園芸農業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、JA無料職業紹介所の設置の推進と求人サイトのPRを行い、マッチングの拡大を推進。 庄内地域に農福連携推進員を新たに配置し、障がい者の施設外就労の拡大の推進。 外国人材の活用に向け、制度の周知やニーズの把握、相談対応等を実施。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 労働力の確保対策</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内向けに、チラシ等のほかラジオCM、ウェブ広告等新たなツールを活用してJA無料職業紹介所の広報を実施。 県内の大学等にチラシを設置し、農作業アルバイト募集の周知を実施(県内5大学等) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他産業従事者の副業や若い年齢層など、新たなターゲットの求職者に向けたマッチング方法として、1日単位の農業アルバイト募集アプリの導入に向けた検討を進め、一部JAで試験導入を実施。 </div> <p>ii) さくらんぼ労働力の確保[関連]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらんぼ労働力確保対策ワーキングチーム会議を開催(4月書面協議) 新たな雇用労働力確保に向け、新聞折込やフリーペーパー、求人情報サイト・ラジオCM [新]など、多様な媒体を活用したPRを実施(4～5月) JA 無料職業紹介所を通じた雇用者数は過去最高の 218 人(マッチング率 43%) さくらんぼ産地サポーター企業の募集拡大(5月、新規 23 社、計 72 社)[拡] さくらんぼ産地サポーター企業によるボランティア・アルバイト協力(5～6月、延べ 589 人)[新] 高校生やJAグループ職員、市・県職員有志等によるボランティア(6月、延べ 395 人) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらんぼ労働力確保対策ワーキングチーム会議の開催(11月) 労務管理等を学ぶ生産者向け研修会の開催(2月) 次年度のさくらんぼ作業員募集に向けたPRチラシの作成・配布(2月) 次年度求人者に向け「初心者向けさくらんぼ作業ガイドブック」の作成、配布(3月) </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 山形県農業労働力確保対策推進協議会の設置 無料職業紹介所設置JA数 さくらんぼ産地JA独自の労働力確保システム構築数 農業分野で障がい者就労に取り組む福祉施設の割合 <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> —(H27) 8JA(H27) 1JA(H27) 15%(H27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> 設置(H29) 10JA(R1) 5JA(R1) 27.0%(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> 設置(H29) 15JA(R2) 6JA(R2) 30%(R2) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業労働力確保等対策推進事業費 山形さくらんぼ生産力・ブランド力強化推進事業費 	<p>山形県農業労働力確保対策実施協議会</p> <p>さくらんぼ労働力確保対策ワーキングチーム(プロジェクト会議)</p> <p>農業労働力確保対策ワーキングチーム</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>iii) 農福連携の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農福連携プロジェクトチーム会議を開催(書面開催) 第1回PT会議 6/1 [令和元年度の事業実績、令和2年度の事業計画、地域部会について ほか] ・障がい者施設における農福連携の取組み促進のため、施設職員及び利用者を対象とした農業体験をしてもらう「農業体験会」を開催(7月～ 3回開催) ・農福連携マッチング状況 延べ人数 3,680 人(R2年8月) ・県内4ブロックの地域部会において、地域部会によるマッチングの拡充や地域単位でのセミナーの開催。 地域部会の開催 村山 8/5、置賜 7/27(書面)、庄内 6/18(書面) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内地域に農福連携推進員を配置し、マッチングの拡大推進[新] ・農業体験会を活用した、障がい者の施設外就労の拡大推進。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料職業紹介所を設置したJAは 10JA (R2年9月末現在) ・さくらんぼの労働力確保では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、県内求職者の掘り起こしを重点的に取組み、JA無料職業紹介所を通じた雇用数は過去最高となった。しかしながら、さくらんぼの農繁期における労働力はまだ不足していることから、1日単位で働けるアルバイトの募集等、新たなターゲットも視野に入れた取組みを継続していく必要がある。 ・農福連携プロジェクトチームを設置し、農業体験会の開催により就農の拡大を図っており、今後も、関係機関と連携しながら、「農福連携」の取組みを拡大していく必要がある。 ・外国人材の活用について更なる周知を図るとともに、具体的な取組みに向けた支援が必要である。 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略1:多様な人材が活躍できる農業経営の実現

戦略分野2:経営体育成～地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 農業トッパーナー育成・発展プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○地域農業を牽引し、生産力・収益性が高く、他産業並みの所得を確保できる「トッパーナー」の育成を加速化するとともに、より高い経営力と生産力を持ち企業的経営を実践する「スーパートッパーナー」への発展を促進するため、経営力の向上と一体となったオーダーメイド型の経営発展支援を展開する。</p> <p>【担当当該】 農業経営・担い手支援課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形県農業経営相談所」で実施する専門家派遣等による助言、規模拡大に当たっての補助事業の活用などによる支援を実施。 ・トッパーナーを目指す認定農業者に対する専門家アドバイザーの派遣や、スーパートッパーナーを目指す認定農業者を対象とした「やまがた農業経営実践塾」の開催により、経営管理能力の向上と経営発展を支援。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 農業経営の優良事例の情報発信の強化[関連]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良事例をホームページ等へ掲載 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた農業経営実践塾」による経営管理能力の修得支援[新] ・経営拡大に向けたソフト・ハード両面からの支援の実施。 ・認定農業者の研修会・交流会で県内の優良事例を紹介。 </div> <p>ii) トッパーナーの育成支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県農業経営相談所を運営(事務局:公益財団法人やまがた農業支援センター) ※農業者等の経営発展を支援するため、税理士などの専門家を派遣する専門家アドバイザー派遣事業を実施(農業経営体:32経営体、計37回) ※農業経営支援チーム・実践チームによる支援対象者のリストアップ及び専門家アドバイザー派遣事業を活用した税理士などの専門家の派遣による法人化、経営発展等のための助言・指導を実施。 ※各地域で農業経営支援チーム会議を開催。 (村山地域:7/22、最上地域:6/30、置賜地域:8/19、庄内地域 5/28 ※置賜地域以外は書面開催) ・経営発展の取組みに対するオーダーメイド型助成を実施(採択件数13件)。 * 専門家アドバイザー派遣事業で、専門家の助言によりビジネスプランを策定。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営相談所の専門家派遣による指導助言と農業経営支援チームのフォローアップによるトッパーナーの育成支援。 ・県単・国庫補助事業による経営拡大の支援。 </div> <p>iii) スーパートッパーナーの育成支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①トッパーナー数 ②スーパートッパーナー数(①の内数) ③販売金額 1,000万円以上の家族経営体数 ④販売金額 3,000万円以上の組織経営体数 ⑤生産農業所得 <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①957経営体(H27) ②128経営体(H27) ③2,351経営体(H27) ④199経営体(H27) ⑤851億円(H26) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①- ②- ③3,200経営体(R1) ④515経営体(R1) <p>※参考値 認定農業者の法人経営体数</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑤1,080億円(H30) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①2,000経営体(R2) ②260経営体(R2) ③3,500経営体(R2) ④550経営体(R2) ⑤1,100億円(R2) 	<p>【ハード・ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な農業経営による所得1.3倍プロジェクト事業費(オーダーメイド型助成) <p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強い農業・担い手づくり総合支援事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な農業経営による所得1.3倍プロジェクト事業費(やまがた農業経営塾の運営、ビジネスプラン策定支援) 	<p>(県域組織)</p> <p>《平成30年度》 山形県農業経営相談所(事務局:公益財団法人やまがた農業支援センター)</p> <p>(地域組織)</p> <p>農業経営支援チーム(4チーム) 実践チーム(8チーム)</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・山形県農業経営相談所を運営(事務局:公益財団法人やまがた農業支援センター)[再掲] ※農業者等の経営発展を支援するため、税理士などの専門家を派遣する専門家アドバイザー派遣事業を実施。(農業経営体:32 経営体、計 37 回) ※農業経営支援チーム・実践チームによる支援対象者のリストアップ及び専門家アドバイザー派遣事業を活用した税理士などの専門家の派遣による法人化、経営発展等のための助言・指導を実施。 ※各地域で農業経営支援チーム会議を開催。 (村山地域:7/22、最上地域:6/30、置賜地域:8/19、庄内地域 5/28 ※置賜地域以外は書面開催) ・実践的な研修を通じて経営能力を習得するため、「やまがた農業経営実践塾」を開催 受講者 14 名(7/29 開講式、全 10 回中 4 回の講座を開催) ・経営発展の取組みに対する助成(国庫補助事業の活用 採択数:58 経営体)</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた農業経営実践塾」による経営管理能力の向上、スマート農業の導入促進による経営発展の支援[新] ・経営相談所の専門家派遣による指導助言の実施。 ・規模拡大に向けた補助事業での支援。 ・やまがた農業経営塾の開講(実施回数:年 12 回) <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の支援により経営改善が進み、販売金額1,000万円以上の家族経営体数は3,200経営体(R元年度)に増加した。(H27 年度 2,351 経営体) ・支援対象者に対し、農業経営支援チーム・実践チームの伴走支援により、経営力向上と農業経営の法人化を促進していく必要がある。 ・支援対象者数が少ない地域があることから、引き続き農業経営支援チームによる支援対象者のリストアップと支援が必要である。 			
<p>(2) 農業経営力向上支援プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○意欲ある農業者の経営発展に向け、経営力の向上と農業経営の法人化を促進する。</p> <p>【主担当課】 農業経営・担い手支援課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種施策による法人化への誘導や法人化後の経営発展の支援を継続して実施。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 農業経営の法人化の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県農業経営相談所を運営(事務局:公益財団法人やまがた農業支援センター)[再掲] ※農業者等の経営発展を支援するため、税理士などの専門家を派遣する専門家アドバイザー派遣事業を実施(農業経営体:32 経営体、計 37 回) ※農業経営支援チーム・実践チームによる支援対象者のリストアップ及び専門家アドバイザー派遣事業を活用した税理士などの専門家の派遣による法人化、経営発展等のための助言・指導を実施。 ※各地域で農業経営支援チーム会議を開催。 	<p>【目標指標】 農業法人数(認定農業者)</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 401 法人(H27) 【直近】 515 法人(H30)</p> <p>【目標値】 800 法人(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の経営発展促進事業費 ・農業経営法人化等総合支援事業費 	<p>(県域組織) 山形県農業経営相談所(H30～)</p> <p>(地域組織) 農業経営支援チーム</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>(村山地域:7/22、最上地域:6/30、置賜地域:8/19、庄内地域 5/28 ※置賜地域以外は書面開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた農業経営塾」を開催 受講者 17 名(6/7 開講式～9/6、全 6 回)[再掲] <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県農業経営相談所による専門家派遣指導・助言の実施。 ・農業経営支援チーム・実践チームによるフォローアップの実施。 ・農業経営の法人化に要した経費に対する補助の実施。 ・やまがた農業経営塾の開講(実施回数:年 12 回)【再掲】 <p>ii) 農林大学校における経営力向上支援</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた農業経営実践塾」の開講(7/29 開講式～実施回数:年 11 回、受講者数:14 名)【再掲】 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた農業経営実践塾」の開講【再掲】 ・乳製品加工研修の開講(随時) ・農業経営力養成基礎講座、農業簿記ソフト活用講座の開講(実施回数:各年1回) <p>iii) 明日の農林業を担う専門職大学構想の推進[関連]</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部学科構成、カリキュラム編成等を定める基本計画を検討するため、基本計画検討委員会を設置し、検討委員会を2回(5/29、9/14)開催し、基本計画の中間報告を策定。 ・大学の名称を「東北農林専門職大学(仮称)」に決定。 ・「就農等支援検討PT」(事務局:農政企画課)を設置し、関係団体と連携して専門職大学卒業生が県内で就農・就業しやすい仕組み等を検討。 ・各総合支庁において「地域連携PT」(事務局:各総合支庁)を設置し、市町村、関係団体と連携して、専門職大学の実習先等、大学と地域の連携について検討。 ・「附属農林大学校機能強化検討PT」(事務局:農林大学校)を設置し、専門職大学の附属校となる農林大学校の人材育成方針や教育環境等を検討。 ・大学校舎の基本・実施設計の委託業者について、公募型プロポーザル方式により選定し、9月から設計業務を開始。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本計画の検討(基本計画検討委員会の設置等)(～R3) ・「就農等支援検討PT」、「地域連携PT」、「附属農林大学校機能強化検討PT」における検討(～R3) ・大学校舎の基本・実施設計(～R3) ・大学建設予定地にある、農林大学校旧学生寮の解体(～R3) <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者 9,966 経営体のうちの法人数は 515 経営体へと増加した。 ・農業経営相談所の専門家派遣で指導・助言を受けた 188 農業経営体のうち、43 経営体が派遣後 			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議					
	<p>に法人化し、24 経営体が法人化を検討している。(H30 年度～R2 年 9 月末累計)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落営農組織 487 組織のうちの法人数は 133 組織で、前年より増加した。 ・今後とも、農業経営支援チームによる支援対象者のリストアップを進めるとともに、ソフト・ハード両面が一体となった支援を通じて、地域農業をけん引する競争力の高い経営体の育成を推進していく必要がある。 								
<p>(3) 農業者ネットワーク化支援プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○全国の担い手と交流、情報交換を行うための全国農業担い手サミットの開催や県内の認定農業者、青年農業者等のネットワーク化により相互研鑽を促進し、意欲ある農業者の自立・発展を支援する。</p> <p>【担当課】 農業経営・担い手支援課 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県認定農業者協議会の事業推進に対して、引き続き連携を図り支援を実施。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 認定農業者組織の活性化</p> <table border="1" data-bbox="387 539 1364 707"> <tr> <td data-bbox="387 539 1364 603"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県認定農業者協議会の円滑な事業推進に向けた助言を実施。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 603 1364 707"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県認定農業者協議会の円滑な事業推進に向けた助言の実施。 ・山形県認定農業者協議会による研修会の開催。 </td> </tr> </table> <p>ii) やまがた元気な農業チャレンジネットワーク</p> <table border="1" data-bbox="387 762 1364 1034"> <tr> <td data-bbox="387 762 1364 930"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面協議による理事会の実施(6/12) ・対面及びリモートによる第2回理事会の開催(9/7) ・新型コロナウイルス感染症の状況をふまえた今後の活動についての意見交換(地区ごと)を実施。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 930 1364 1034"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況をふまえつつ、会員の資質向上を図り、互いに切磋琢磨して経営発展につなげるための研修会等の開催(12月) </td> </tr> </table> <p>iii) 「全国農業担い手サミット」の開催</p> <table border="1" data-bbox="387 1090 1364 1193"> <tr> <td data-bbox="387 1090 1364 1193"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第21回全国農業担い手サミット in やまがた実行委員会を4月に設立。 ・第21回全国農業担い手サミット in やまがたを11月に開催。 </td> </tr> </table> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員の資質向上と交流が促進され、自立的な運営が図られた。 	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県認定農業者協議会の円滑な事業推進に向けた助言を実施。 	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県認定農業者協議会の円滑な事業推進に向けた助言の実施。 ・山形県認定農業者協議会による研修会の開催。 	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面協議による理事会の実施(6/12) ・対面及びリモートによる第2回理事会の開催(9/7) ・新型コロナウイルス感染症の状況をふまえた今後の活動についての意見交換(地区ごと)を実施。 	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況をふまえつつ、会員の資質向上を図り、互いに切磋琢磨して経営発展につなげるための研修会等の開催(12月) 	<p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第21回全国農業担い手サミット in やまがた実行委員会を4月に設立。 ・第21回全国農業担い手サミット in やまがたを11月に開催。 	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①山形県認定農業者協議会の設置 ②全国農業担い手サミットの開催 <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①- ②- <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①設置(H29) ②開催(H30) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①設置(H29) ②開催(H30) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の経営発展促進支援事業費 	<p>山形県認定農業者協議会(H29～)</p>
<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県認定農業者協議会の円滑な事業推進に向けた助言を実施。 									
<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県認定農業者協議会の円滑な事業推進に向けた助言の実施。 ・山形県認定農業者協議会による研修会の開催。 									
<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面協議による理事会の実施(6/12) ・対面及びリモートによる第2回理事会の開催(9/7) ・新型コロナウイルス感染症の状況をふまえた今後の活動についての意見交換(地区ごと)を実施。 									
<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況をふまえつつ、会員の資質向上を図り、互いに切磋琢磨して経営発展につなげるための研修会等の開催(12月) 									
<p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第21回全国農業担い手サミット in やまがた実行委員会を4月に設立。 ・第21回全国農業担い手サミット in やまがたを11月に開催。 									
<p>(4) 担い手農地集積・集約化促進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○市町村や農業委員会</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農水省が規定する「プラン実質化」要件を満たすプランへの移行作業を支援し、より一層の集積等へつながるよう地域での話し合いの推進。 ・引き続き、人・農地プランの実質化に向けた、地域での話し合いやマッチング活動等の市町村の取組みを支援するとともに、農地利用最適化推進委員等による積極的な農地利用の最適化活動の推進。 	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①担い手への農地集積率 ②農地中間管理機構を活用した新規集積面 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人・農地問題解決加速化支援事業費 ・農地中間管理事業費 ・農地集積推進事業費 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県農地集積・集約化推進会議 					

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>等による地域での話し合い、マッチング活動を支援するとともに、県内全域で農地中間管理機構の活用を促進し、担い手への農地の集積・集約化を推進する。</p> <p>【主担当課】 農業経営・担い手支援課 農村計画課</p>	<p>・県内全域で農地中間管理機構の活用を促進し、担い手への農地の集積・集約化の推進。</p> <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 農地利用の最適化の促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>・人・農地プラン実質化を契機とした農地集積・集約化の推進に向けて、令和2年度農地集積・集約化推進会議を開催(8/4)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・令和2年度までのプラン実質化を目指し、工程表に基づいた取組みが行われるよう、定期的に進捗状況の確認の実施。</p> </div> <p>ii) 農地中間管理機構の活用促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>・市町村長・JA組合長・農業委員会・土地改良区との意見交換会を開催(12回)</p> <p>・農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPRを実施。(事業説明会(3回:6/30、7/10、8/4)、協力金概要説明や算定例を配布(7回))</p> <p>・農地中間管理事業活用事例の情報収集及び情報発信を実施。 農林水産省HP並びに農政局HPへの優良事例に掲載(6~7月)、ラジオ(2回:7/31、9/25)、新聞(2回:4/23、8/13)</p> <p>・農地中間管理事業のモデル地区及び重点実施区域を指定し、農地整備事業との連携を推進。(重点実施地区312地区、モデル地区111地区を4/1に指定)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・市町村等担当者との意見交換会の開催。</p> <p>・市町村長・土地改良区理事長等との意見交換の実施。</p> <p>・農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPRの実施。</p> <p>・農地中間管理事業活用事例の情報収集及び情報発信の実施。</p> <p>・農地中間管理事業のモデル地区及び重点実施区域を指定し、農地整備事業との連携を推進。</p> <p>・機構集積協力金制度の活用に向けたアンケートの実施と個別意見交換の開催。</p> </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <p>・各種補助・支援策ともつながる「実質化した人・農地プラン」を2年間で作成する必要があるが、膨大な作業量となることから、見直し作業を円滑に進められるよう県農業会議等とも連携し、国庫補助事業を活用しながら支援していく必要がある。</p> <p>・平成26年度から始まった農地中間管理事業による新規集積面積は、令和2年3月末現在で5,372haとなっているが、更なる農作業の省力化と生産性の向上を図るため、人・農地プランを核とした取組みにより農地の集積・集約化を推進する必要がある。</p>	<p>積(累計)</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 ①60.2%(H27) ②2,146ha(H27) 〔直近〕 ①66.4%(R1) ②5,372ha(R1)</p> <p>【目標値】 ①78.0%(R2) ②6,050ha(R2)</p>		
<p>(5) 農業情報発信力強化プロジェクト</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <p>・「あくりんフェイスブック」の情報拡散機能等を活用して情報発信の強化。</p>	<p>【目標指標】 県農業情報サイト「あ</p>	<p>【ソフト】 ・やまがたアグリネット運営</p>	<p>やまがたアグリネット運営会議(同</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>【プロジェクトの方向性】 ○農業者の経営改善に役立つ先端技術や支援施策に関する情報の充実と発信力の強化に取り組む。</p> <p>【担当課】 農業技術環境課</p>	<p>・農業者の経営改善に役立つ先端技術や支援施策に関する情報の充実強化。</p> <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) あぐりんの利用促進</p> <div data-bbox="385 288 1364 392" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ「農業一ロメモ」の中で紹介(4月) ・農業技術普及課において、全農家配布の「普及だより」でPRの実施(4月、5月) </div> <div data-bbox="385 392 1364 528" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ「農業一ロメモ」の中で紹介。 ・農業技術普及課において、全農家配布の「普及だより」でPRの実施。 ・農業高校5校において農業情報活用に関する出前講座の実施。 </div> <p>ii) あぐりんを活用した情報発信の充実強化</p> <div data-bbox="385 584 1364 719" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各作業部会で掲載する情報の計画作成(5月、6月) ・ICT等先端技術情報の掲載(スマート農業普及推進事業の取組状況、スマートすいかだよりを掲載) </div> <div data-bbox="385 719 1364 823" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT等先端技術情報の掲載(スマート農業普及推進事業の取組状況を含む) ・農業者向け「補助金等逆引事典」の更新。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の「あぐりん」の訪問者数は約143万人(前年比105%)と平成28年度以降増加傾向にあり、引き続き「あぐりん」に掲載する情報の充実強化に取り組んでいく必要がある。 	<p>「あぐりん」への年間訪問者数</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 645,000件(H27)</p> <p>【直近】 1,433,647件(R1)</p> <p>【目標値】 1,400,000件(R2)</p>	<p>事業費</p>	<p>作業部会)</p>
<p>(6) 農業経営セーフティネット強化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○気象災害や価格変動に対応できる農業経営の実現に向け、収入保険制度や農業共済等の各種セーフティネットの活用を促進する。</p> <p>【担当課】 団体検査指導室 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象災害や価格変動に対応できる農業経営の実現に向け、農業保険(収入保険や農業共済)等各種セーフティネットの活用を促進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 収入保険への加入促進</p> <div data-bbox="385 1166 1364 1334" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省の令和2年度新規事業「収入保険加入支援事業」の母体となる山形県収入保険推進協議会に会員として参画。令和2年7月14日に設立及び第1回通常総会が開催され、事業実施にあたり関係者が連携して加入推進を支援。 ・県民のあゆみ7月号に収入保険の周知と加入促進の記事を掲載。 ・令和2年3月6日付け部内関係課に、県単独補助事業に係る農業保険に係る加入推進を文書で依頼。加入の要件化、働きかけ、受益者の個人情報提供などの取組を呼びかけ。 </div> <div data-bbox="385 1398 1364 1501" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加入の前提となる青色申告承認者数を増やすため、青色申告研修会及び同個別相談会を、山形県農業共済組合との共催により開催。 </div>	<p>【目標指標】 収入保険制度の加入の前提となる青色申告承認者数</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 9,643人(H27)</p> <p>【直近】 10,685人(R1)</p> <p>【目標値】 13,000人(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業協同組合等検査強化対策費(収入保険制度活用推進事業) ・農業共済事業指導対策費 	<p>山形県収入保険制度普及推進協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>ii) 果樹のセーフティネットへの加入促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月6日付け部内関係課に、県単独補助事業に係る農業保険に係る加入推進を文書で依頼。加入の要件化、働きかけ、受益者の個人情報の提供などの取組みを呼びかけ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青色申告研修会、普及指導活動時、その他各種会議等の場、更には広報誌やチラシ等各種広報媒体を活用し、果樹共済や収入保険の説明と加入を呼びかけ。 </div> <p>iii) 水稲のセーフティネット加入率の維持</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月6日付け部内関係課に、県単独補助事業に係る農業保険に係る加入推進を文書で依頼。加入の要件化、働きかけ、受益者の個人情報の提供などの取組みを呼びかけ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青色申告研修会、普及指導活動時、その他各種会議等の場、更には広報誌やチラシ等各種広報媒体を活用し、水稲共済や収入保険の説明と加入を呼びかけ。(継続実施) </div> <p>iv) 農業作業中の事故防止に向けた啓発</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の重点期間中に、広報車による巡回、啓発チラシの配布、HP やラジオでの広報、各種研修会や会議での呼びかけ等を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ○農作業事故防止啓発運動における春期(4/1-6/10) ○さくらんぼの時期(5/24-7/10) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作業事故防止啓発運動の実施。 ・やまがたアグリネットによる作業安全啓発、資料の提供。 ・農作業事故防止関係研修の実施。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営収入保険制度(収入保険)の周知は進んでいるが、加入者を確保するには、収入保険の加入対象者である青色申告者をさらに増やす必要がある。一方、高齢化による廃業で青申取りやめ者増の傾向も見られる。次期戦略においては、青申承認者数を確保しながら、収入保険の加入に踏み切れない農業者を後押しするような支援を検討する必要がある。 ・平成31年産から水稲共済が当然加入から任意加入に移行しており、引き続き、水稲共済、ナラシ対策又は収入保険のいずれかのセーフティネットへの加入を促進する必要がある。 			
<p>(7) スマート農業普及拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○ICT等の先端技術を活用した農業生産性</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スマート農業」の導入に向け、省力化・軽労化などの視点から技術開発を図るとともに、民間企業、JA等と一体となり、県内各地の現地ほ場において新技術の実証により普及拡大を推進。 <p>②令和2年度の本来的な取組みの内容</p> <p>i) 少ない労力のできる農業の実現</p>	<p>【目標指標】</p> <p>県内における「スマート農業」の取組件数(累計)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸大国やまがた推進事業費 <p>【ソフト】</p>	

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>の向上などに繋がる「スマート農業」を実現するため、新たな技術開発を行い、新技術の実証や導入を促進する。</p> <p>【主担当課】 農業技術環境課 畜産振興課</p>	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か所のほ場に設置した給排水遠隔制御装置を稼働。越冬後の操作パネル動作やバッテリーに不調があったため、冬期間の管理方法を検討。現地検討会等で実演(7/3 舟形町・50人、6/17 酒田市・60人)。 ・すいかの作業工程管理をIT管理ツールで実施。つる引きの整枝管理と摘果の時間短縮について取組み。 ・試験研究では、以下の4課題を実施中 <p>ICTを活用したアルストロメリアの環境制御技術開発、将来の産地構造に対応したおうとう新樹形の栽培管理技術の開発、おうとうの機械収穫技術の開発、省力大規模生産を可能とするすいか栽培技術の開発</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給排水遠隔制御装置の最終年次の実証により、普及に向けた方策の提示。 ・多様なIT管理ツールによる作業工程管理の実証により、普及に向けた方策の提示。 ・試験研究では、すいか栽培に係る新規課題を含む4課題の実施。 <p>ii)生産性が高い農業の実現</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんご・すいかの病害感染予測のため、小型気象観測装置を、りんご、すいかのほ場各5か所に設置し、ほ場における気象観測を実施。 ・すいかでは、病害感染予測メールを配信。 ・りんごでは構築したシステムから、感染予測メールを県関係者へ配信、稼働状況をチェック。 ・試験研究では、以下の7課題を実施中。 <p>バラのスマートハウス活用技術開発、トマトの次世代型低コスト大型ハウスの実証、スマート農業の普及を加速化する衛星情報を活用した県オリジナル水稻品種の生育診断技術の開発、ICTの活用による大規模稲作に対応した土壌診断技術の確立、高収益ホウレンソウ周年栽培技術の開発、トマトの新たな栽培体系の確立とスマートハウスによる環境制御技術の最適化、大玉トマト栽培の見える化と安定栽培技術の確立</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場における気象観測と病害感染予測メール配信の最終年次の実証により、普及に向けた方策の提示。 ・試験研究では、水稻、トマト栽培に係る新規課題を含む7課題の実施。 <p>iii)意欲ある若手への熟練技術の継承</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスきゅうり栽培管理のモニタリングによる技術継承システムの実証を継続実施。篤農家と若手農家のハウス内温湿度と生育データを比較し、若手に改善策を提案。促成栽培(4月～6月収穫)では、生育初期の加温、葉面散布による湿度確保、摘心位置の見直しによる葉面積確保等を実践(収量は取りまとめ中)。抑制栽培(8月下旬～11月収穫)では、過去2年のハウス内が高温乾燥傾向だったことを受け、ミスト散水装置を導入。 ・試験研究では、養豚の「画像解析技術による母豚のボディコンディショニング手法確立」を実 	<p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】 23件(H29)</p> <p>【直近】 77件(R1)</p> <p>【目標値】 90件(R2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用型作物技術開発事業費 ・やまがたスマート農業普及推進事業費 ・野菜産地ランクアッププロジェクト事業費 ・試験研究費 ・園芸作物基盤技術開発事業費 ・山形さくらんぼ生産力・ブランド力強化推進事業費 ・技術革新による「園芸大國やまがた」加速化事業費 ・環境と調和した農業技術開発事業費 	

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>施中。</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスきゅうり栽培管理のモニタリングによる技術継承システムの最終年次実証のうえ、普及のための方策の提示。 ・試験研究では養豚の1課題の実施。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証に取り組んでいる技術については、水稻の水管理の省力化などの成果を得ている。経営における費用対効果の確認のため、実証による検証を継続する必要がある。 ・研究課題は、開発目標に対する研究成果を検証しながら、課題終了時には農業者が活用できる技術を組み立てる必要がある。 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略1:多様な人材が活躍できる農業経営の実現

戦略分野3:地域活性化～地域資源をフルに活用した多様なスモールビジネスによる所得確保と活力ある地域づくり～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 中山間地域持続的農地保全推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○傾斜地など営農条件が不利な地域の持続的な農業推進に向けて、農業生産条件の不利を補正する政府の支援制度やそれを補完する県単独事業などの支援施策を最大限活用して、中山間地域の農地保全の取組みを支援する。</p> <p>【担当課】 農村計画課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続的な農業の推進に向けて、支援制度の充実等を政府に施策提案するとともに、市町村とともに集落に対する指導をきめ細かにいき、政府と県の施策を最大限に活用して支援を実施する。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 中山間地域等の農地保全</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は中山間地域等直接支払制度の期替り時となり取組面積の減少が危惧さえることから、市町村担当者を対象に制度の変更点に係る説明会を実施(6/17、19) ・中山間地域等直接支払制度における加算措置の活用促進に向け、市町村担当者を対象に加算措置を活用する場合の目標値の設定方法について、WS形式による検討会を実施(6/17、19) ・集落における将来の営農体制の構築を図るため、中山間地域等直接支払制度における集落戦略作成の手引きの作成・周知(6/19) ・中山間地域における農地等の管理省力化を図るため、スマート農業機材の導入を支援(4件) ・荒廃農地の再生作業への支援(3地区) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県が主導し市町村とも協働して人と農地の問題等を話し合う集落戦略の策定をモデル的に行う「実践的集落戦略モデル支援プロジェクト」の実施(8地区) </div> <p>ii) 多面的機能を支える共同活動の支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村職員を対象に多面的機能支払制度の制度変更点の説明会を実施(6/17、19) ・総合支庁担当者を対象に多面的機能支払制度の取組面積の維持・拡大に向けた推進方法について、WS形式の検討会を実施(7/9) ・多面的機能支払制度において事務作業等の負担軽減効果の高い活動組織の広域化等の取組事例発表会の開催(9/9) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能支払制度の期替り時において次期の活動が継続して行われるよう、役員や事務担当者を対象とした活動の手引きの作成・周知(11月) </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域等直接支払制度の取組面積は、これまで、期替り時において大きく減少してきたが、令和2年度の期替り時においては、令和元年度とほぼ同程度の取組面積となる見込み。今後、人口減少や高齢化の進展により、活動を断念する集落がさらに増加することが懸念されることから、人と農地の問題や地域の将来像等、実践的な集落戦略の策定に向けた地域の話し合いを支援 	<p>【目標指標】 中山間地域の農地保全取組面積</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 7,853ha (H27)</p> <p>【直近】 8,516ha (R1)</p> <p>【目標値】 8,300ha (R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域等直接支払制度費 ・多面的機能支払交付金 <p>【ソフト・ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばる中山間農業・農村省力化パイロット事業 <p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまがた「人・農地」リニューアル事業 	<p>山形県農村環境保全推進委員会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能支払制度については、役員や事務作業を引き継げる人材の不足が主な要因となり、令和2年度の取組面積は前年度より減少している。活動を行う多くの組織がリーダー不在や事務負担等の課題を抱えていることから、今後とも活動継続に向けた支援を行う必要がある。 			
<p>(2) 中山間地域農業・農村活性化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○中山間地域の農地を有効に活用するため、地域での話し合い、マッチング活動を支援し、さらに、規模の小さい農家であっても営農を継続していくための付加価値の高い農業経営への転換や地域の活性化を図るための多様なスモールビジネスの展開を促進する。</p> <p>【主担当課】 農村計画課 農政企画課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の農地を有効に活用するため、市町村や農業委員会等による地域での話し合い、マッチング活動を支援するとともに、農地中間管理機構の活用を促進し、担い手への農地の集積化を推進。 ・農林漁業者等により、農山漁村の持続的な発展に資する、地域資源を活用した付加価値創出の取組みをオーダーメイド型で幅広く支援。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p>i) 中山間地域の条件不利地での農地集積の促進</p> <div data-bbox="387 603 1364 906" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村長・JA組合長・農業委員会・土地改良区との意見交換会を開催(12回) ・農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPRを実施(事業説明会(3回:6/30、7/10、8/4)、協力金概要説明や算定例を配布(7回)) ・農地中間管理事業活用事例の情報収集及び情報発信を実施。 農林水産省HP並びに農政局 HP への優良事例に掲載(6~7月)、ラジオ(2回:7/31、9/25)、新聞(2回:4/23、8/13) ・農地中間管理事業のモデル地区及び重点実施区域を指定し、農地整備事業との連携を推進(重点実施地区312地区、モデル地区111地区を4/1に指定) </div> <div data-bbox="387 906 1364 1145" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村等担当者との意見交換会の開催。 ・市町村長・土地改良区理事長等との意見交換の実施。 ・農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPRの実施。 ・中山間地域の条件不利地における農地中間管理事業活用事例の情報収集及び情報発信の実施。 ・中山間地における農地中間管理機構関連農地整備事業の実施。 ・機構集積協力金制度の活用に向けたアンケートの実施と個別意見交換の開催。 </div> <p>ii) 小規模な稲作農家への支援</p> <div data-bbox="387 1198 1364 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業で1事業者を採択 </div> <div data-bbox="387 1265 1364 1369" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業に係る機器等導入・活用計画の審査の実施 ・事業者からの相談内容に応じたフォローアップの実施 </div> <p>iii) 地域資源を活用したスモールビジネスの創出支援[関連]</p> <div data-bbox="387 1422 1364 1490" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業で12事業者を採択 </div>	<p>【目標指標】 中山間地域における農地中間管理機構を活用した新たな貸付面積</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 573ha(H27) 〔直近〕 516ha(R1)</p> <p>【目標値】 580ha(R2)</p>	<p>【ハード】 ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業費</p> <p>【ソフト】 ・農地中間管理事業費 ・農地集積推進事業費 ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業費</p>	<p>・山形県農地集積・集約化推進会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業において令和2年7月 27 日からの大雨により被害が生じた地域資源を活用した取組みを追加募集 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業に係る機器等導入・活用計画の審査の実施 ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業において令和2年7月 27 日からの大雨により被害が生じた地域資源を活用した取組みの追加採択 ・事業者からの相談内容に応じたフォローアップの実施 ・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導する事業相談会の開催(総合支庁単位) <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の農地の有効活用に向け、地域での話し合いやマッチング活動など継続した支援を行っているが、引き続き各々の地域の実情を踏まえつつ、担い手を確保し農地の集積を推進する必要がある。 ・農山漁村の中小規模の農家など地域を支えている方々が今後も継続して活躍できるよう、地域資源を活用した付加価値創出の取組みをオーダーメイド型で支援しており、取組みの実施を通じて地域の活性化に寄与している。今後も、農林漁業者等のニーズと地域資源を踏まえた活性化の方向性に応じて、6次産業化や高付加価値作物の導入など多様な取組みの芽出しを幅広く支援する必要がある。 			
<p>(3) 元気な地域づくり支援プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○豊富な農産物などの地域資源と女性や若者等の力を活かし、付加価値や働く場を生み出す地域内起業を促進させるとともに、多様な産業分野、業種・業界の垣根を越えた連携・協同による「地域の統合力」を発揮させる。</p> <p>【主担当課】 農政企画課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きケーススタディを実施するのと併せて、ケーススタディ全体の分析と活動の検証を行いながら、モデル事例として整理し、今後の地域づくりの指針となるものを取りまとめ。 ・農林漁業者等により、農山漁村の持続的な発展に資する、地域資源を活用した付加価値創出の取組みをオーダーメイド型で幅広く支援。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 元気な地域づくりの活動支援</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化の取組み意欲が高い5地区のケーススタディを実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化の取組み意欲が高い5地区でのケーススタディの実施。 ・地域づくりの話し合いや計画づくりを支援する8地区(総合支庁ごとに2地区)での実践に向けた合意形成のためのワークショップの実施。 <p>ii) 地域づくりリーダーの育成・確保</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、本年度のリーダー育成講座の開催の可否について講師と意見交換。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり推進の運営技術等を習得する、リーダー育成のための講座の開催。 	<p>【目標指標】</p> <p>①県の支援により活力ある地域づくりの実践に取り組む件数(H26からの累計)</p> <p>②市町村等における新たなアグリランド構想の策定数</p> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <p>①7件(H27)</p> <p>②-</p> <p>【直近】</p> <p>①24件(R1)</p> <p>②1件(R1)</p> <p>【目標値】</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な地域づくり支援プロジェクト事業費 ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業費 	<p>元気な地域づくりプロジェクト戦略会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>iii) 地域資源を活用したスモールビジネスの創出支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業で12事業者を採択【再掲】 ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業において令和2年7月27日からの大雨により被害が生じた地域資源を活用した取組みを追加募集【再掲】 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業に係る機器等導入・活用計画の審査の実施【再掲】 ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業において令和2年7月27日からの大雨により被害が生じた地域資源を活用した取組みの追加採択【再掲】 ・事業者からの相談内容に応じたフォローアップの実施【再掲】 ・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導する事業相談会の開催(総合支庁単位)【再掲】 </div> <p>iv) アグリランド構想モデルの策定支援・創出[関連]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリランド構想を含む道の駅基本計画の策定支援のため東根市でケーススタディを実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリランド構想を含む道の駅基本計画の策定支援のため東根市でケーススタディを引き続き実施。 </div> <p>iv) さくらんぼを核とした国内外への情報発信の強化【新規】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくらんぼ県やまがた」の国内外への情報発信の強化に向け広く意見を聴取し具体的な取組みに繋げていくため、「さくらんぼ県やまがた」情報発信検討部会において検討を実施。 <ul style="list-style-type: none"> * 農業・観光関係団体や果樹生産者、流通事業者、果樹園芸・地域活性化の学識経験者等で構成する検討部会を設置(6月) * 県内の高校生、大学生、若手経済人など次代を担う若者の意見も聴取しながら、「さくらんぼ県やまがた」の国内外への情報発信のあり方等について検討を実施(6月～9月) * 9月1日、「やまがたのおいしいくだもの情報館の整備」「四季、地域を通じた様々な果物のリレーによる観光の推進」等の6つの具体的なアイデアを含む提言書を知事に手交。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討部会の提言書に盛り込まれた6つのアイデアの実現に向けた実現可能性等の検証・検討の実施。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の各ブロックでケーススタディを実施しているが、それぞれの地域において、目標の達成に向けた検討が進められている。今後、ケーススタディの実施を通して、県内各地域に適した取組みのモデルを創出するとともに、その成果を波及させていくため、地域の取組み意欲を高める方策を検討する必要がある。 ・農山漁村の中小規模の農家など地域を支えている方々が今後も継続して活躍できるよう、地域資 	<p>①27件(R2)</p> <p>②8件(R2)</p>		

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>源を活用した付加価値創出の取組みをオーダーメイド型で支援しており、取組みの実施を通じて地域の活性化に寄与している。今後も、農林漁業者等のニーズと地域資源を踏まえた活性化の方向性に応じて、6次産業化や高付加価値作物の導入など多様な取組みの芽出しを幅広く支援する必要がある。【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリランド構想の策定に取り組む1地区について、地域の実情に合った構想が策定されるよう支援を継続していく必要がある。また、アグリランド構想の策定に取り組む市町村の拡大に向け、構想策定を具体的に後押しする仕組み等を検討する必要がある。 ・「さくらんぼ県やまがた」情報発信検討部会において、若者の意見を聴取しながら集中的に議論を行っていただいた結果、9月1日、知事に対し、6つの具体的なアイデアを含む提言をいただくことができた。広い視野と新たなアイデアを含む提言内容の実現に向け、その実現可能性等について検証・検討を行っていく必要がある。 			
<p>(4) 鳥獣被害防止対策プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○市町村による被害防止計画の策定を推進し、市町村が中心となった総合的な被害防止活動を支援するとともに、研修の実施などにより、地域が主体となった鳥獣被害対策の指導者等の人材育成を促進する。</p> <p>【担当課】 みどり自然課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村が策定する被害防止計画に基づく侵入防止柵の設置、追払い活動、有害捕獲等といった被害対策活動の推進。 ・地域住民が主体となった被害対策を実施できるよう市町村をサポートしていくとともに、地域住民の被害防除意識の醸成を目的とした研修会を行い効果的な被害対策の普及推進。 ・イノシシについては、R2.7に国から示された「抜本的捕獲強化通知」に基づき、個体数半減目標の達成に向けた集中捕獲キャンペーンの実施等により、捕獲頭数増加への取組みを推進。また R2.10以降、CSF(豚熱)まん延防止対策として、捕獲重点エリアを設定し、重ねて捕獲強化を推進。 <p>②令和2年度の主な取組の内容</p> <p>i) 鳥獣被害の防止対策の支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村協議会に対し、「鳥獣被害防止総合対策交付金(国庫)」による侵入防止柵設置、パトロール、追い払い及び捕獲等への支援を実施(27協議会) ・イノシシの夏季捕獲(4/1～10/31)に対する経費補助を実施(14市町) ・鳥獣被害軽減モデル事業(県単)による侵入防止柵設置補助を実施(25市町村) ・地域ぐるみで行う鳥獣被害防止対策支援事業により、被害防除対策、生息環境管理及び捕獲対策を組合せた総合的で継続的な地域主体による「集落単位」の鳥獣被害対策の普及を拡大(モデル地区:4→6地区に拡充) ・新規事業として、イノシシ等鳥獣被害緊急対策事業を立ち上げ、くくりわなの維持・補修支援(9市町)、安全射撃講習会の弾代支援(12市町村)などを実施。 ・鳥獣被害対策指導者養成講習会を実施(全6回のうち2回) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鳥獣捕獲対策抜本的強化通知」(R2.7.8 環境省自然環境局長・農林水産省農村振興局長通知)に基づき、ニホンジカ、イノシシについて、今狩猟期を集中捕獲期間と位置付け、市町村単位で捕獲強化エリアを設定し、集中的に捕獲頭数を増やす取組みを推進。 ・「集中捕獲キャンペーン等実施方針」を定め、関係者にわな設置数の増加等によるを要請。 ・市町村協議会が、上記取組みにより当初よりも捕獲頭数を増やす場合、有害捕獲頭数の積 </div>	<p>【目標指標】 鳥獣による農作物被害金額</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 581百万円(H27)</p> <p>【直近】 464百万円(R1) [速報値]</p> <p>【目標値】 440百万円(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止総合対策交付金(整備事業) ・有害鳥獣被害防止軽減モデル事業費(侵入防止柵の設置支援) <p>【ソフト】</p> <p>[拡]鳥獣被害防止総合対策交付金(推進事業・緊急捕獲事業、都道府県事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣被害防止軽減モデル事業費(イノシシ夏季捕獲支援) <p>[新]イノシシ等鳥獣被害緊急対策事業費(くくりわなの維持・補修支援、安全射撃講習会の弾代支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害対策担当者会議(市町村及び県関係担当者) ・第二種特定鳥獣管理連絡協議会

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>増し分については、鳥獣被害防止総合対策交付金による追加支援を実施(10 協議会)</p> <p>ii) 鳥獣被害の防止対策の地域における推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的に連携した被害対策を推進するため、県と市町村からなる第二種特定鳥獣連絡協議会を総合支庁単位で開催(書面開催) ・地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業のモデル地区において実践的な被害対策研修を実施(6地区:天童市津山、金山町有屋、大蔵村四ヶ村、長井市芦沢、白鷹町中山、鶴岡市添川) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・侵入防止柵、放棄果実除去、緩衝林整備等の対策の有効性を広く周知することを目的に、農作物被害対策アドバイザー等を派遣し、被害防除意識を醸成するための研修会を開催(6市町村を予定) ・地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業成果報告会(2月)を開催し、地域に合った被害対策の普及推進。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシの被害が急増しており、更なる被害防止を図るため、捕獲に関する支援の拡充、侵入防止柵設置の推進、捕獲技術向上講習会の開催、地域住民への被害防除意識の醸成などについて取り組んでいく必要がある。 ・地域住民が主体となった鳥獣被害対策を実施できるよう市町村をサポートしていくとともに、周辺地域にその取組みを横展開(普及)させていく必要がある。 ・ICT機器を活用したイノシシの囲いわな捕獲について、効果的な誘引と捕獲を行うため、侵入防止柵の設置など周辺環境の整備を進めていく必要がある。 			
<p>(5) 再生可能エネルギー導入推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○地域で豊富に存在する再生可能エネルギーを活用し、農林漁業者の所得向上と地域活性化につなげていくため、農林水産分野への導入を推進する。</p> <p>【担当当課】 農政企画課 農業技術環境課 農村計画課 農村整備課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小水力発電事業への参入を希望する民間発電事業者と施設の有効利用を希望する土地改良区との連携を促進し、小水力発電の導入に向けた支援の実施。 ・市町村等の関係機関と共に、候補地での温泉熱の利活用に向けた働きかけ及び実践的な取組み等に対する技術支援を実施。 ・社会的状況の変化を見据え、発電等の安定性を継続検討。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p>i) 小水力発電の導入促進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県営地域用水環境整備事業による2施設の工事に向けた準備(設計・積算) ・マッチング支援を行った民間発電事業者とより詳細な発電事業計画策定に向けた打合せを行い、現状での課題や今後のスケジュール等の確認、契約締結に向けた手続き等のアドバイスを実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県営地域用水環境整備事業による工事を2施設で実施。 	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小水力発電出力の合計 ②温泉熱活用事例数(累計) ③木質バイオマスの供給量 <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1,400kW(H28) ②3件(H28) ③34千t(H27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1,648kW(R1) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県営地域用水環境整備事業費 ・林業成長産業化総合対策事業 	

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
森林ノミクス推進課	<p>・引き続き民間発電事業者との打合せを密に行い、より詳細な発電事業計画の策定と契約締結に向けた支援を継続実施。</p> <p>ii) 温泉熱の活用の促進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係課と連携して事業化の検討を進めている2団体に対し、情報提供を実施。 ・温泉熱の農林水産業への活用が可能な地域の掘り起こしに向け、関係課と連携し市町村等へ情報提供を実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業化の検討を進めている2団体に対し、必要に応じて技術的支援等を実施。 ・温泉熱の農林水産業への活用可能な地域の掘り起こしに向け、市町村や関係機関と調整。 <p>iii) 木質バイオマスの利用促進[関連]</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス施設用の低質材(C・D材)の搬出経費に対する支援を実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス施設用の低質材(C・D材)の搬出経費に対する支援の実施。 <p>iv) 営農継続型太陽光発電の評価検証</p> <p>【令和元年度の取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験研究機関2か所における月別の発電量を確認。 ・営農継続型太陽光発電装置の下での山菜等の栽培は、農林水産省指定の生産量(慣行の8割以上)は達成可能。一方、本県の日照条件下では年間の売電収入が70～80万円/10aとなり、発電設備のイニシャルコスト(1,500万円/10a)を回収するには16年～18年を要する。このため、営農継続型太陽光発電を積極的に推進することは難しい。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者とのマッチングを後押しするため、農業水利施設を利用した発電事業計画策定に関する指導・助言等を行い、土地改良区との契約締結に向けた手続きが計画通りに進行中である。 ・県営地域用水環境整備事業において、今年度、新たに1施設で発電の供用を開始した。土地改良施設の維持管理費低減を図るため、引き続き実施中の小水力発電施設に係る工事進捗を図っていく必要がある。 ・温泉熱の農林水産業への活用について、事業化に当たっての問題点や課題を検証し、他県の成功事例も参考にしながら、利活用に向けた働きかけを行う必要がある。 ・県内各地に木質バイオマス発電施設の整備が進み、木質バイオマスの需要が拡大していることから、今後需要に対応する原木の安定的に供給していくことが必要である。 	<p>②4件(R1) ③201千t(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①1,700kW(R2) ②6件(R2) ③106千t(R2)</p>		

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度 of 取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略2: 水田農業の収益性の向上

戦略分野1: 土地利用型作物～県産米の更なるブランド振興と低コスト化による水田農業の収益性向上～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 県産米ブランド化戦略プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○売れる米づくりに向け、「つや姫」や新品種「雪若丸」等の県産米ブランド化戦略を構築し、戦略に基づいた生産・流通・販売を展開する。</p> <p>【主担当課】 県産米ブランド推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つや姫」については、先進技術の導入等により高品質・良食味米の生産を推進するとともに、若者層やインバウンドなどの購買促進・消費拡大に向け、多様なメディアを活用したプロモーションなどの展開。 ・「雪若丸」については、生産組織が食味・品質・収量をレベルアップするための取組みの支援。また、多様なパートナーと連携した需要開拓を図るとともに、CMを核としたクロスメディアの活用等を進め、購買層に対応したプロモーションを展開。 ・「酒米」については、酒造組合と連携して、酒米の更なる振興の実施。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p>i) つや姫のブランド化戦略の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部会議を開催、令和3年度の作付面積を9,800ha程度と決定(7/22) ・「つや姫」生産者認定、並びに「雪若丸」生産組織登録に係る委員会を開催し、各地域の割当作付面積と募集期間(8/3～9/11)を決定(7/28) ・「つや姫」栽培マニュアル研修会の開催(3月上旬～4月中旬: 県内8地域) ・「つや姫」技術情報のタイムリーな配信(22回)による高品質・良食味米生産の推進。 ・「つや姫」「雪若丸」メールマガジンのタイムリーな配信(9回)による高品質・良食味米生産の推進。 ・「つや姫マイスター基準田」(68か所、21ha)の設置。 ・「つや姫マイスターの会」を開催(7/8)し、「第2回全国ブランド米産地生産者交流大会」の開催時期等について協議。 ・「スマートつや姫」実践研修会の開催(7/3、9/28: 天童市) ・新たなコスト低減技術(直播、高密度播種栽培)の検証(4月から) ・知事と関係団体の「田植え」(5/20)、「稲刈り」(9/17)により県産米をPR ・大手コンビニ「厳選米おにぎり」への採用(7/28～東北地域限定発売) ・Instagram や Facebook により、レシピや生育状況など「つや姫」に関する情報を随時発信。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度 of 今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つや姫生産者に対する新たな認定証交付制度の導入。 ・「つや姫」技術情報の配信による高品質・良食味米生産の推進。 ・スマート「つや姫」実践地区の設置。 ・全国をリードするイベントを開催し他県との技術交流の推進。 ・百貨店における販売キャンペーンの拡大(10月) ・飲食業団体等と連携したキャンペーン展開による高級業務用としての利用拡大(10月～11月) ・テレビ CM 放映、SNS 等インターネットを活用した若者層を対象とした広告とキャンペーンの </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①米による産出額 ②「つや姫」の価格ポジション ③「雪若丸」の作付面積 <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①668億円(H26) ②魚沼産コシヒカリに次ぐ(H28) ③10ha(試験栽培)(H28) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①835億円(H30) ②魚沼産コシヒカリに次ぐ(R1) ③2,704 (R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①930億円(R2) ②魚沼産コシヒカリに次ぐ(R2) ③3,543ha(R2) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化推進事業費 ・やまがた攻めの米づくり日本一運動事業費 	<p>山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部</p> <p>山形おいしさ際立つ！米づくりプロジェクト本部</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>一体的な実施(10月～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光と連携したインバウンド向けPRの実施。 <p>ii) 雪若丸のブランド化戦略の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部会議を開催、令和3年度の作付面積を3,800ha程度と決定(7/22) ・「つや姫」生産者認定、並びに「雪若丸」生産組織登録に係る委員会を開催し、面積割当方法と募集期間(8/3～9/11)を決定(7/28) ・「雪若丸」生産組織に専任サポーターを配置し、技術・経営面で総合的に支援(3月から) ・「雪若丸」専任サポーター会議の開催(6/18) ・「雪若丸」栽培マニュアル研修会の開催(3月上旬～4月中旬:県内8地域) ・「雪若丸」高品質良食味栽培研修会を開催(6月中旬:県内8地域)し、生育状況に合わせた技術指導を実施。 ・「雪若丸」技術情報のタイムリーな配信(16回)による高品質・良食味米生産の推進。 ・「つや姫」「雪若丸」メールマガジンのタイムリーな配信(9回)による高品質・良食味米生産の推進。 ・「雪若丸」の新たな栽培技術(施肥法、直播、高密度播種栽培)の開発(4月から) ・生産組織の情報発信サイトに掲載する情報の収集(103生産組織) ・知事と関係団体の「田植え」(5/20)、「稲刈り」(9/17)により県産米をPR。 ・新たなテレビCMの制作、テレビCMを核とした効果的なプロモーション事業の企画。 ・SNSを活用した情報発信・キャンペーンの展開(4月～) ・取扱協力店を対象とした試供米プレゼントキャンペーンの実施(7月～8月) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次「雪若丸」ブランド化戦略による取組みの実施。 ・「雪若丸」専任サポーター会議の開催(9/2) ・生産組織の品質・食味・収量をレベルアップするための取組みを総合的に支援(新規) ・「雪若丸」技術情報のタイムリーな配信による高品質・良食味米生産の推進。 ・「雪若丸」の新たな栽培技術の実証(施肥法、直播、高密度播種栽培) ・生産組織の情報発信サイトの開設(12月) ・販売先・販売形態に応じたセールスプロモーションの展開。 ・商品定番化に向けたセールスプロモーションの強化。 ・多様なパートナーの開拓による業務用米利用の拡大。 ・購買意欲を高める新たなテレビCM制作・放映や、CMを核とした効果的なプロモーションの展開(10月～) ・多様なパートナーとの連携と様々な機会を捉えたPRの実施。 <p>iii) 県産米の品質・評価の向上</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米づくり技術情報のタイムリーな発信(22回)による高品質・良食味米生産の指導の徹底。 ・水稲品質向上技術対策会議を開催(7/2、9/2)し、技術情報を生産現場での指導に活用。 			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・県産米早期作柄把握連絡会議を開催(8/20、8/20、9/10、9/17) ・適期刈取りキャラバンを開催(9/17) ・高品質・良食味米生産(「特A栽培」)モデルほ場を設置(11か所) ・有望系統の実証展示ほを県内に設置(13か所)し、中山間地への適応性や平坦地での組合せ品種としての適性の検討(現地圃場巡回:8/7) ・ラジオ放送で技術情報を発信し、品質向上に向けた啓発を実施(7月、8月、9月) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米づくり技術情報を発信し(4月～10月)、生産状況に対応した栽培技術を迅速に提供することで高品質・良食味米生産の指導の徹底。 ・県産米早期作柄把握連絡会議の開催。 ・有望系統の実証展示ほを県内に設置し、中山間地への適応性や平坦地での組合せ品種としての適性の検討。 ・第11期米づくり運動(R3～)の内容等について検討を進め策定(3月) <p>iv) 新品種「雪女神」等の高品質な酒米生産の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雪女神」「出羽燦々」展示ほの設置(5か所)による高品質米生産を推進。 ・「雪女神」栽培マニュアル等を活用した栽培指導を継続し、高品質米生産を推進。 ・コロナ禍の影響から酒造適正米生産振興対策協議会総会で要望された酒造好適米の持続的な生産に向けた会議を開催(7/9、8/5、8/6、8/17)し、支援策等について検討。 ・酒造組合、JA、全農等と連携した酒造適性米生産振興対策協議会における知事賞受賞者ほ場等の巡回(9/8) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雪女神」栽培マニュアル等を活用した栽培指導、乾燥調製の指導を継続し、高品質米生産を推進。 ・県酒造組合と連携し、酒米の栽培技術向上のために酒米フォーラムを開催(2月) ・酒造適性米生産振興対策協議会において、「酒米フォーラム」知事賞受賞者を海外市場等の視察に派遣(3月) <p>令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つや姫」については、更なる高品質・良食味米生産に加え適正収量確保に向けた取組みを進めるとともに、トップブランド米として相応しい価格ポジションを維持しながら、次世代ユーザー、インバウンド消費における支持拡大など、幅広く需要拡大に取り組む必要がある。 ・「雪若丸」については、高品質・良食味米の安定生産と適正収量の確保を推進するとともに、大都市圏を中心とした認知度向上と購買を促進する取組みが必要である。 ・「酒米」については、GI登録を契機に酒造組合と連携し、振興を図っている。特に純米大吟醸に適した酒造好適米「雪女神」のブランド化に向けて、高品質な酒米の生産をさらに推進していく必要がある。 			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(2) 需要に応じた米生産対策推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○行政による生産数量目標の配分が廃止される平成30年産以降は、県農業再生協議会において、米の作付面積の統計かい離の解消を図りながら、需要に応じた米生産や飼料用米等の生産・利用の拡大を推進する。</p> <p>【担当課】 県産米ブランド推進課 農業技術環境課 畜産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年産米の「生産の目安」の達成に向けた推進。 ・令和3年産以降の「生産の目安」の算定方法について、全国の需給・価格動向を踏まえ、本県産米の在庫量、相対取引価格の動向、県や関係機関の生産・販売戦略等も加味した上で、「需要に応じた米生産に関するワーキンググループ会議」等で検討。 ・飼料用米の生産性向上に向けた取組みを推進。 ・統計かい離解消の推進。 <p>②令和2年度の実績と今後の取組予定</p> <p>i) 需要に応じた米生産の推進</p> <div data-bbox="387 501 1368 770" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北農政局山形県拠点と連携して、各市町村の2年産の作付動向の把握と情報交換を実施。また、超過見込みの市町村等と意見交換を実施(6月)し、「生産の目安」に沿った米の生産と非主食用米への転換について協力を要請。 ・山形県農業再生協議会水田部会運営委員会(5月25日)、県内14市町村(地域農業再生協議会)との需要に応じた米生産に関する意見交換(6月)、需要に応じた米生産に関するWG会議(8/21)、4ブロック別の意見交換会(9/11~14)を開催し、関係機関と情報共有を図るとともに、3年産の「生産の目安」設定のための意見交換を実施。 </div> <div data-bbox="387 770 1368 1007" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年産の酒造好適米の余剰が見込まれることから、非主食用米への転換に取り組む各生産組織(酒米研究会等)に対し、協力金を交付(9月補正予算で措置) ・需要に応じた米生産に関するWG会議等を開催し、引き続き、各地域農業再生協議会及び関係機関から令和3年産以降の需要に応じた米生産のあり方等に関する意見を集約(10月) ・山形県農業再生協議会臨時総会を開催し、令和3年産の「生産の目安」を協議・決定(12月) </div> <p>ii) 飼料用米の生産・利用の拡大</p> <div data-bbox="387 1062 1368 1166" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地交付金を活用した作付拡大を誘導したところ、24市町村が飼料用米に関する活用を設定し支援を実施。 </div> <div data-bbox="387 1166 1368 1270" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年産に向けて、飼料用米の作付推進のための産地交付金を活用した支援方法を検討。 ・地域のマッチング協議会における具体的活動(生産・流通・利用)の支援。 </div> <p>iii) 統計かい離の解消</p> <div data-bbox="387 1326 1368 1430" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計かい離が大きい3市町を訪問し、現状を情報共有するとともに、解消に向けた取組みを依頼(6月) </div> <div data-bbox="387 1430 1368 1489" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村における正確な水稻作付面積把握を推進するため、出入作調査の実施(12月) </div>	<p>【目標指標】 県で設定する生産目標達成率(H30産以降は県再生協議会で設定を想定)</p> <p>【現状】 〔戦略策定時〕 100%(H28) 〔直近〕 100%(R1)</p> <p>【目標値】 100%(R2)</p>	<p>・水田農業再生戦略事業費</p>	<p>需要に応じた米生産に関するワーキンググループ会議</p> <p>統計かい離解消ワーキングチーム会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・市町村毎の統計かい離面積の推計を行い、情報提供の実施(1月)</p> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要に応じた米生産の推進については、農林水産省の作付状況調査(9/18 現在・速報値)によれば、令和2年産の主食用米の作付面積は、「生産の目安」を下回っている。 ・令和3年産以降の「生産の目安」の算定方法については、全国の需給状況や県産米の販売動向を踏まえ、引き続き検討していくこととしており、今後も関係団体と綿密に連携し協議・検討を重ねていく必要がある。 ・飼料用米の作付面積は減少傾向にあり、主食用米の需要量が減少する中、産地交付金制度を活用しながら飼料用米をはじめとする非主食用米の取組拡大を推進する必要がある。 ・統計かい離については、現状を把握しつつこれまでの取組みの成果を検証しながら、更なるかい離解消を図っていく必要がある。 			
<p>(3) 県産大豆評価向上・安定生産プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○県産大豆の評価向上に向けて「里のほほえみ」「シュウリュウ」の普及拡大、収量・品質の高位安定技術の定着を推進する。</p> <p>【担当課】 県産米ブランド推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「里のほほえみ」「シュウリュウ」を重点品種に位置づけ、実需ニーズに応える産地づくりの推進。 ・高収量・高品質栽培技術、病害虫対策等を取りまとめた情報発信するなど農家経営の安定化のための儲かる大豆づくりの推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 重点品種の安定生産の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「里のほほえみ」と「シュウリュウ」について大豆高収量高品質栽培展示ほ(8か所)、ダイズシストセンチュウ対策実証ほ(1か所)の設置を継続し、展示ほを活用した現地指導を実施。 ・各地域において高収量・高品質生産のための技術情報を発信(5月から) ・県作物担当者会議の開催(4/14、16) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高収量・高品質生産のための技術情報を発信(5月～11月) <p>ii) 生産管理の効率化の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰化アサガオ類の効果的・効率的な除草技術に関する講習会を開催(6/11) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グッドハーベストコンクールを開催し、優良事例の情報発信。 ・大規模経営の優良事例等の情報収集と情報発信。 <p>iii) やまがた大豆の産地評価の向上</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産大豆利用拡大プロジェクト会議を開催(8/27)し、関係機関と連携した県産大豆の安定生産・利用拡大を推進。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・儲かる大豆づくりを啓発するため「フォーラム」の開催。 	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大豆の収穫量 ②新品種(「里のほほえみ」「シュウリュウ」)の作付面積 <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①7,560t (H27) ②1,817ha (H27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①7,230t (R1) ②2,654ha (R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①8,000t (R2) ②4,100ha (R2) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・儲かる大豆づくりプロジェクト事業費 	<p>県産大豆利用拡大プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実需者ニーズに応えられる産地づくりのため、品質と収量の面で安定した生産を行うことが求められている。このため、品種構成を見直し、収量・品質に優れた「里のほほえみ」「シュウリュウ」の作付け拡大を推進しており、上位等級比率の改善が成果として現れている。今後も引き続き、高収量・高品質生産の実現のために、優良生産者の栽培事例の発信を継続し、栽培技術の向上を図る必要がある。 			
<p>(4) 県産そばブランド化推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○県産そばのブランド力向上のため、高品質安定生産技術の普及、優良種子の供給、県産そばの知名度向上及び「山形そば5号」のブランド化を推進する。</p> <p>【担当課】 県産米ブランド推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産そばの高収量・安定化に向けた多収展示ほを設置するとともに、現地検討会を開催。 ・優良種子の計画的生産の推進。 ・実需者と連携して新品種「山形BW5号」のPRを行うなど、関連業界が一体となった県産そばの知名度向上、産地活性化を図る。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 高収量・高品質の安定化</p> <div data-bbox="387 635 1368 770" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高収量高品質栽培展示ほを設置(8か所)し、生産現場での技術指導を実施。 ・高収量・高品質生産のための技術情報の発信(7月から) ・県作物担当者会議の開催(4/14、16) </div> <div data-bbox="387 770 1368 975" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点指導組織を対象に指導の強化。 ・高収量・高品質生産のための技術情報の発信(7月～11月) ・「県産そばプロジェクト会議」を開催し、実需者と生産者が一体となった産地づくりやブランド化の取組みの推進。 ・グッドハーベストコンクールを開催し、優良事例の情報発信。 </div> <p>ii) 優良品種の種子更新体制の整備</p> <div data-bbox="387 1031 1368 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「でわかおり」「山形 BW5号」原種、一般種子を生産。 ・種子更新の重要性等、生産組織に対する指導。 </div> <div data-bbox="387 1134 1368 1238" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「でわかおり」「山形 BW5号」の原種、一般種子の計画的な生産の実施。 ・種子更新の重要性について、生産組織に対する指導の強化。 </div> <p>iii) 県産そばの知名度の向上</p> <div data-bbox="387 1289 1368 1361" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産そばの利用拡大と評価向上を目指し、実需者と打合せを実施(6/10) </div> <div data-bbox="387 1361 1368 1497" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産そば利用拡大のため、「県産そばプロジェクト会議」を開催し、実需者や流通関係者との情報共有と意見交換の実施。 ・「山形BW5号」の認知度向上のため試食会等の実施。 </div>	<p>【目標指標】 そばの収穫量</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 1,620t(H27) 【直近】 2,520t(R1)</p> <p>【目標値】 2,200t(R2)</p>	<p>【ソフト】 ・美しいやまがた「そばの里」推進事業費</p>	<p>山形そばプロジェクト会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議		
	<p>iv)「山形BW5号」のブランド化・普及拡大の支援</p> <table border="1" data-bbox="387 213 1370 451"> <tr> <td data-bbox="387 213 1370 248"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形BW5号」の栽培展示ほの設置(4か所)による普及拡大を推進。 ・「山形BW5号」栽培マニュアル、技術情報、栽培ごよみを活用した技術指導を実施。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 248 1370 451"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形BW5号」栽培マニュアル、技術情報、栽培ごよみを活用した生産指導の実施。 ・「山形BW5号」の栽培展示ほを起点として、「山形BW5号」の優位性を生産者に示し、産地の合意形成を支援しながら普及を拡大。 </td> </tr> </table> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収量及び品質の向上を図るため、優良事例の発信や現地検討会の開催等を通じて生産者の意識向上に継続的に取り組んでいく必要がある。 ・県産そばの知名度向上と産地活性化に向け、実需者と生産者が一体となった産地づくりやブランド化の取組みが求められている。 ・山形BW5号は作付面積が拡大しており、さらなる面積拡大や産地づくりを進める必要がある。 	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形BW5号」の栽培展示ほの設置(4か所)による普及拡大を推進。 ・「山形BW5号」栽培マニュアル、技術情報、栽培ごよみを活用した技術指導を実施。 	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形BW5号」栽培マニュアル、技術情報、栽培ごよみを活用した生産指導の実施。 ・「山形BW5号」の栽培展示ほを起点として、「山形BW5号」の優位性を生産者に示し、産地の合意形成を支援しながら普及を拡大。 			
<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形BW5号」の栽培展示ほの設置(4か所)による普及拡大を推進。 ・「山形BW5号」栽培マニュアル、技術情報、栽培ごよみを活用した技術指導を実施。 						
<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形BW5号」栽培マニュアル、技術情報、栽培ごよみを活用した生産指導の実施。 ・「山形BW5号」の栽培展示ほを起点として、「山形BW5号」の優位性を生産者に示し、産地の合意形成を支援しながら普及を拡大。 						

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略2: 水田農業の収益性の向上

戦略分野2: 生産基盤～水田農業の競争力強化と持続的発展のための生産基盤整備～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 水田農業低コスト化基盤整備促進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○水田農業の更なる低コスト化を実現するため、農地の集積・集約化やほ場の大区画化、水稲直播栽培や地下かんがい等省力化技術の導入を推進する。</p> <p>【主担当課】 農村整備課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、水田農業の低コスト化を実現するために必要な生産基盤の整備(大区画化、水路地中管路化など)や水稲直播栽培、地下かんがい等の省力化技術の導入を推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 水田農業の低コスト・省力化に向けた基盤整備の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規採択地区の12地区を含む60地区で基盤整備を実施中。 水田農業の低コスト・省力化に向けて、23地区で297haの区画整理工事を実施中。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規採択の12地区、継続48地区の計60地区において、基盤整備の実施。 水田農業の低コスト・省力化のために必要な生産基盤の整備(大区画化、水路地中管路化など) </div> <p>ii) 農地の集積・集約化の促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地中間管理事業推進会議を開催(7/10、138名) 農地集積・集約化推進会議の開催(8/4、18名) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地の集積・集約化を促進するため、引き続き農地中間管理機構と連携し事業を展開。 </div> <p>iii) 直播等による低コスト生産の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直播栽培(14か所)、高密度播種栽培(4か所)の設置による技術の検証と普及拡大を推進。 「直播栽培マニュアル」や技術情報を活用した生産指導を実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直播栽培展示ほを起点として、技術の安定化を図るとともに、普及と栽培面積拡大を推進。 直播栽培マニュアル、技術情報を活用した生産指導の実施。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度新規採択12地区、継続48地区の計60地区において、農地の大区画化や用排水路のバイプライン化など、担い手が効率的に営農できる基盤整備と併せ、農地の集積・集約化を促進し、大区画ほ場整備面積の拡大及び米の生産コスト低減は概ね順調に推移している。 引き続き、水田農業の低コスト化を実現するため、継続地区の早期完了及び新規地区の計画的な採択を行っていく。 	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 担い手の米の生産コスト(基盤整備実施地区) 大区画ほ場整備面積(累計) 水稲直播栽培面積 <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 22億円/年(H27) 3,160ha(H27) 2,360ha(H28) <p>〔直近〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 15億円/年(R1) 3,750ha(R1) 2,732ha(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> 13億円/年(4割削減)(R2) 4,000ha(R2) 3,500ha(R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水田農業低コスト・高付加価値化基盤整備事業(一般型) 水田農業低コスト・高付加価値化基盤整備事業(中山間型) <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業経営高度化支援事業費 農業農村整備事業実施計画費 	

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(2) 農村インフラ機能保全プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○農業水利施設の機能を将来にわたって安定的に発揮するため、基幹的農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコスト低減を図る効率的な保全管理のほか、農業用ため池等の機能強化による被害未然防止を図るとともに、ソフト・ハードを組み合わせた防災減災対策を推進する。</p> <p>【担当課】 農村整備課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業水利施設の機能維持とライフサイクルコストの低減を図るため、施設の機能診断に基づく保全計画の策定や対策工事を一体的に推進。 ・ため池の機能強化による被害の未然防止とソフト・ハードを組み合わせた防災減災対策による災害リスクの軽減を推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業水利施設の機能診断・保全計画策定業務を発注。 ・保全計画に基づき、10 地区で対策工事を実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能診断結果に基づき、64 施設で保全計画を策定。 ・保全計画に基づき、新たに5地区で対策工事を実施。 </div> <p>ii) ため池等の防災・減災の対策</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ため池の豪雨に対する安全性の詳細調査を、243 箇所ですべて着手し洪水吐能力・堤体余裕高等の調査を実施。 ・ため池の耐震点検業務を9箇所ですべて着手し、現地調査、設計照査を実施。 ・ため池整備工事を18 地区ですべて着手し、堤体や洪水吐等の改修工事を実施。 ・各市町村でため池ハザードマップ作成に係る地元調整(ワークショップ等)を実施。 ・融雪後及び梅雨期前に防災重点ため池 374 箇所の安全点検を実施(5月、7月) ・「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」に基づき、特定農業用ため池の指定・公示、ため池データベースの整備・公表(8月) ・ため池管理者へのため池サポートセンターによる監視・保全管理に係る技術的指導を18 箇所ですべて実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ため池の耐震点検業務を新たに5箇所ですべて着手し、現地調査、設計照査を実施。 ・ため池整備工事を新たに8地区ですべて着手し、堤体や洪水吐等の改修工事を実施。 ・ため池の防災減災対策として、183 箇所ですべてハザードマップを作成。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業水利施設の計画的な補修・更新対策により、施設機能の維持が図られ、安定して農業用水が確保された。 ・農業水利施設の機能診断、保全計画策定、対策工事を計画的に進め、長寿命化やライフサイクルコストの低減に結びつけていくことが必要である。 ・大幅に数が増加した新たな防災重点ため池を対象に、緊急時の迅速な避難対策と施設機能の維持・補強に向けた対策が必要である。 ・ため池の耐震点検、整備工事といったハード対策とともに、ハザードマップの作成・公表などのソフト対策も実施し、ソフト・ハード両面で、ため池の防災減災対策を推進していくことが必要である。 	<p>【目標指標】 基幹水利施設における保全計画策定箇所数</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 330 か所(H28)</p> <p>【直近】 416 か所(R1)</p> <p>【目標値】 418 か所(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県営かんがい排水事業費 ・基幹水利施設ストックマネジメント事業費 ・防災減災事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹水利施設ストックマネジメント事業費 ・防災減災事業費 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県ため池保全管理業議会 ・山形県ため池サポートセンター

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

戦略分野1: 果樹～ブランド力のさらなる強化と次世代につなぐ果樹産地の強化～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○大玉品種の開発や高品質安定生産と良品出荷を推進するとともに、省力・軽労化技術の開発と導入による規模拡大や新興地域での産地化を推進する。</p> <p>【担当課】 園芸農業推進課 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの厳選出荷の取組みを継続するとともに、安定生産のためのオール山形での取組みを再徹底し、さらなる産出額の増加に向けて、引き続き実施。 オリジナル新品種「やまがた紅王(品種名:山形C12号)」の速やかなブランド化を図るため、生産者登録制度による知的財産の保護を図るとともに、「佐藤錦」からの改植を基本とした導入を進めながら、大玉果実の生産を進め、早期に出荷ロットの確保を目指す。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) オール山形での推進体制の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形さくらんぼブランド力強化推進協議会において、6つのプロジェクト(高品質安定生産プロジェクト、厳選出荷プロジェクト、「やまがた紅王」ブランド化プロジェクト、山形さくらんぼ GI 登録検討プロジェクト、産地基盤強化プロジェクト(②-ii)、新興産地拡大プロジェクト(②-v))により、山形さくらんぼのブランド力強化対策をオール山形で推進。 <p>[高品質安定生産プロジェクト]</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形さくらんぼブランド力強化推進協議会を開催(4月書面協議、8/25) 高品質安定生産に向けた広報キャラバンを実施[拡] <p>防霜対策キャラバン(3/26)・結実確保対策キャラバン(4/17)・高品質出荷キャラバン(5/21)</p> <p>[厳選出荷プロジェクト]</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷規格順守の啓発に向けた産地市場(6～7月、4市場×4回)及び沿道販売店の巡回を実施(6～7月、村山81か所、最上12か所、置賜53か所、庄内9か所) <p>[「やまがた紅王」ブランド化プロジェクト]</p> <ul style="list-style-type: none"> 高級果物専門店等を対象に「やまがた紅王」のブランド化に関する意見を聴取(6月、東京・大阪)[新] 「やまがた紅王」の名称の国内での商標登録(8/3)[新] 「やまがた紅王」ブランド化プロジェクト会議を開催、「やまがた紅王」の品質基準を検討(6月書面協議、8/25)[新] 新規登録希望者の掘り起こしのための「やまがた紅王」研修会を開催(7/3～7/13、延べ8回) <p>[山形さくらんぼ GI 登録検討プロジェクト]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「山形さくらんぼ」のGI申請については、引き続き、国に弾力的な運用を要望。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やまがた紅王」の大玉生産マニュアルの作成(3月)[新] 「やまがた紅王」のロゴマークの検討・作成(3月)[新] </div> <p>ii) 産地の基盤強化(産地基盤強化プロジェクト)</p>	<p>【目標指標】</p> <p>①さくらんぼ収穫量 ②さくらんぼ産出額 ③さくらんぼ大玉品種の開発</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <p>①13,200t(H27) ②332億円(H26) ③—</p> <p>【直近】</p> <p>①11,900t(R1) ②374億円(H30) ③1品種登録(R2)</p> <p>【目標値】</p> <p>①14,300t(R2) ②345億円(R2) ③1品種登録出願(H29) 1品種登録(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 園芸大国やまがた産地育成支援事業費 園芸大国やまがた推進事業費 果樹農業好循環形成総合対策事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期さくらんぼ世界一プロジェクト事業費 山形さくらんぼ生産力・ブランド力強化推進事業費 	<p>山形さくらんぼブランド力強化推進協議会</p> <p>「山形C12号」ブランド化プロジェクト会議</p> <p>さくらんぼ労働力確保対策ワーキングチーム</p> <p>最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進会議</p> <p>庄内さくらんぼ生産振興協議会</p> <p>山形さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 省力・軽労的な仕立て方の導入推進マニュアルを活用した各産地での新梢管理等の技術研修会を開催(村山地域 1回、20人)し、個別に技術指導を実施(村山地域 42回、延べ51人) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 省力・軽労的な仕立て方の導入推進マニュアルを活用した各産地での技術研修会の開催(随時) <p>iii) さくらんぼ労働力の確保</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらんぼ労働力確保対策ワーキングチーム会議を開催(4月書面協議) 新たな雇用労働力確保に向け、新聞折込やフリーペーパー、求人情報サイト・ラジオCM[新]など、多様な媒体を活用したPRを実施(4~5月) JA 無料職業紹介所を通じた雇用者数は過去最高の218人(マッチング率43%) さくらんぼ産地サポーター企業の募集拡大(5月、新規23社、計72社)[拡] さくらんぼ産地サポーター企業によるボランティア・アルバイト協力(5~6月、延べ589人)[新] 高校生やJAグループ職員、市・県職員有志等によるボランティア(6月、延べ395人) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらんぼ労働力確保対策ワーキングチーム会議の開催(11月) 労務管理等を学ぶ生産者向け研修会の開催(2月) 次年度のさくらんぼ作業員募集に向けたPRチラシの作成・配布(2月) 次年度求人者に向け「初心者向けさくらんぼ作業ガイドブック」の作成、配布(3月) <p>iv) さくらんぼの加工技術の開発</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらんぼのセミドライ加工技術に関する研修会を開催(6/11 5名、7/16 11人) さくらんぼに関する加工技術相談への対応による商品化支援(延べ10件) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらんぼのセミドライ加工技術に関する研修会の実施。 セミドライやフリーズドライ技術などを用いた商品化の支援。 <p>v) 新興地域での産地化の推進(新興産地拡大プロジェクト)</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>[最上地域]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進会議」を開催(4月書面協議) もがみさくらんぼ品評会を開催(6/26:出品数26) 「もがみさくらんぼ通信」を発行し、高品質安定生産と耐雪性の高い仕立て方(Y字)の導入推進に向けた技術指導を実施(10回) <p>[庄内地域]</p>			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・「庄内さくらんぼ生産振興協議会」を開催し、今年の活動計画を協議(5月書面協議) ・「庄内さくらんぼ通信」を発行(4回:4, 5, 6, 7月) ・さくらんぼ作柄調査を実施(5/26、庄内12園地) ・庄内産さくらんぼPR用ギフトリーフレットを作成、配布(A6判カラー、4,200部) (新型コロナ対応:観光さくらんぼ園の自粛により産地PRに変更) ・大規模園地の形成に向けた省力・軽労的な仕立て方(V字)の導入推進に向けた技術指導の実施(11回) ・観光果樹園へのアンケート調査の実施(9月) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>[最上地域]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進会議」の開催(11月) <p>[庄内地域]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「庄内さくらんぼ通信」の発行。 </div> <p>vi)さくらんぼ世界一プロジェクトの推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超大玉品種の育成を目的に2パターンの交雑を実施し、育成。 ・さくらんぼ収穫ロボットの実用化に向けた研究を山形大学大学院理工学研究科に委託し、実施。 ・「やまがた紅王」の国内における長距離輸送試験を実施し、長距離輸送に対応したパッケージを検討(6/24～7/2) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形さくらんぼ世界一プロジェクト会議の開催(11月) ・超大玉品種育成のための交雑及び獲得実生の育成、選抜。 ・さくらんぼ収穫ロボットの実用化に向け、山形大学大学院理工学研究科と民間企業とのマッチングの支援(10/23) </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年産の収穫量は、低収量であった前年を大きく上回る見込みであるものの、平年に比べやや少なく、消費地等に十分な量が供給できなかったことから、安定生産に向けた取組みをオール山形で再徹底する必要がある。また、単価は過去10年間で2番目に高かったものの、さらなる山形さくらんぼのブランド力強化に向けて、厳選出荷のための取組みを継続するとともに、山形さくらんぼの情報発信を強化していく必要がある。 ・令和2年までの3年間での「やまがた紅王」の登録経営体数は約2,200経営体で、導入本数は約2万4千本であり、産地への導入が進んでいることから、令和4年の先行販売開始を見据え、高品質安定生産技術の確立を図るとともに、早期のブランド化に向けた生産・流通販売対策を進める必要がある。 ・さくらんぼの労働力確保では、新型コロナ感染症拡大の影響から、県内求職者の掘り起こしを重点的に取組み、JA無料職業紹介所を通じた雇用数は過去最高となった。しかしながら、さくらんぼの農繁期における労働力はまだ不足していることから、1日単位で働けるアルバイトの募集等、新たなターゲットも視野に入れた取組みを継続していく必要がある。 			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(2) 西洋なし産地ブランド強化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○「ラ・フランス」の生産性の向上に取組みながら、食味重視の生産・出荷・販売による消費拡大、優良新品種のブランド化に向けた生産・販売活動を展開する。</p> <p>【担当課】 園芸農業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形ラ・フランス」のGI登録を見据え、消費拡大を目指したオール山形での食味を重視した生産・出荷・販売の取組みの推進。 ・ピールカット等新たな食べ方提案による需要の掘り起こし。 ・「メロウリッチ」の大玉生産技術の普及・定着と、高価格帯での販売によるブランド確立の支援。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 「ラ・フランス」のブランド力向上</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形ラ・フランス」出荷団体に対するGI制度と今年度の取組内容を周知する説明会を開催(8/6)[新] ・「山形ラ・フランス」のGI登録(8/19)[新] ・「ラ・フランス」便りを発行(胴枯病対策4/27、輪紋病対策5/20、収穫予想9/14、9/30)[拡] </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形ラ・フランス」のGI登録の公表と「ラ・フランス」の販売開始基準日設定、適期収穫、産地追熟の徹底について協議するための山形県「ラ・フランス」振興協議会を開催(10/2) ・「山形ラ・フランス」のGI登録を踏まえ、オール山形での食味を重視した高品質安定生産の推進と消費拡大に向けた各種PRの実施。 ・ピールカット技術の普及・定着に向けた研修会や個別対象への技術移転活動の実施。 ・「山形ラ・フランス」のGI登録を踏まえた、生産者団体及び生産者へのGI制度や生産行程管理等の周知、及び市場流通関係団体への「山形ラ・フランス」のPRの実施。 </div> <p>ii) 新品種の導入推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育状況の把握と令和2年度の販売方針の検討(4～8月) ・「メロウリッチ」の収穫適期の情報提供及び周知を実施(9/14) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育状況のとりまとめと次年度への対応の検討。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <p>[ラ・フランス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形ラ・フランス」のGI登録については、平成30年11月に申請を行い、農林水産省知的財産課と補正・協議を重ねてきた結果、令和2年8月19日に登録された。 ・適期収穫・産地追熟の徹底と販売開始基準日の定着により、市場からの評価は高まってきており、継続した取組みが必要である。 ・一方で、消費が伸び悩んでいるため、新たな消費拡大方策の検討や、ピールカット商品等の流通による新規需要の掘り起こし等を進めていく必要がある。また、「山形ラ・フランス」のGI登録を踏まえ、市場流通関係団体・消費者へGIの周知と消費拡大に向けたPRを実施する。 <p>[メロウリッチ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実専門店をターゲットにした生産・販売の取組みが定着してきており、高単価で販売されているため、県主導から生産者団体を主体とした取組みへの移行を進める必要がある。 	<p>【目標指標】</p> <p>①西洋なし産出額 ②「ラ・フランス」単価</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <p>①50億円(H26) ②311円/kg(H27)</p> <p>【直近】</p> <p>①56億円(H30) ②321円/kg(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①60億円(R2) ②340円/kg(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸大国やまがた産地育成支援事業費 ・園芸大国やまがた推進事業費 ・果樹農業好循環形成総合対策事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋なし消費拡大プロジェクト事業費 	<p>山形県「ラ・フランス」振興協議会</p> <p>「メロウリッチ」研究会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(3) りんご産地生産力強化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○市場性の高い中生品種の絞り込みによる出荷ロットの拡大や、品質の高い「ふじ」の出荷促進による市場評価の向上、省力・軽労的な生産方式による規模拡大を推進する。</p> <p>【担当課】 園芸農業推進課 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係団体、県で本県りんごの生産面や流通・販売面での課題の抽出と対応策を協議し、良食味果実の生産出荷を基本としながら、市場評価向上のための取組みの展開。 <p>②令和2年度の実績と今後の取組の内容</p> <p>i) 戦略推進体制の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> りんご黒星病防除対策キャラバンを開催(3/30)[新] りんご黒星病の発生状況の広域調査と効果的な防除手法の検証のための実証ほを設置(4月～、県内17か所) 県産りんごのブランド力強化に向けたオール山形での取組みを検討する会議を開催(中生種の販売方策の検討、9/14) 一元販売による良食味出荷のための「秋陽」の出荷開始基準日を検討及び設定(9/14) 「山形県りんご黒星病撲滅対策会議」を開催(9/15) 県、市町村、JAグループ等とのメーリングリストを作成し、りんご黒星病の発生状況や防除対策等の情報を迅速に提供・共有(随時) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「山形県りんご黒星病撲滅対策会議」の開催(随時) 品種の絞り込みや良食味出荷等、県産りんごのブランド力強化に向けたオール山形での取組みを検討する会議の開催(3回程度) </div> <p>ii) りんご生産の効率化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 省力・軽労的な仕立て方の実証ほの設置と各産地での評価(4月～、県内4か所) 早期成園化に向けた手法を学ぶ、りんご栽培ポイント講座を開催(7/9、参加者50人、9/9、参加者53人)[拡] </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早期成園化に向けた手法を学ぶ、りんご栽培ポイント講座の開催(11月～2月) </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「秋陽」は、一元販売により販売ロットが拡大し市場評価が高まっていることから、主要品種と定めた中生品種「秋陽」、「シナノスイート」、「昂林」の出荷ロットの拡大に向けた方策を検討・実施する必要がある。 令和元年度に取りまとめた「りんご産地の生産力・ブランド力強化に向けた課題と対応方針(素案)」に基づき、生産者団体(JA全農山形、主産地JA)、市場流通関係団体(消費地市場)、県が一体となった取組みを段階的に進めていく必要がある。 省力的で早期成園化が期待される新たな樹形(ロンバス仕立て)については、実証ほを活用し、各産地での評価を進めながら、導入を図っていく必要がある。 りんご黒星病の防除対策の強化により、令和2年度の発生は減少したものの、引き続き生産現場における防除対策の徹底を継続させるとともに、さらに効果的な防除方法の検討を進めていく必要がある。 	<p>【目標指標】</p> <p>①りんご産出額 ②一元販売品種数</p> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <p>①114億円(H26) ②2品種(H27)</p> <p>【直近】</p> <p>①98億円(H30) ②2品種(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①120億円(R2) ②4品種(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 園芸大国やまがた産地育成支援事業費 園芸大国やまがた推進事業費 果樹農業好循環形成総合対策事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新りんご産地生産力強化プロジェクト事業費 	

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(4) ぶどう産地活性化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○「シャインマスカット」の導入促進と品質の高位平準化や戦略的な販売展開によるブランド構築を図るとともに、ワイン用ぶどう等の省力栽培の導入により、産地の活性化に取り組む。</p> <p>【主担当課】 園芸農業推進課 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シャインマスカット」では、栽培経験の浅い生産者向けの技術指導を強化しながら、更なる面積の拡大を図るとともに、ギフト需要に対応した品質の向上、貯蔵品の出荷の拡大を目指す。 ・ワイン用ぶどうでは、これまでの取組に加え、ワイナリー・生産者組織・産地市町が連携した振興策の検討を行いながら、本県に適した省力栽培技術の実証を進め、県産ワイン用ぶどうの生産拡大を目指す。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i)「シャインマスカット」の産地拡大</p> <div data-bbox="387 470 1368 738" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の取組状況・実績を確認するとともに、本年度の取組内容について検討するための「シャインマスカット」プロジェクト会議を開催(5月書面協議) ・栽培経験の浅い生産者を対象とし、カラーチャートを活用した栽培研修会を開催(7/7、参加者82人) ・「シャインマスカット」の目標とする果房品質・栽培技術を確認する目揃い会を開催(9/30) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫適期の色を示す、新規就農者にも分かりやすいカラーチャートを活用した各産地での研修会等による高品質安定栽培の技術指導の強化。 </div> <p>ii)ギフト需要に対応した「シャインマスカット」のブランド化</p> <div data-bbox="387 794 1368 999" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月ギフト用出荷販売方策を検討するための「シャインマスカット」プロジェクト会議を開催(5月書面協議、再掲) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA全農山形が試作した果房に取り付けるタグ等のギフト向けのPR資材の検討。 ・長期貯蔵販売推進のための現地巡回の実施。 </div> <p>iii)ワイン用ぶどう等の導入推進</p> <div data-bbox="387 1054 1368 1358" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南陽市十分一山に、傾斜地における省力技術の検討を行う実証ほを設置(5/8～) ・上山市小穴に、本県に適した品種や省力技術の検討を行う実証ほを設置(4/1～) ・新型コロナウイルスによるワイン需要低下の影響を調査(7/30～)[新] ・ワイン用ぶどう栽培について学ぶ指導者向け研修会を開催(8/18) ・実証ほにおける生育状況を確認し(9/8、11)、果房品質を検討(9/15、23)[新] <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証ほを活用した、ワインぶどう省力栽培技術の普及・指導の実施。 ・新型コロナウイルスの影響を踏まえた生産組織とワイナリーのマッチングの支援。 </div> <p>iv)サニールージュの産地確立</p> <div data-bbox="387 1414 1368 1513" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証ほと栽培マニュアルを活用した栽培研修会を実施(6月、3か所、参加者計36人) ・目揃え会を実施(7/21) </div>	<p>【目標指標】</p> <p>①ぶどう産出額 ②「シャインマスカット」栽培面積</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <p>①91億円(H26) ②87ha(H26)</p> <p>【直近】</p> <p>①118億円(H30) ②154.9ha(H29)</p> <p>【目標値】</p> <p>①115億円(R2) ②150ha(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸大国やまがた産地育成支援事業費 ・園芸大国やまがた推進事業費 ・果樹農業好循環形成総合対策事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶどう産地拡大プロジェクト事業費 	<p>シャインマスカットプロジェクト会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証ほと栽培マニュアルを活用した栽培研修会の開催(11月) <p>v)赤系大粒ぶどうの新品種開発</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3パターンの交雑を実施(6月) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DNAマーカーによる実生選抜の実施。 ・既獲得実生・系統の調査及び選抜の実施。 ・交雑母本として導入した品種の生育・果実品質の調査(36品種) ・ぶどう果皮の硬さ等の物性評価の実施。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シャインマスカット」は栽培面積の拡大に伴い、経験の浅い生産者が増えており、品質のばらつきが問題となっていることから、新規栽培者向けの技術支援を強化し、高品質化と栽培技術の平準化を図る必要がある。 ・ワイン用ぶどうは、栽培面積の拡大に加え、ワイナリーも増加している。県産ワインへの関心の高まりに対応するため、マッチング支援やより省力的なワイン用ぶどう栽培技術の実証を進めていく必要がある。 			
<p>(5)「北の桃源郷」もも産地拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】</p> <p>○立枯れ防止技術の実証等による枯死対策技術の定着と晩生品種の栽培体系の確立による生産拡大を加速し、晩生もものブランド化を推進する。</p> <p>【担当課】</p> <p>園芸農業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹品種である「あかつき」と「川中島白桃」の出荷時期をつなぐ優良品種の検討と導入を推進。 ・立枯れ対策技術の普及・定着により安定生産を図ることで、ブランド確立を目指す。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i)晩生ももの産地化の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早生・中生種も含めた優良品種を検討(8月) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晩生種の高品質生産事例の収集及び情報共有。 <p>ii)樹体の枯死対策の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各農業技術普及課が設置する立枯れ対策技術実証ほ(3か所)での研修会を開催(随時) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象変動対策設備としてのももの帆柱(支柱)の導入の推進(随時) ・ハイブリッド仕立て栽培研修会の開催(2回) <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極晩生品種は有利販売できるものの、秋雨等によるロスが多く、ロットが安定しないため、早生から晩生品種のリレー出荷による山形県産もも全体の生産拡大やブランド化に向けた検討を進める必 	<p>【目標指標】</p> <p>①もも産出額</p> <p>②もも立枯れ発生割合</p> <p>【現状値】</p> <p>〔戦略策定時〕</p> <p>①26億円(H26)</p> <p>②7%(H29)</p> <p>〔直近〕</p> <p>①31億円(H30)</p> <p>②10.8%(H30)</p> <p>【目標値】</p> <p>①34億円(R2)</p> <p>②5%以内(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸大国やまがた産地育成支援事業費 ・園芸大国やまがた推進事業費 ・果樹農業好循環形成総合対策事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北の桃源郷」ももブランド化プロジェクト事業費 	<p>「北の桃源郷」ももづくりプロジェクト会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの実証ほによる展示、立枯れ対策研修会、ハイブリッド仕立て研修会の実施により、立枯れしにくい栽培管理が浸透し、立枯れが減少傾向にあるため、取組みを継続する必要がある。 			
<p>(6) 特産果樹産地強化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○高品質安定生産を推進し、市場評価の向上を図るとともに、産地・品目の特性を活かした付加価値の高い流通・販売を図りながら、産地の強化や新たな産地づくりを推進する。</p> <p>【担当課】 園芸農業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> かき、日本なしでは、省力で大玉生産可能な栽培技術の普及・定着を図るとともに、日本なしでは、市場評価が高い品種の導入を推進。 地域オリジナルすもも品種の栽培技術の普及や良食味果実出荷により、市場評価の向上と生産拡大を推進。 旅館や飲食店等と連携した香酸かんきつの活用を促し、地域の活性化を後押し。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) かき産地の強化</p> <div data-bbox="385 603 1364 842" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大玉生産のための栽培管理講習会の開催(5月～7月、9回) 「大玉生産マニュアル」や「大玉生産判定スケール」を活用した大玉生産推進のための研修会の開催(7/14、参加者 40名) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 干し柿製造における品質の高位平準化と衛生管理の強化・徹底に向けた研修会の開催(1月) 大玉生産技術の普及定着等庄内柿産地の活性化に向けたフォーラムの開催(3月) </div> <p>ii) 日本なし産地の強化</p> <div data-bbox="385 895 1364 1235" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大玉生産(早期着果制限)に向け、園地巡回・調査に基づいた検討会や直売所設置運営に当たって新型コロナ対策の啓蒙を実施(3回:6/22、7/22、8/20。参加者計 30人) 適期病害虫防除のため、巡回調査及び調査結果に基づいた防除情報作成提供(巡回調査 14回:4/13～8/21、参加者計 140人、防除情報8回配布) 「あきづき」や「南水」等の高接や改植支援のため、婦人部や青年部を対象に講習会を開催(3回:6/23、24、7/22。参加者計 30人) 適期収穫・出荷講習会の開催(9/16、参加者 20人) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有利販売に向けた市場関係者との情報交換会の開催(12月) </div> <p>iii) すもも産地の強化</p> <div data-bbox="385 1287 1364 1490" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 品種特性にあった適正な管理作業の徹底に向けた栽培管理講習会を開催。 人工受粉講習会(4/7、2か所、参加者計 50人)、夏季管理講習会(5/22、2か所、参加者計 70人) 目揃え会において適期収穫を指導(7/1～7/2、7/21、7/28、8/6～7、9/4 計5回 延べ 350人) ※下線は、同一内容で2日間にわたり実施、それ以外は午前、午後で実施) 新規栽培者の技術力向上に向けた巡回指導を実施(5/29、対象:OSINの会、30人) </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> かき平均単価 日本なし平均単価 <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> 158 円/kg(H27) 214 円/kg(H27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> 207 円/kg(R1) 249 円/kg(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> 175 円/kg(R2) 240 円/kg(R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 園芸大国やまがた産地育成支援事業費 園芸大国やまがた推進事業費 果樹農業好循環形成総合対策事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 庄内柿産地活性化プロジェクト事業費 	<p>庄内柿振興協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい西村山地元育成品種の特性把握に向けた調査を実施。 生態調査(13品種:発芽期、開花期、収穫期):3/13～、計16回。 ・部会員及びすもも研究会員合同の園地巡回を実施(7/17、8/7 計2回) 〈調査品種 13 品種〉彩李(サリー)、赤李(あかり)、緑李(みどり)、赤肉3倍体系統、サターン、サンローゼス、マーキュリー、光李(ひかり)、晩生太陽系統①、②、③、愛李(ラブリー)、笑李(スマイリー) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元育成新品種の特性把握に向けた調査の実施(随時) ・品種特性にあった適正な管理作業を徹底するための研修会等の開催(剪定講習会:12月、栽培研修会:1月) ・新規栽培者の掘り起こしに向けた説明会の開催(12月) </div> <p>iv) 温暖化に対応した地域活性化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すだちを導入した生産者のほ場巡回指導を実施(6/9、8/11) ・県産すだちのPRと生産者及び飲食店の情報交換を行うすだちほ場見学会を開催(8/25、26、参加者27人、テレビ4社・新聞3紙で報道) ・生産者を対象とした栽培技術研修会を開催(8/25、26) ・飲食店等へPR資材(のぼり、パンフレット等)を配布(8月下旬～) ・SNS等を活用し県産すだちをPR(9/10) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産すだちの試験販売と評価の聞き取り、販売店舗数の調査(9月～11月) ・生産者のほ場巡回指導(11月) </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かき、日本なしは、大玉生産の取組みにより、単価が向上しており、引き続き大玉栽培技術の普及・定着を図っていく必要がある。 ・すももは、地域オリジナル品種の栽培面積が拡大しており、今後は、収穫期判定指標に基づいた適期収穫により良食味出荷を推進し、ブランド化を図っていく必要がある。 ・香酸かんきつ(すだち)は、栽培技術や商品性の高い収穫法が確立されつつあることから、飲食店等での活用を促進し、付加価値の高い販売ルートの開拓や生産の拡大を図っていく必要がある。 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

戦略分野2:野菜～次世代型施設園芸の導入と水田フル活用による野菜産地の拡大～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 山形えだまめ・すいか日本一産地化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○えだまめは産出額日本一を目指し、すいかは「夏すいか日本一」の地位を盤石なものにするため、省力技術や機械(収穫機等)の導入による規模拡大を進めるとともに、選果施設を核とした産地基盤の強化とブランド力の向上を図る。</p> <p>【担当課】 園芸農業推進課 農村整備課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <p>[えだまめ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本一の産出額の産地を目指すために、光センサーによる評価などの科学的根拠に裏打ちされた良食味えだまめの生産、知名度の向上による単価の向上と長期継続出荷を組み合わせた生産拡大の推進。 <p>[すいか]</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏すいか日本一のさらなる産地拡大に向けて、規模拡大の妨げとなっている作業工程の改善やICTを活用した安定生産技術等を導入し、新選果施設を核とした産地規模の拡大の推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 山形えだまめの日本一産地づくりの推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形枝豆日本一産地化協議会を書面で実施(6月) 土壌害虫に有効な薬剤や拮抗作物の現地実証圃を設置(5月～) 低温期生育安定化のためのマルチ栽培の実証圃を設置(5月～) 大規模選果場の利用を想定したコールドチェーン体制について調査検討(7月～) 光センサーを活用した食味評価システムによる現地調査と栽培改善指導を実施(8月～) 「山形枝豆日本一産地化フォーラム」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県内のえだまめ産地振興に関する意見交換会の開催(11月) 各実証圃の結果取りまとめおよび検討会の開催(3月) </div> <p>ii) 日本一夏すいかの生産力の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> スマート農業技術によるすいか生産イノベーションプロジェクト現地検討会を開催(7/14) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 病気予測システムの実証と評価。 「豊作計画」のレポート機能を活用した新しい整枝法の省力効果の検討。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <p>[えだまめ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 高品質安定生産に向けた各種実証ほの設置や鮮度保持対策を計画どおり実施した。 光センサーを活用した食味レベルの調査を計画どおり実施した。一方、光センサーを活用した食味評価システムを販売PR場面で活用する計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大により実施できなかった。 消費者庁に電話取材し、景品表示法の解釈などを教授いただき、PR戦略について検討している。 	<p>【目標指標】</p> <p>①えだまめ産出額 ②えだまめ単価 ③すいか産出額 ④すいか単価</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <p>①30億円(H26) ②478円/kg(H26) ③44億円(H26) ④130円/kg(H26)</p> <p>【直近】</p> <p>①45億円(H30) ②748円/kg(H30) ③62億円(H30) ④191円/kg(H30)</p> <p>【目標値】</p> <p>①52億円(R2) ②690円/kg(R2) ③58億円(R2) ④160円/kg(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 園芸大国やまがた産地育成支援事業費 園芸大国やまがた推進事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期山形枝豆・夏すいか日本一プロジェクト事業費 スマート農業普及推進事業(一部) 	<p>山形枝豆日本一産地化推進協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> 7月～9月の東京中央卸売市場のえだまめ取扱実績では、全国的に数量減の単価高となっているが、本県の販売額は前年を上回る107%となっており、プロジェクトの取組みが産地に浸透し、産出額増加に向けた成果につながっている。今後も品質を維持した上で産地拡大を図っていく必要がある。 [すいか] 産出額は62億円(H30)と前年より4億円増加し、全国3位となっている。8月の東京中央卸売市場におけるシェアは50%を超え、日本一の夏すいか産地となっている。今後とも持続的に産出額拡大を図るためには、生産工程の改善や省力化による規模拡大、高齢化に対応した軽労化技術の普及が必要である。 栽培管理の軽労化・省力化が見込まれる新しい整枝法について、実証ほの設置や講習会を通して普及拡大を図った。生産工程の改善では、すいか版作業工程管理システムの検証を行っている。 ICTの活用による省力化では、すいかの発病予測システムに基づいた防除の実証を行うとともに、情報を生産者に広く周知した。今後、効果の検証を行う。 			
<p>(2) 野菜産地ランクアッププロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○本県の強みを活かせるトマトと土地利用型野菜(ねぎ、アスパラガス、にら)については、栽培施設の導入と水田転換畑への作付拡大を推進しながら、生産性の向上、出荷期間の延長、経営規模の拡大により、全国トップクラスの産地を目指していく。</p> <p>【主担当課】 園芸農業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> トマトは、ICT技術を利用した環境モニタリング装置などを活用し、生育の「見える化」を図りながら産地を牽引するモデル経営体の育成、多収化技術の普及による生産拡大を推進。 土地利用型野菜は、水田をフル活用した生産の拡大のため、長期継続出荷や、省力化による規模拡大、多収化技術の普及による産地の拡大の推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 高収益が見込まれる野菜の産地形成の強化</p> <div data-bbox="387 869 1364 1141" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生育調査と環境モニタリングを組み合わせたトマトの生育「見える化」の現地実証に関する検討会を開催(6/2) トマトの生育「見える化」に関する実証ほを設置(4月～山形市、村山市、新庄市、米沢市) 多収生産に向けたミニトマトの実証ほを設置(4月～酒田市) トマト若手生産者らのネットワーク化と技術向上を目的とした先進地視察研修を県内4ヵ所で開催(9/3～4) ミニトマトの多収生産に向けた技術周知のための研修会を開催(9/7、9) </div> <div data-bbox="387 1141 1364 1209" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各実証ほの結果取りまとめおよび検討会の開催(3月) </div> <p>ii) 土地利用型野菜の産地形成の強化</p> <div data-bbox="387 1265 1364 1501" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 春ねぎ及び初夏ねぎの実証ほについて、昨年度からの継続調査分について、7/14に結果を取りまとめ、7月末に予定されていた春ねぎ及び初夏ねぎの技術周知のための検討会は中止。 春ねぎ及び初夏ねぎの作期拡大に関する実証ほを設置(7月～、酒田市) アスパラガスの機械化による省力化に向けた栽植様式の実証ほ(6月～、飯豊町)と、茎枯病対策技術確立に向けた実証ほ(4月～、最上町)を設置。 </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①トマト産出額 ②トマト生産量 ③土地利用型野菜(アスパラガス、にら、ねぎ)産出額 ④土地利用型野菜(アスパラガス、にら、ねぎ)作付面積 <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①36億円(H26) ②11,000t(H26) ③41億円(H26) ④991ha(H26) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①45億円(H30) ②11,300t(R1) ③71億円(H30) ④1,002ha(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①43億円(R2) ②12,300t(R2) ③64億円(R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸大国やまがた産地育成支援事業費 ・園芸大国やまがた推進事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜産地ランクアッププロジェクト事業費 	<p>トマト産地強化プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・にらの省力機械の実演会を開催(除草機械 6/17、マルチ栽培用移植機 5/15)</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・アスパラガスの茎枯病対策技術周知のための検討会の開催(12月)</p> <p>・にらの長期安定生産モデル体系の現地実証(金山町、真室川町)と実証結果を基にした栽培暦の作成。</p> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <p>[トマト]</p> <p>・生産性や品質の向上が期待でき、他県産地での導入が進んでいるトマトの生育「見える化」の実証ほを県内4カ所に設置できた。また、若手・担い手生産者を対象とした県内先進事例を学ぶ研修会を開催し、県内で取組みやすい環境制御等の事例について周知できた。</p> <p>・令和元年のトマトの生産量は、戦略策定時の平成26年と比較して103%(農林水産省作物統計)であるが、東京中央卸売市場の単価(山形県産、トマト・ミニトマトの合算値)については、同年比112%と向上している。今後も、環境モニタリングやトマトの生育「見える化」などの最新技術の導入を進め、高品質安定生産に継続して取り組んでいく必要がある。</p> <p>[土地利用型野菜]</p> <p>(ねぎ)</p> <p>・庄内地域では、春ねぎおよび初夏ねぎ(坊主知不)の実証ほを設置し、出荷期の拡大を推進している。冬ねぎ(ハウス軟白)については、発生予察情報を活用しながら、アザミウマ類の防除体系の策定・周知を進めた。県内のねぎ生産については、機械化や分業化の推進により、品質を維持・向上させつつ生産規模の拡大を図る必要がある。</p> <p>(アスパラガス)</p> <p>・最上地域では、新規栽培者が増えている中、栽培技術の高位平準化に向け、広域での圃場巡回講習会等の取組みを継続している。今後は、若手生産者の組織化により、さらなる技術力向上を推進するとともに、選果場の利用地域の拡大により、省力化を推進する必要がある。</p> <p>・置賜地域では、飯豊町の大規模園芸団地において、適正水分管理による安定生産や、機械を用いたほ場管理の省力化に取り組んでおり、これら技術の導入により、多様な担い手の参入・定着化を推進し、継続的な産地拡大を図る必要がある。</p> <p>・庄内地域でも産地拡大の動きがあり、各産地の気象条件や担い手に合わせた技術の構築が求められる。また、茎枯病を中心とした病害対策には、全県的に取り組む必要があり、産地ごとに対策徹底を周知する必要がある。</p> <p>(にら)</p> <p>・最上地域では、高齢化や労働力不足等で生産量が減少しているため、機械化を核とした省力技術の導入による経営規模の拡大を引き続き推進する。また、長期安定出荷技術の確立による高単価期(秋にら)の生産拡大の取組みを継続し、産地の拡大を図る。</p>	④1,100ha(R2)		
<p>(3) やまがた野菜産地再生プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <p>・メロンについては、産地が一体となって策定した産地再生のアクションプランに沿った活動に取り組み、産地基盤の強化とブランド力の強化の推進。</p> <p>・きゅうりは若手担い手への篤農家技術の継承による産地基盤の強化。</p>	<p>【目標指標】</p> <p>①メロン産出額</p> <p>②メロン単価</p>	<p>【ハード】</p> <p>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</p>	<p>庄内砂丘メロン産地強化プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>○産地規模が縮小傾向にあるメロンやきゅうり、セルリー等で新規栽培者の確保・育成につながる栽培施設の導入と団地化を推進する。</p> <p>【主担当課】 園芸農業推進課</p>	<p>・さといもは生産者、実需者等を構成メンバーとするプロジェクト会議の活動を実施し、需要期を中心とした生産振興の推進。</p> <p>・セルリーは大規模団地での安定生産の確立、なすは施肥管理技術や病害虫対策技術の導入による生産拡大の推進。</p> <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i)メロン産地の再生</p> <div data-bbox="387 391 1366 762" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチーム会議を開催し、「庄内砂丘メロンの日(7/6)」を核とした統一PRについては実施しないことを確認(6/8) ・5果どりの実証ほを設置し研修会を開催(7/7) ・プロジェクトチーム会議を開催し、庄内砂丘メロンプロジェクト次期アクションプランについて検討(6/8、9/4) ・メロンの食感風味を活かす加工技術の開発を実施(6月～) ・メロンの生産・流通・消費動向を把握するための「庄内砂丘メロン取扱い・販売状況調査」を実施(9月～) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内全地域の生産者を対象とした「庄内砂丘メロン研修大会」の開催(1月) </div> <p>ii)きゅうり産地の再生</p> <div data-bbox="387 818 1366 991" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篤農家の栽培環境のモニタリングを行い、その結果に基づいて、技術継承のための講習会を開催(8/3) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培環境モニタリング技術活用の効果周知のための、プロジェクト会議の開催(3月) </div> <p>iii)地域特産野菜(セルリー、なす)産地の再生</p> <div data-bbox="387 1046 1366 1418" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルリーの土壌病害対策に関する研修会を開催(5/22) ・セルリーの土壌病害対策技術確立に向けた実証ほを設置(4月～、山形市) ・なすの天敵資材等を活用した総合的病害虫防除体系の実証ほを設置(5月～、寒河江市) ・なすの栄養診断技術周知のための研修会を開催(9/4、18) ・さといもの早掘り体系確立に向けた現地実証ほの設置(4月～、最上町) ・さといもの選別の徹底に向け、出荷規格表をもとにした研修会を開催(8/20) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルリーの土づくりに関する研修会の開催(12月) ・なすの総合的防除技術及び栄養診断技術周知のための検討会の開催(3月) ・さといもの省力的出荷体系の普及拡大に向けたモデル事例集の作成(2月) </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題 [メロン]</p>	<p>③きゅうり産出額 ④地域特産野菜(セルリー、なす)産出額</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <p>①29億円(H26) ②230円/kg(H26) ③35億円(H26) ④20.5億円(H26)</p> <p>【直近】</p> <p>①41億円(H30) ②373円/kg(H30) ③41億円(H30) ④23億円(H30)</p> <p>【目標値】</p> <p>①36億円(R2) ②255円/kg(R2) ③39億円(R2) ④26.8億円(R2)</p>	<p>・園芸大国やまがた推進事業費</p> <p>【ソフト】</p> <p>・やまがた野菜産地再生プロジェクト事業費</p>	<p>さといも生産振興プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議				
	<p>・これまではJAごとの独自の取組みが中心だったが、本プロジェクトの活動を通して一体的な動きが見られている。</p> <p>・新規栽培者向けマニュアルの作成等を通してJA間の技術交流が図られた。さらなる産地拡大に向けて、次期アクションプランを策定し、引き続き庄内地域の関係機関が一体となった産地復興の取組みを展開する必要がある。</p> <p>[きゅうり]</p> <p>・ICTを活用して篤農家技術のデータを可視化し、若手生産者への熟練技術の継承を支援している。全国的な産地の減少から、近年高値傾向が続いており、県内各地で産地拡大の動きがある。今後、さらなる新規生産者の増加が想定されることから、ICTを活用した技術継承を進めるとともに、県産きゅうりの市場価値向上を図るため、選果施設の整備等による分業化を推進し、安定生産を図る必要がある。</p> <p>[セルリー]</p> <p>・県事業を活用した団地化が図られ、新規就農者の参入により産地が拡大している。一部ほ場で黄化症状の発生が見られることから、関係機関が連携し、防除体系の確立や発生を防ぐための新たな作期の検討を進めている。今後、これらの技術の産地への普及・定着を図る必要がある。</p> <p>[なす]</p> <p>・省力的な全量基肥技術は定着化が図られたが、新規生産者の参入で、産地内での技術格差が大きくなっている。栽培技術の底上げを図るため、リアルタイム栄養診断に基づいた施肥指導に継続して取り組む。</p> <p>[さといも]</p> <p>・昨年度作成した、全県版の「さといも出荷規格表」を活用し、選別徹底のための研修会を開催した。今後、各生産組織における選果基準周知の際の指標として、当該規格表を活用し、選別徹底による県産さといもの市場価値向上を図る。</p> <p>・食品加工業者と連携した生産者の出荷調整労力の軽減や、機械化の推進による省力化・規模拡大の取組について、今後、事例集を作成し、新たな産地育成に活用する。</p>							
<p>(4) やまがた次世代型施設園芸推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○次世代を担う意欲ある農業者の経営発展のため、先端技術やICT、木質バイオマス等の地域資源エネルギー等を活用した次世代型施設による大規模施設園芸を推進する。</p> <p>【担当課】 園芸農業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <p>・施設園芸を発展させるために、低コストハウスで、自動環境制御と地域資源エネルギーを活用した次世代型園芸施設による、トマトの周年栽培を実証し、本県の気象条件に対応した次世代型の施設園芸のモデルを構築し、普及拡大を図る。</p> <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 次世代型の園芸施設の実証</p> <table border="1" data-bbox="383 1273 1368 1410"> <tr> <td data-bbox="383 1273 1368 1310">【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 1310 1368 1347">・園芸農業研究所と大蔵実証拠点の2か所でトマトの周年栽培の実証試験を実施中(4月～)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 1347 1368 1383">【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 1383 1368 1410">・山形県におけるトマト周年栽培のマニュアルの作成。</td> </tr> </table> <p>ii) 次世代型の園芸施設の拠点づくり</p>	【令和2年9月末までの取組実績】	・園芸農業研究所と大蔵実証拠点の2か所でトマトの周年栽培の実証試験を実施中(4月～)	【令和2年度の今後の取組予定】	・山形県におけるトマト周年栽培のマニュアルの作成。	<p>【目標指標】</p> <p>①山形県に適応した次世代型施設の実証か所数</p> <p>②山形県に適応した次世代型施設園芸の拠点数</p> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <p>①0か所(H27)</p> <p>②0か所(H27)</p> <p>【直近】</p>	<p>【ハード】</p> <p>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</p> <p>【ソフト】</p> <p>・野菜産地ランクアッププロジェクト事業費</p>	
【令和2年9月末までの取組実績】								
・園芸農業研究所と大蔵実証拠点の2か所でトマトの周年栽培の実証試験を実施中(4月～)								
【令和2年度の今後の取組予定】								
・山形県におけるトマト周年栽培のマニュアルの作成。								

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト若手生産者らのネットワーク化と技術向上を目的とした先進地視察研修を県内4ヵ所で開催し、環境モニタリングや環境制御の事例を周知(9/3～4) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した環境モニタリングと生育調査に関する研修会の開催(12月) <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒河江市と大蔵村で同じ管理方法でトマトの周年栽培の実証に取り組んだところ、寒河江市では2年連続で目標を達成できたが、大蔵村では目標収量に達しなかった。地域毎の気象条件に適応した栽培管理技術を検討し、山形県におけるトマト周年栽培のマニュアルを作成する。 	<p>①2ヵ所(H29)</p> <p>②3ヵ所(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①2ヵ所(H29)</p> <p>②5ヵ所(R2)</p>		

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

戦略分野3:花き～水田フル活用による露地花きの産地拡大と施設花きの収益性向上～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 露地花き産地拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○新規生産者の確保と水田転換畑への作付け拡大と合わせ、長期継続出荷を可能とするハウス等を利用した産地拡大を推進する。 ○県の花である紅花については、観光資源としての利用も視野に入れた作付け拡大や新たな加工食品等の開発による需要の拡大を推進する。</p> <p>【担当課】 園芸農業推進課 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 露地花きは、産地規模拡大のため、新規生産者の確保と水田転換畑への作付け拡大とハウス等を利用した長期継続出荷により、産地拡大を推進。 紅花は、紅もち等の一次加工品の生産振興を図るとともに輪作による景観作物としての作付面積の拡大と集客の多い施設等での飾花活動による切り花の需要拡大を推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 露地花き(りんどう、花木等)産地の拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「啓翁桜」成園管理技術実証ほを設置(4月～、山形市、西川町、東根市、高島町、白鷹町、酒田市) りんどう新品種の栽培体系確立実証ほを設置(4月～、尾花沢市、米沢市) りんどう新規生産者向けの栽培技術取得研修会を開催(7/16、上市市) りんどう主要取引市場3社及び小売店において「ハynes」を展示(8/20～9/4、東京都) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「啓翁桜」ポスターを活用したPRの実施。 </div> <p>ii) 長期継続出荷による産地の育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ダリア長期継続出荷実証ほを設置(4月～、川西町) ハウス栽培によるダリアの拡大方針に関するダリア産地強化プロジェクト会議を開催(9/7、川西町) 「スノーボール」促成、抑制実証ほを設置(4月～、河北町、大蔵村) 良品生産のための「スノーボール」枝整理研修会を開催(7/18、寒河江市) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スノーボール」促成出荷研修会の開催。 </div> <p>iii) 紅花の生産振興</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 連作障害対策のための土壌サンプリングを実施(6/16、山形市、米沢市、天童市、白鷹町) 世界農業遺産への認定申請に係る申請書類を農林水産省へ提出(7/22)し、一次審査を通過(9/18) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本農業遺産の保全計画に基づいた活動の実施。 世界農業遺産への審査対応(現地調査 11/13、二次審査1月) 紅花新規生産者の技術習得の支援。 </div>	<p>【目標指標】</p> <p>①露地花き(りんどう、さくら「啓翁桜」、ダリア等)の産出額</p> <p>②露地花き(りんどう、さくら「啓翁桜」、ダリア等)の作付面積</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <p>①6.5億円(H26)</p> <p>②259ha(H26)</p> <p>【直近】</p> <p>①6.7億円(H30)</p> <p>②293ha(H30)</p> <p>【目標値】</p> <p>①15億円(H32)</p> <p>②320ha(H32)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 園芸大国やまがた産地育成支援事業費 園芸大国やまがた推進事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 花き産地拡大プロジェクト事業費 紅花振興拡大プロジェクト事業費 次世代国産花き産業確立推進事業 県産花き活用拡大支援事業費 	<p>花き産地強化プロジェクト会議</p> <p>山形県紅花振興協議会</p> <p>山形県花き生産連絡協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議														
	<p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんどうは、最上地域、置賜地域を中心に作付面積、出荷量が拡大し、品種のバリエーションも増えている。今後も出荷増が見込まれるため、県産りんどうの知名度向上に継続して取り組む必要がある。 ・「スノーボール」は促成栽培による出荷量が拡大している。ダリアと「スノーボール」は露地栽培主体のため、ハウス栽培等による促成栽培、抑制栽培の導入を推進し、出荷期の拡大に取り組み、産地としての信頼を高めていく。 ・「啓翁桜」は、作付け面積が拡大している。今後も面積拡大が見込まれるため、省力的な成園管理技術の定着を図り、さらなる出荷量の拡大を図る。 ・紅花は、日本農業遺産認定の効果で注目が高まっており、県内外からの問い合わせが増えている。連作障害への対策を強化し、生産拡大を図る。 ・世界農業遺産の認定申請に向けて、審査基準に対応した内容で現地調査、二次審査の準備を進める。 																	
<p>(2) 施設花き生産性向上プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○新たな花き品目の導入や経営管理能力の向上による企業の経営を実現するとともに、低コスト・省力生産技術や開花調節技術等の導入による生産性と品質の向上を推進する。</p> <p>【担当課】 園芸農業推進課 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周年型花きでは、新たな花き品目の導入や経営管理能力の向上により、企業の経営を実現。 ・施設花きでは、市場評価を高めるため、土壌病害対策技術や開花調節技術、省力化が可能な品種等の導入により、安定生産と品質の向上を推進。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p>i) 周年型施設花き(ばら、アルストロメリア等)の経営体質の強化</p> <table border="1" data-bbox="387 869 1366 1045"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・県産花き次期作支援事業において、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた施設花き(ばら、アルストロメリア、ゆり、鉢物)の種苗更新を支援(4/30以降の事業実施)</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・栽培環境モニタリング調査を活用した適正管理の普及。</td> </tr> </table> <p>ii) 施設花き(トルコぎきょう、ストック等)産地の強化</p> <table border="1" data-bbox="387 1098 1366 1300"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・トルコぎきょうの実証ほを設置し、立枯病対策の土壌消毒を実施(4月、新庄市)</td> </tr> <tr> <td>・ストック新品種の実証ほを設置(4月～、鶴岡市、酒田市)</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・トルコぎきょうの病原に対応した土壌病害対策の研修会の開催(10/29、鶴岡市)</td> </tr> <tr> <td>・ストック新品種の検討会の開催(11月)</td> </tr> </table> <p>iii) 県産花きの需要拡大</p> <table border="1" data-bbox="387 1356 1366 1490"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・県庁ロビー、山形駅など効果の高い場所において県産花きを飾花しPR(6/15～)</td> </tr> <tr> <td>・小中高校及び特別支援学校(404校)において県産花きを展示(7/14～、9/8～)</td> </tr> <tr> <td>・商店街等のキャンペーンにおいて県産花きをプレゼント(7/8～)</td> </tr> </table>	【令和2年9月末までの取組実績】	・県産花き次期作支援事業において、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた施設花き(ばら、アルストロメリア、ゆり、鉢物)の種苗更新を支援(4/30以降の事業実施)	【令和2年度の今後の取組予定】	・栽培環境モニタリング調査を活用した適正管理の普及。	【令和2年9月末までの取組実績】	・トルコぎきょうの実証ほを設置し、立枯病対策の土壌消毒を実施(4月、新庄市)	・ストック新品種の実証ほを設置(4月～、鶴岡市、酒田市)	【令和2年度の今後の取組予定】	・トルコぎきょうの病原に対応した土壌病害対策の研修会の開催(10/29、鶴岡市)	・ストック新品種の検討会の開催(11月)	【令和2年9月末までの取組実績】	・県庁ロビー、山形駅など効果の高い場所において県産花きを飾花しPR(6/15～)	・小中高校及び特別支援学校(404校)において県産花きを展示(7/14～、9/8～)	・商店街等のキャンペーンにおいて県産花きをプレゼント(7/8～)	<p>【目標指標】 施設花き(ばら、アルストロメリア、トルコぎきょう、ストック)産出額</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 32億円(H26) 〔直近〕 31億円(H30)</p> <p>【目標値】 38億円(R2)</p>	<p>【ハード】 ・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</p> <p>【ソフト】 ・花き産地拡大プロジェクト事業費 ・次世代国産花き産業確立推進事業 ・県産花き活用拡大支援事業費 ・県産花き次期作支援事業</p>	<p>花き産地強化プロジェクト会議</p> <p>山形県花き生産連絡協議会</p>
【令和2年9月末までの取組実績】																		
・県産花き次期作支援事業において、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた施設花き(ばら、アルストロメリア、ゆり、鉢物)の種苗更新を支援(4/30以降の事業実施)																		
【令和2年度の今後の取組予定】																		
・栽培環境モニタリング調査を活用した適正管理の普及。																		
【令和2年9月末までの取組実績】																		
・トルコぎきょうの実証ほを設置し、立枯病対策の土壌消毒を実施(4月、新庄市)																		
・ストック新品種の実証ほを設置(4月～、鶴岡市、酒田市)																		
【令和2年度の今後の取組予定】																		
・トルコぎきょうの病原に対応した土壌病害対策の研修会の開催(10/29、鶴岡市)																		
・ストック新品種の検討会の開催(11月)																		
【令和2年9月末までの取組実績】																		
・県庁ロビー、山形駅など効果の高い場所において県産花きを飾花しPR(6/15～)																		
・小中高校及び特別支援学校(404校)において県産花きを展示(7/14～、9/8～)																		
・商店街等のキャンペーンにおいて県産花きをプレゼント(7/8～)																		

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<div data-bbox="385 172 1366 239" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】 ・公共施設、学校での展示の継続</p> </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周年型施設花きでは、花き産出額が全国的には大きく減少する中、本県は現状維持してきた。 ・設備費、光熱水費等経費を多く要する周年型施設花きでは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う需要減少による経営への影響が大きく、引き続き経営改善への支援が必要である。 ・トルコぎきょうでは、土壌消毒の効果について生産者の理解が広まり、次年度の導入が検討されている。今後も技術指導等を継続する必要がある。 ・継続したPRや「花を飾ろう！贈ろう！」運動により県産花きへの関心が高まっている。さらなる県産花きの需要拡大・認知度向上のため、特に子供たちが花に触れ合う機会を継続して提供する必要がある。 ・首都圏に出向いてのPR活動は難しいため、りんどう「ハイネス」展示を参考に、展示と電話商談、リモート商談を組み合わせた販売促進活動の展開を支援する。 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

戦略分野4:園芸産地の基盤強化～大規模園芸団地づくりや水田畑地化等による産業基盤の強化～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 園芸作物大規模集積団地推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○最先端技術等をフル活用し、省力的で高い生産力を実現し、大口取引にも対応できる収益性の高い大規模園芸団地の整備を推進する。</p> <p>【主担当課】 園芸農業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、園芸団地化推進員を配置するとともに、地区ごとに団地化支援チームを設置して、大規模園芸団地形成に向けた合意形成や団地化計画の策定を支援。 各地区の販売額の目標達成に向けて、団地化支援チームが継続的に支援。 引き続き、国庫補助事業等を活用し、大規模園芸団地形成に必要な生産施設の整備や農業機械導入を支援。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 大規模集積団地づくりに向けた合意形成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各総合支庁に園芸団地化推進員を継続設置(4月～、計4人) 大規模園芸団地化推進プロジェクトチーム会議を開催(4/22(書面開催)、8/31、計2回) 大規模園芸団地化推進プロジェクト会議の開催(9/7) 新たに2地区の団地化計画を承認(酒田市・遊佐町アスパラガス、舟形町ねぎ) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模園芸団地化推進プロジェクトチーム会議の開催(3月) 大規模園芸団地化推進プロジェクト会議の開催(9/7) 新たな団地整備地区の掘り起こし活動と既に整備に着手した地区に対するフォローアップ。 </div> <p>ii) 大規模集積団地の整備支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年8月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種補助事業の募集から交付決定までの手続きを遅滞なく実施。 園芸大規模集積団地整備支援事業で6件計画協議済み。 園芸大国やまがた産地育成事業で9件採択。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県単独補助事業の園芸大国山形産地育成支援事業と国庫補助事業の産地生産基盤パワーアップ事業を活用した園芸大規模集積団地整備支援事業により、団地化の形成に必要な機械・施設等の整備を支援。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <p>i) 大規模集積団地づくりに向けた合意形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度目標値 20 団地に向けては、引き続き新たな団地化実施地区の掘り起こし活動を強化していく必要がある。 各地区の販売額の目標達成に向けては団地化支援チームによる継続的な支援が必要である。 JA等が苗木を育成した果樹園地を造成し農業者にリースする団地など新規就農者等が参入しやすい産地づくりや未収益期間などにも対応できる仕組みについて、国庫補助事業も活用した 	<p>【目標指標】 新たな大規模集積園芸団地数</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 — 〔直近〕 17団地(R1)</p> <p>【目標値】 20 団地(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模集積団地整備支援事業 園芸大国やまがた産地育成支援事業費 	<p>大規模団地化推進プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議													
	<p>支援を検討する。</p> <p>ii)大規模集積団地の整備支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団地整備が円滑に進むよう引き続き、各種補助事業の募集から交付決定までの手続きを遅滞なく実施する必要がある。 																
<p>(2) 水田畑地化基盤強化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○水田のフル活用を図っていくため、高収益作物への転換を後押しする水田の畑地化・汎用化(排水改良・地下かんがい等)を推進するとともに、産地形成に向けた園芸作物の導入を加速化する。</p> <p>【担当課】 農村整備課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、高収益作物への転換を後押しする水田の畑地化・汎用化(排水機能向上や地下かんがい等)の基盤整備を実施し、水田のフル活用による農家所得向上を支援。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i)水田の畑地利用の推進</p> <table border="1" data-bbox="387 536 1368 636"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・大規模園芸団地の基盤整備を実施中。(西中野地区、下山添地区)</td> </tr> <tr> <td>・栽培実証ほ7地区を設置。</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="387 639 1368 839"> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・大規模園芸団地化に向けたハード支援(水田畑地化基盤強化対策事業等)の実施。</td> </tr> <tr> <td>①西中野地区(山形市)、補助暗渠 A=1.0ha、JA やまがた、桃</td> </tr> <tr> <td>②下山添地区(鶴岡市)、暗渠排水 A=1.3ha、JA 庄内たがわ、きゅうり</td> </tr> <tr> <td>③谷地地区(川西町)ほか3地区、地下かんがい工 A=37.7ha、山形県、えだまめ</td> </tr> <tr> <td>・新たな園芸作物の導入に向け栽培実証ほを7地区に設置。(新規3地区、継続4地区)</td> </tr> </table> <p>ii)水田畑地化の整備促進</p> <table border="1" data-bbox="387 895 1368 963"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・水田の畑地化・汎用化に向け、排水改良や地下かんがい工事などの基盤整備を実施。</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="387 967 1368 1067"> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・引き続き、水田を活用した園芸作物等の高収益作物の拡大に向けた排水改良・地下かんがい工を16地区、275haで実施。</td> </tr> </table> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田から高収益作物への転換を後押しするため、園芸作物の導入に向けた実証ほや大規模園芸団地化に向けた基盤整備を行ったほか、水田の畑地化・汎用化(排水改良・地下かんがい等)を行ったことにより高収益作物の生産額が向上している。 ・引き続き水田を活用した園芸作物等の高収益作物の拡大を支える排水改良や地下かんがい等の整備が必要である。 	【令和2年9月末までの取組実績】	・大規模園芸団地の基盤整備を実施中。(西中野地区、下山添地区)	・栽培実証ほ7地区を設置。	【令和2年度の今後の取組予定】	・大規模園芸団地化に向けたハード支援(水田畑地化基盤強化対策事業等)の実施。	①西中野地区(山形市)、補助暗渠 A=1.0ha、JA やまがた、桃	②下山添地区(鶴岡市)、暗渠排水 A=1.3ha、JA 庄内たがわ、きゅうり	③谷地地区(川西町)ほか3地区、地下かんがい工 A=37.7ha、山形県、えだまめ	・新たな園芸作物の導入に向け栽培実証ほを7地区に設置。(新規3地区、継続4地区)	【令和2年9月末までの取組実績】	・水田の畑地化・汎用化に向け、排水改良や地下かんがい工事などの基盤整備を実施。	【令和2年度の今後の取組予定】	・引き続き、水田を活用した園芸作物等の高収益作物の拡大に向けた排水改良・地下かんがい工を16地区、275haで実施。	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高収益作物(園芸作物等)の生産額 ②園芸作物導入を加速化するための水田畑地化整備面積(累計) <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①10億円/年(H27) ②950ha(H27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①18.4億円(R1) ②2,580ha(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①20億円/年(R2) ②1,950ha(R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田畑地化基盤強化対策事業費(基盤整備) 	<p>農地有効利活用推進会議</p>
【令和2年9月末までの取組実績】																	
・大規模園芸団地の基盤整備を実施中。(西中野地区、下山添地区)																	
・栽培実証ほ7地区を設置。																	
【令和2年度の今後の取組予定】																	
・大規模園芸団地化に向けたハード支援(水田畑地化基盤強化対策事業等)の実施。																	
①西中野地区(山形市)、補助暗渠 A=1.0ha、JA やまがた、桃																	
②下山添地区(鶴岡市)、暗渠排水 A=1.3ha、JA 庄内たがわ、きゅうり																	
③谷地地区(川西町)ほか3地区、地下かんがい工 A=37.7ha、山形県、えだまめ																	
・新たな園芸作物の導入に向け栽培実証ほを7地区に設置。(新規3地区、継続4地区)																	
【令和2年9月末までの取組実績】																	
・水田の畑地化・汎用化に向け、排水改良や地下かんがい工事などの基盤整備を実施。																	
【令和2年度の今後の取組予定】																	
・引き続き、水田を活用した園芸作物等の高収益作物の拡大に向けた排水改良・地下かんがい工を16地区、275haで実施。																	

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略4: 県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

戦略分野1: 6次産業化～新たな付加価値を創出する6次産業化のさらなる拡大～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 農林漁業者自らの6次産業化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○農林漁業者による新たなスモールビジネスの芽出しから商品・販売力向上までの活動や、小規模な加工施設や地域の拠点となる6次産業化施設の整備など、発展段階に応じたきめ細やかな支援を行い、6次産業化の定着と取組拡大を推進する。</p> <p>【担当課】 農政企画課 6次産業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及組織や6次産業化支援機関等による事業計画から加工、販売までの各段階に応じた助言・指導等の強化。 ・農林漁業者等による6次産業化の定着と更なる発展を図るため、芽出しから事業化・商品化、販路拡大まで、発展段階に応じたきめ細かな支援を行うとともに、アドバイザー派遣等により経営面も含めたフォローアップの取組みを実施。併せて、商品力向上に向けたサポート活動を展開。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p style="margin-left: 20px;">i) 農林漁業者自らの6次産業化の支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形6次産業化サポートセンターの6次産業化プランナーの派遣等により、6次産業化に取り組む農林漁業者等に対する助言・指導等を実施(月平均9件程度) ・山形6次産業化サポートセンターと連携し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける農林漁業者等に対して、新たなインターネット販売の取組みを支援するため、インターネット販売用ウェブサイト作成等に係る経費の補助等を実施(6月から事業開始、補助採択:12件) ・農林漁業者自らの6次産業化の取組みに必要な機械導入等への助成(採択4件) ※事業計画のブラッシュアップのために事前相談会を開催。相談終了後、希望者に対し食品加工支援ラボ視察実施(6/29) ・加工品の商品開発や生産拡大に必要な小規模施設の整備や機械の導入への助成(採択4件) ※小規模な加工施設整備や機械導入のためのビジネス相談会を開催。希望者に対し食品加工支援ラボ視察実施(6/29) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化支援機関等関係機関と連携した農林漁業者の6次産業化の取組み段階に応じたきめ細かい助言・支援を実施。併せて、6次産業化に取り組む農林漁業者等の経営改善等及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける農林漁業者等の販売構造改善に向けた取組みについて、助言・支援を実施。 ・農林漁業者自らによる6次産業化の取組みに必要な拠点となる施設の整備や機械の導入への助成。 ・地域の特産物等を活用した加工品の商品開発や生産拡大に必要な小規模な施設整備・機器導入への助成。 ・6次産業化の取組みの継続的かつ安定的な実施や事業拡大を支援するため、事業実施主体に対し経営に関する助言・指導を行うアドバイザーの委嘱・派遣。 </div> <p style="margin-left: 20px;">ii) 地域資源を活用したスモールビジネスの創出支援[関連]</p>	<p>【目標指標】</p> <p>①産地直売所販売額 ②農産加工所販売額</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <p>①93億円(H27) ②30.5億円(H27)</p> <p>【直近】</p> <p>①118.4億円(R1) ②36.7億円(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①130億円(R2) ②35億円(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形のうまいもの創造支援事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形のうまいもの商品力・販売力強化事業費 ・デザインを活用した農林水産業魅力アップ支援事業費 ・6次産業化総合推進事業費 	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業で12事業者を採択【再掲】 ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業において令和2年7月27日からの大雨により被害が生じた地域資源を活用した取組みを追加募集【再掲】 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業に係る機器等導入・活用計画の審査の実施【再掲】 ・農山漁村地域持続的発展活動支援事業において令和2年7月27日からの大雨により被害が生じた地域資源を活用した取組みの追加採択【再掲】 ・事業者からの相談内容に応じたフォローアップの実施【再掲】 ・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導する事業相談会の開催(総合支庁単位)【再掲】 <p>iii) 商品力の高い農産加工品づくり支援</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>[村総]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携した HACCP 講習会(7/17,22,31、8/4,7,25,28,9/2,23)の開催。個別相談対応による商品化支援。 <p>[最総]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最上！農産加工研究会研修会の開催(7/15、18名) (営業許可制度の見直し・届出制度創設等について) ・商品開発・加工技術個別相談会の開催(個別相談)(7/17、3名) ・自ら6次産業化に取り組みたい生産者を各市町村の広報誌や農協のたよりで募集(6/25依頼) ・6次産業化を志望する生産者に関する情報を普及課と共有し、取り組みたい内容について個別に聞き取りを実施。また、随時、問い合わせ等に対応。 <p>[置総]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物直売所向け HACCP 研修会を直売所担当者を対象に実施(7/15 参加者18名) ・商品づくり講座を実施(8/26 参加者16名) <hr/> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>[村総]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むらやま農産加工交流会(美味しむらやま見本市12/3)の開催。 ・食品加工支援ラボを活用商品化支援。コンクール、商談会等への出展誘導。 <p>[最総]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための個別相談会等を実施し、商品力の高い加工品の開発・改善を支援。 ・自ら取り組みたい加工品にあわせて、商品化に向けて必要な許認可、リスク管理などを学ぶ手助けを個別対応で実施。冬季に実施予定の試食会に向けて参加を誘導。 ・商品づくりのきっかけの場とするための持ち寄り試食会を開催。 ・最上伝承野菜をはじめ最上の地域資源を活用した6次産業化の推進。 <p>[置総]</p>			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・農産加工情報交換会(12月)の開催。 ・改正食品衛生法への対応に向け、農産加工実践者を保健所で開催する業種別のHACCP研修会へ参加を誘導(10月、11月) [庄総] ・事業拡大に向け農産加工等に意欲的に取り組んでいる農林漁業者等を対象とした、商品力の高い農産加工品づくりを行うための研修会及び個別相談会等の開催。</p> <p>iv)デザインを活用した農林水産業魅力アップ支援</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】 ・平成30年度～令和元年度に「デザインを活用した農林水産業魅力アップ支援事業」で支援した事例(モデル事例)を紹介した事例集を県ホームページに公開。</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】 ・モデル事例におけるデザインの活用状況や効果についてフォローアップを行い、事例集の内容を更新。</p> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化支援機関により、農林漁業者による6次産業化の取組みに対して段階に応じた助言・指導等を実施しているが、山形県よろず支援拠点等の関係機関とも連携し、複雑化・高度化する傾向にある農林漁業者の課題解決を支援していく必要がある。 ・芽出しから販路拡大までの発展段階に応じた支援の実施により、農林漁業者による6次産業化の取組みは着実に定着しているが、販売が伸び悩んでいる事例も見受けられることから、取組みの継続的かつ安定的な実施やさらなる事業の拡大に向けて、販売戦略等経営面も含めフォローアップしていく必要がある。 ・6次産業化に取り組む農林漁業者の高齢化や担い手・後継者不足が進行している中、食品衛生法の改正によるHACCP導入の義務化等への対応が負担となり、取組みの継続を断念する意向を示す事業者も多いことから、継続に向けたきめ細かな支援が必要である。 ・農林漁業者が、生産から加工、販売まで取り組むには、施設等に係る初期投資や加工技術、販売のノウハウ等で負担が大きいため、共同利用加工所などの地域全体での取組みや委託加工(OEM)の活用等他産業・他分野と連携した取組みといった多様な6次産業化の促進が必要である。 ・これまで実施したデザイン活用のモデル支援の取組みについて事例集を取りまとめ、県ホームページ等においてその成果と効果を広く周知することにより、農林水産分野におけるデザイン活用の促進に繋がっているものと考えている。今後も、農林水産分野でのデザイン活用を進め、農林水産業の魅力向上とブランド力の強化につなげていく必要がある。 			
(2) 農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化プロジェクト	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターによる農林漁業者と食品製造業者等とのマッチングの促進。 ・マーケットインの視点による「売れる商品」づくりと地元及び首都圏等での販路開拓の推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p>	<p>【目標指標】</p> <p>①食品製造業等における県産農林水産物の使用割合(重量パー</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形のうまいもの創造支援事業費 	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p> <p>山形県米粉利用</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>【プロジェクトの方向性】 ○農林漁業者と食品製造業者等との連携による県産農林水産物利用拡大に結びつく商品開発等への支援や、食品卸売業大手等との連携強化による販路開拓・拡大を推進する。</p> <p>【担当課】 6次産業推進課</p>	<p>i) 農林漁業者と食品製造業者等とのマッチングの強化</p> <div data-bbox="387 212 1364 448" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に開催した地域別マッチング交流会への参加事業者の商談進捗状況についてコーディネーターが情報収集を行い、各総合支庁6次産業化支援チーム(地域産業経済課、農業振興課、各農業技術普及課)と情報共有を図るとともに、随時コーディネーター及び各総合支庁支援チームが連携し、フォローアップを実施。 「スーパーマーケット・トレードショー2021」(R3.2.17～19開催)への県ブース出展事業者を選定(21事業者) </div> <div data-bbox="387 448 1364 719" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの配置による農林漁業者と食品製造業者等が求める情報の収集・分析。 産地と食品製造業者や、食品製造業者同士のマッチング支援。 農林漁業者と食品製造業者等との出会いの場となるマッチング交流会の開催(2月頃) コーディネーター、6次産業化支援チームによるフォローアップ、新たなマッチングの継続(随時) 「スーパーマーケット・トレードショー2021」への県ブース出展を契機とした県内食品製造業者等の商品開発力・販売力の強化、販路の開拓・拡大[新] </div> <p>ii) 食品製造業者等の商品開発力の強化</p> <div data-bbox="387 775 1364 1110" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食産業王国やまがた推進事業による支援 食品製造業者が取り組む県産農林水産物の利用拡大を目的とした施設整備への助成。(採択3件) 令和2年度山形のうまいもの開発・販路開拓支援事業 農林漁業者自ら、あるいは食品製造業者等と連携して取り組む加工食品の新商品開発・改良、販路開拓・拡大に向けた取組への助成(採択8件) 令和2年度(第1回)「ファインフードコンテスト」最終審査会実施(8/6) 「スーパーマーケット・トレードショー2021」(R3.2.17～19開催)への県ブース出展事業者を選定(21事業者)【再掲】 </div> <div data-bbox="387 1110 1364 1347" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県産農林水産物の利用拡大に取り組む県内食品製造業者の設備整備等への助成。 農林漁業者自ら、あるいは食品製造業者等と連携して取り組む加工食品の新商品開発・改良、販路開拓・拡大に向けた取組みへの助成。 山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」の表彰式の開催(10/15予定)[新] スーパーマーケット・トレードショーへの県ブース出展を契機とした県内食品製造業者等の商品開発力・販売力の強化、販路の開拓・拡大[新]【再掲】 </div> <p>iii) 6次産業化商品等の販路開拓</p> <div data-bbox="387 1402 1364 1501" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おいしい山形・食材王国みやぎビジネス商談会」(10月20日開催)に係る参加者の決定。 「スーパーマーケット・トレードショー2021」(R3.2.17～19開催)への県ブース出展事業者を選 </div>	<p>ス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ②食料品製造業の製造品出荷額等 ③全国の食料品製造業における本県の食料品製造業の製造品出荷額等の割合 <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①38.3%(H27) ②3,011億円(H26) ③1.2%(H26) <p>【直近】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①40.7%(R1) ②3,293億円(H30) ③1.1%(H30) <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①43%(R2) ②4,500億円(R2) ③1.9%(R2) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形のうまいもの商品力・販売力強化事業費 ・食産業ネットワーク形成事業費 ・県産米を使った米粉利用推進事業費 	<p>拡大プロジェクト推進協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>定(21事業者)【再掲】</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい山形・食材王国みやぎビジネス商談会の開催(10/20 予定) ・山形加工食品開拓戦略会議の開催。 ・大手卸売業主催の展示会等に出展する食品製造業者に対する支援。 ・国分東北展示商談会の実施(仙台市 未定) ・地元小売店や食品卸売業と連携した商談会の開催。 ・「スーパーマーケット・トレードショー2021」への県ブース出展を契機とした県内食品製造業者等の商品開発力・販売力の強化、販路の開拓・拡大【新】【再掲】 <p>iv) 地域土産品開発等の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度山形のうまいもの開発・販路開拓支援事業 農林漁業者自ら、あるいは食品製造業者等と連携して取り組む加工食品の新商品開発・改良、販路開拓・拡大に向けた取組みへの助成(採択8件)【再掲】 ・山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」最終審査会実施(8/6)【再掲】 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林漁業者、食品製造業者等が連携して取り組む加工食品(土産品含む)の新商品開発・改良への助成。 ・山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」の表彰式の開催(10/15 予定)【新】【再掲】 ・商品の普及・販売促進に向けたPR等の支援。 <p>v) 米粉・加工用米の利用拡大</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」の開催(米粉利用商品応募 10 件)【新】 ・高校生山形のうまいもの商品開発プロジェクト【新】応募企画(米粉利用)を企業とマッチング、商品開発打合せを実施(ローソン等4社) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県米粉利用拡大プロジェクト推進協議会総会の開催。 ・山形県米粉利用拡大セミナーの開催。 ・県内製粉企業、食品製造事業者等との米粉の利用拡大に係る意見交換の実施。 ・県主催イベント等における県産米粉のPRの実施。 ・やまがた米っ粉クラブホームページによる情報の発信。 ・山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」の表彰式の開催(10/15 予定)【新】【再掲】 ・商品の普及・販売促進に向けたPR等の支援【再掲】 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度に開催した農林漁業者及び食品製造業者とのマッチング交流会後、商談が成立し新商品の販売に至ったケースも生まれており、成果が挙がっている。今後も商談状況について各総合支庁6次産業化支援チームを始め関係者が連携しフォローアップを実施し、引き続き丁寧なフォローアップに努めながら支援を行う必要がある。 			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議													
	<p>・やまがた食産業クラスター協議会等関係機関と連携し、マーケットインの視点による売れる商品づくりの支援や販路開拓の支援等を展開した。ブランド力のある県産農林水産物のさらなる利用拡大に向け、全国の食品卸業等との商談機会の創出等、取組みの一層の推進が必要である。</p>																
<p>(3) 地域の6次産業化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○地域の多様な主体が参加した6次産業化ネットワークを全市町村に形成し、市町村等が行う6次産業化拠点施設整備や「アグリランド」の構想策定・創出を支援し、地域ぐるみの6次産業化を推進する。</p> <p>【主担当課】 農政企画課 6次産業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリランド構想の策定に向け、ケーススタディ地区としての支援。 ・市町村を中心に、地域の多様な主体による連携・協同につながる6次産業化ネットワークの構築を促進するほか、市町村の6次産業化戦略策定を支援。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 元気な地域づくりの活動支援【関連】</p> <table border="1" data-bbox="385 536 1366 738"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・地域活性化の取組み意欲が高い5地区のケーススタディを実施【再掲】</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・地域活性化の取組み意欲が高い5地区でのケーススタディの実施【再掲】</td> </tr> <tr> <td>・地域づくりの話し合いや計画づくりを支援する8地区(総合支庁ごとに2地区)での実践に向けた合意形成のためのワークショップの実施【再掲】</td> </tr> </table> <p>ii) 市町村等を核とした地域内連携の推進</p> <table border="1" data-bbox="385 794 1366 965"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・6次産業化ネットワーク未形成の町(河北町)へのネットワーク形成の働きかけや助言を実施(河北町では今年度中にネットワークを設置予定)</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・6次産業化ネットワーク形成済み市町村への支援の継続、市町村戦略策定の支援。</td> </tr> </table> <p>iii) アグリランド構想モデルの策定支援・創出</p> <table border="1" data-bbox="385 1021 1366 1224"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・アグリランド構想を含む道の駅基本計画の策定支援のため東根市でケーススタディを実施【再掲】</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・アグリランド構想を含む道の駅基本計画の策定支援のため東根市でケーススタディを引き続き実施【再掲】</td> </tr> </table> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の各ブロックでケーススタディを実施しているが、それぞれの地域において、目標の達成に向けた検討が進められている。今後、ケーススタディの実施を通して、県内各地域に適した取組みのモデルを創出するとともに、その成果を波及させていくため、地域の取組み意欲を高める方策を検討する必要がある。【再掲】 ・全市町村でネットワークが形成される見込み(R2年度中)。市町村を中心とした地域での取組みも広がっており、地域全体で商品開発・販売に取り組む例や共同利用加工所等の地域拠点の整備などの動きが出てきている。今後もこの流れを進めつつ、広域的な取組みを促進するなど多様な 	【令和2年9月末までの取組実績】	・地域活性化の取組み意欲が高い5地区のケーススタディを実施【再掲】	【令和2年度の今後の取組予定】	・地域活性化の取組み意欲が高い5地区でのケーススタディの実施【再掲】	・地域づくりの話し合いや計画づくりを支援する8地区(総合支庁ごとに2地区)での実践に向けた合意形成のためのワークショップの実施【再掲】	【令和2年9月末までの取組実績】	・6次産業化ネットワーク未形成の町(河北町)へのネットワーク形成の働きかけや助言を実施(河北町では今年度中にネットワークを設置予定)	【令和2年度の今後の取組予定】	・6次産業化ネットワーク形成済み市町村への支援の継続、市町村戦略策定の支援。	【令和2年9月末までの取組実績】	・アグリランド構想を含む道の駅基本計画の策定支援のため東根市でケーススタディを実施【再掲】	【令和2年度の今後の取組予定】	・アグリランド構想を含む道の駅基本計画の策定支援のため東根市でケーススタディを引き続き実施【再掲】	<p>【目標指標】</p> <p>①市町村等における新たなアグリランド構想の策定数(H29からの累計)</p> <p>②市町村が参画する6次産業化ネットワーク数</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <p>①ー</p> <p>②26件(H28)</p> <p>【直近】</p> <p>①1か所(R1)</p> <p>②33件(H30)</p> <p>【目標値】</p> <p>①8か所(R2)</p> <p>②35件(H30)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食産業ネットワーク形成事業費 ・山形のうまいもの創造支援事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食産業ネットワーク形成事業費 	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p>
【令和2年9月末までの取組実績】																	
・地域活性化の取組み意欲が高い5地区のケーススタディを実施【再掲】																	
【令和2年度の今後の取組予定】																	
・地域活性化の取組み意欲が高い5地区でのケーススタディの実施【再掲】																	
・地域づくりの話し合いや計画づくりを支援する8地区(総合支庁ごとに2地区)での実践に向けた合意形成のためのワークショップの実施【再掲】																	
【令和2年9月末までの取組実績】																	
・6次産業化ネットワーク未形成の町(河北町)へのネットワーク形成の働きかけや助言を実施(河北町では今年度中にネットワークを設置予定)																	
【令和2年度の今後の取組予定】																	
・6次産業化ネットワーク形成済み市町村への支援の継続、市町村戦略策定の支援。																	
【令和2年9月末までの取組実績】																	
・アグリランド構想を含む道の駅基本計画の策定支援のため東根市でケーススタディを実施【再掲】																	
【令和2年度の今後の取組予定】																	
・アグリランド構想を含む道の駅基本計画の策定支援のため東根市でケーススタディを引き続き実施【再掲】																	

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>取組みへの支援が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリランド構想の策定に取り組む1地区について、地域の実情に合った構想が策定されるよう支援を継続していく必要がある。また、アグリランド構想の策定に取り組む市町村の拡大に向け、構想策定を具体的に後押しする仕組み等を検討する必要がある【再掲】 			
<p>(4)「農」と「食」による観光交流拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○本県の豊かな農林水産物と地域の特色ある郷土料理、農村景観等を観光資源とした、「農」と「食」による観光交流の拡大に取り組む。</p> <p>【担当課】 6次産業推進課 農政企画課 農業技術環境課 森林ノミクス推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「農泊 食文化海外発信地域(SAVOR JAPAN)」及び「日本農業遺産」認定制度に係る情報提供と、認定に向けた取組みを支援するとともに、認定された地域の連携や情報発信の強化による誘客拡大を促進。また、制度の認知度向上に向け、政府に対する取組み強化の要請も検討。 ・農林漁家民宿・レストラン開業等を担う人材を育成するとともに、教育旅行や企業研修等を地域で受け入れる態勢づくりを推進。 ・増加が見込まれる訪日外国人旅行者向けの輸出も視野に入れた商品開発を支援。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p>i)「食と農の景勝地」及び「日本農業遺産」の認定促進</p> <div data-bbox="385 668 1364 874" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「農泊」に係る市町村担当課及び関係団体等を対象とした勉強会を開催し(7/13) ・県内の農泊実践者の事例発表にあわせてSAVOR JAPANの制度概要・情報発信に関する説明を実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、農泊地域の掘り起しと、関係団体への働きかけの実施。 </div> <p>ii)観光と連携した農家民宿・農家レストラン等の受け入れ態勢づくり</p> <div data-bbox="385 928 1364 1166" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林漁家民宿・レストランの開業希望者、グリーンツーリズム推進協議会との情報交換会の実施。 ・「農泊に関する勉強会」(7/13)における開業希望者の調査の実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林漁家民宿・レストランを担う人材の確保・育成に向けた研修会の実施。 ・農林漁家民宿・レストランや直売所等の県内外に向けた情報の発信。 </div> <p>iii)交流拡大につながる商品開発の促進</p> <div data-bbox="385 1220 1364 1490" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>令和2年度山形のうまいもの開発・販路開拓支援事業</p> <p>農林漁業者自ら、あるいは食品製造業者等と連携して取り組む加工食品の新商品開発・改良、販路開拓・拡大に向けた取組への助成(採択8件)【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」最終審査会実施(8/6)【再掲】 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林漁業者、食品製造業者等が連携して取り組む加工食品(土産品含む)の新商品開発・改良への助成。 </div>	<p>【目標指標】 グリーンツーリズム交流人口</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 949万人(H27) 【直近】 1,050万人(R1)</p> <p>【目標値】 1,200万人(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形のうまいもの商品力・販売力強化事業費 ・農林漁家民宿・レストラン人材育成支援事業費 	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p data-bbox="387 172 1364 204">・山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」の表彰式の開催(10/15)[新]【再掲】</p> <p data-bbox="360 229 853 255">iv) 観光分野と連携した地域農産物の利用拡大</p> <div data-bbox="387 261 1364 395" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 268 748 293">【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul data-bbox="396 300 1355 389" style="list-style-type: none"> ・「やまがた野菜料理フェア」の開催に向けた準備(協賛店の募集等) ・料理フェア協賛店を旅行企画商品に組入れるよう仙台圏の旅行エージェントに働きかけを実施。 </div> <div data-bbox="387 402 1364 663" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 408 748 434">【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul data-bbox="396 440 1355 657" style="list-style-type: none"> ・「やまがた野菜料理フェア」の開催 ・県民への料理フェア開幕の周知とやまがた野菜PRによる消費拡大を図るための「オープニングイベントを開催(10/30) ・協賛店で旬のやまがた野菜を使用したオリジナル料理を提供する「やまがた野菜料理フェア」を開催(11/1～11/23) ・仙台圏の旅行エージェントによる料理フェア協賛店を組み入れた旅行企画商品(バスツアー)の販売及びバスツアーの実施。 </div> <p data-bbox="360 689 725 715">v) 産直を核とした農観連携の創出</p> <div data-bbox="387 721 1364 1257" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 727 748 753">【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul data-bbox="396 759 1355 1251" style="list-style-type: none"> ・産直施設の取扱いアイテムの充実支援(いちじく栽培巡回研修会実施(4/7、7/16、9/4 延べ16名) ・店舗運営の強化と、リーダー・従業員のレベルアップに向けた支援(専門家派遣による経営指導7/3 13名)産地直売所 HACCP 研修会実施(7/8 16名) ・最上地域の特産品である山菜の物販イベントを新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止したため、代替として、出店希望者の中から個別注文に対応可能な事業所情報をチラシ形式でまとめた。対応可能な事業所の情報(「絶品! 山菜特集 in 最上」)を各種 SNS や HP で発信。 ・「山形もがみ産直市」として毎月仙台で行っている物販イベントを新型コロナウイルスの影響で中止にしたため、希望者を募り、インターネット上で最上地域の特産品を販売可能な事業者の情報を各種 SNS や HP で発信(「オンライン産直市」) ・最上地域産のさくらんぼを取り扱う産直施設の情報をチラシで発信(6/24) ・「あがらしゃれ 新庄・最上観光ガイドブック」による産直施設の紹介・PRを実施。 ・「最上伝承野菜フェア(8月 1～8月31日)」を実施し、そのリーフレットに、最上地域の周遊を促すため観光情報の掲載。 </div> <div data-bbox="387 1264 1364 1487" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 1270 748 1295">【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul data-bbox="396 1302 1355 1481" style="list-style-type: none"> ・最上地域の農産物等の魅力発信拠点となる産地直売所について、東北中央自動車道開通に向けた魅力アップ・訴求力向上を支援し、農産物等の販売促進に向けた支援。 ・最上地域の農産物や農産加工品等の魅力の積極的な情報発信と、地域内での各種イベントを通じた販路開拓・消費拡大等への取組み。 ・当初春季(5/23～6/21)に予定していた産直キャンペーンについて、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を見合わせ、秋季(10/10～11/8)に実施(予定) </div>			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・「最上伝承野菜・うまいものフェア(11/14～12/13)の実施。</p> <p>・産地直売所等での果樹品目の導入など、魅力あるアイテムづくりと売り場づくりなどの販売力の向上を継続して支援。</p> <p>・隣県との連携において実施する「東北のへそ スタンプラリー(9月17日～11月30日)」の立寄施設として、産直施設を選定・誘客。</p> <p>・新潟・庄内ポストDC(10/1～12/31)に併せて、「最上庄内奥の細道スタンプラリーを実施する中で、産直施設を選定・誘客。</p> <p>vi) 置賜の地域資源を活用した6次産業化の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>・紅花産地のPR活動支援に向け、白鷹町担当者と打合せを実施(6/1、9/18)</p> <p>・「6次産業化戦略推進ビジョン」に基づく具体的な取り組みを進めるため、管内市町担当者及び関係機関を対象に6次産業化推進に関する情報交換会を実施(8/24)</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・地元農産物を活用した加工食品や6次産業化に取り組む事業者等の情報について、道の駅をはじめとする交流施設を訪れた観光客に向けて発信するためのPRツールを作成(11月)</p> <p>・置賜地域が紅花の産地であることを発信するためのPR用のぼり等資材の作成(10月)</p> <p>vii) 「食の都庄内」ブランドの普及・定着</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>・新型コロナウイルスの影響を受ける飲食店への支援策として、飲食店からのテイクアウト・デリバリーを促進するキャンペーンを実施(4/15～5/17)。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響を受ける庄内地域の農林水産物と加工食品のネットでの販売を促進するため、ネット販売を行う事業者を一覧にした「ネット通販まとめサイト」を開設(54サイト掲載)。併せて、当サイトの周知を図る「おとりよせキャンペーン」を実施(5/29～6/30)。</p> <p>・生産者、協力店等を対象とした「北限のすだち」ほ場見学会の開催(8/25、26 27名)</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・「食の都庄内」親善大使や庄内浜文化伝道師の活動を通じた情報発信</p> <p>・観光(新潟県・庄内エリアDC)と連動し、協賛店で庄内の食材を使った料理と、料理に合う庄内の酒を提供する「おいしい食の都庄内三つ星キャンペーン」を実施(10/1～12/29)。</p> <p>・農家レストラン等と連携した食農体験事業の実施</p> <p>・「食の都庄内」サポーター産地見学会の開催</p> <p>・庄内浜の水産物を題材とした「食の都庄内」交流会の開催</p> <p>・各事業の実施にあたっては、コロナ対策のためオンラインでの参加もできるよう検討を実施。</p> <p>viii) 山菜・きのこによる観光・交流の拡大[関連]</p>			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<div data-bbox="389 172 1364 408" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山菜・きのこ総合案内のホームページによる山菜・きのこの販売店の情報やイベントの情報等を発信。 ・山菜時期(5月)のアクセス数:7,000件程 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山菜・きのこ総合案内のホームページによる山菜・きのこの販売店の情報やイベント情報等を随時更新して発信 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界農業遺産に比べ知名度が低く認定のメリットが見えにくいことから、単に市町村等に照会しても反応がない。そのため、今回の『最上紅花』の認定による地域への効果を提示しながら地域のやる気をおこさせることが必要である。 ・「農泊 食文化海外発信地域(SAVOR JAPAN)」の申請を促すため、市町村等関係機関への情報提供や制度説明会を開催、総合支庁とも連携し申請を働きかけたが、令和2年度は申請に至らなかった。申請団体の掘り起こしに向け、引き続き、制度の周知と申請に向けた情報提供を行うとともに、政府に対し認知度向上に向けた取組みの実施を働きかける必要がある。 ・農村漁家民宿・レストランの開業支援研修会(地域別)には、継続受講者や具体的な起業プランを持つ受講者の参加が多いが、起業につながるためには、開業並びに実践ノウハウに係る知識・技術習得・課題解決に向けた個別の支援が必要である。また、農林水産分野の資源に温泉や観光地、道の駅等の観光資源を組み合わせながら誘客促進に向けた受入態勢づくりが必要である。 			
<p>(5) 6次産業化推進基盤確立プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○6次産業化を推進するための基盤となる人材育成や相談・技術支援体制の充実、6次産業化支援機関の更なる機能強化に取り組む。</p> <p>【主担当課】 6次産業推進課 農業技術環境課 園芸農業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化を推進する人材育成を図るとともに、6次産業化支援機関等による相談・助言、技術指導体制をより一層充実することにより、6次産業化の推進基盤を強化。 ・実需者のニーズを把握し、原材料となる農林水産物の安定生産・安定供給体制を整備。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p>i) 6次産業化を推進する人材の育成</p> <div data-bbox="389 1121 1364 1289" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官金が連携した「やまがた6次産業ビジネス・スクール」の開講に向けて、カリキュラム等を調整(11月開講予定) ・産学官金が連携した「6次産業ビジネス・スクール」研修の開催準備を整え、受講者の募集を開始(～10/15) </div> <div data-bbox="389 1294 1364 1425" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた6次産業ビジネス・スクール」の実施(開講予定期間:11月～2月) ・各種研修後の事業展開を促進するため、6次産業化支援機関等による継続的なサポート(フォローアップ)の実施。 </div> <p>ii) 6次産業化支援機関の機能強化</p> <div data-bbox="389 1481 1364 1513" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①食品製造業等における県産農林水産物の使用割合(重量ベース) ②農業総合研究センター加工施設を活用した新商品販売件数(累計) <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①38.3%(H27) ②- <p>〔直近〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①40.7%(R1) ②34件(R1) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化総合推進事業費 ・食品加工開発機能強化推進事業費 	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・令和元年度に開催した地域別マッチング交流会への参加事業者の商談進捗状況についてコーディネーターが情報収集を行い、継続してフォローアップを実施【再掲】</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターによる農林漁業者と食品製造業者等に関する情報収集とその情報を活用したマッチングの支援。 ・支援機関相互の連携強化の推進。 ・「6次産業化支援チーム」による情報共有と支援。 <p>iii) 食品加工支援チームによる支援</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発や加工技術に関する相談対応(252件(前年9月まで403件)) ・加工技術や衛生管理等の研修会(6/11、7/7、7/9、7/16、7/30、8/25、8/27の7回実施、合計54名参加) ・食品加工支援ラボを活用した新商品開発件数(H30:3件、R1:31件、R2:3件) (うち1件は食品加工支援ラボで製造した商品を試験販売したもの) ・その他新商品件数(食品加工支援ラボ未使用):49件 (H28~29:20件、H30:10件、R1:16件、R2:3件) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品加工技術相談窓口で新商品開発や加工技術に関する相談に対応。 ・試験研究機関が開発した技術移転による商品開発や、地域ならではの商品開発の支援。 ・食品加工技術相談窓口と連携し、食品加工支援ラボを活用した新商品の開発の支援。 <p>iv) 農業総合研究センター加工施設の活用</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工技術や衛生管理等の研修会(6/11、7/7、7/9、7/16/30、8/25、8/27の47回実施、合計54名参加) ・個別相談による施設利用(14件) ・食品加工ラボの視察者数(74名(前年9月まで391名)) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品加工支援ラボの利用を図るため、広報媒体やチラシ等によるPRの実施。 ・食品加工支援ラボを活用した加工技術や衛生管理等の研修会の開催。 ・食品加工支援チームと連携した個別の試作研修の実施。 <p>v) 原材料となる農林水産物の安定生産・安定供給の体制整備</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品製造業者等が求める県産農林水産物の情報収集を実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実需者が求める農林水産物のニーズ把握と課題の整理、生産現場への反映の推進。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた6次産業ビジネス・スクール」について、受講者のニーズを踏まえ、新たに公開講座(特 	<p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①43%(R2) ②40件(R2) 		

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>別講演)や先進事業所視察先の増加など、カリキュラムの一層の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス・スクールにおいて、同一年の参加者同士の自発的な交流は生まれているが、縦方向のネットワーク(受講年度をまたぐ OB・OG の交流)はまだ形成されておらず、縦方向の人的ネットワーク(OB・OG との交流)づくりが必要である。 ・各関係機関が連携し実需者のニーズの把握、支援を行うことができたが、より一層連携を密にし、新商品開発から販売まできめ細かな支援を行う必要がある。 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略4: 県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

戦略分野2: 流通販売・食文化発信～価格競争に左右されない「山形ブランド」の創出・定着と輸出促進～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1)「おいしい山形」流通戦略推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○消費者の理解と共感を醸成するコミュニケーションの充実強化と「農林水産業が盛んな地域」の産地イメージと結びついた「山形ブランド」の全国への発信強化に取り組む。</p> <p>【担当当課】 6次産業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産農産物等統一キャッチフレーズ・シンボルマークのCI活動と産地イメージにつながる県産農産物等の情報発信(海外や訪日外国人に向けた情報発信を含む) ・トップセールスや各種事業での消費者等への理解・共感を醸成する取組みの推進。 ・県総合文化芸術館魅力発信モールを活用した県産農産物等の魅力発信[新] <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i)「おいしい山形」推進機構の運営</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい山形推進機構総会を開催(書面5月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい山形推進機構の令和2年度事業実施後における成果の検証(3月) ・おいしい山形推進機構の令和3年度事業計画の策定(3月～4月) </div> <p>ii)「おいしい山形」の魅力発信</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい山形推進機構ホームページにおいて県産農産物とあわせた郷土料理等の情報発信を実施(通年) ・山形駅東西自由通路への大型フラッグの掲出(5/11～7/10)[新] ・フリーペーパーを活用した県産農産物消費拡大キャンペーンの広報(5～8月 計8回) ・山形駅新幹線ホームへのステッカー掲出及び仙台空港駅への大型バナー掲出(通年) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい山形推進機構ホームページにおいて県産農産物とあわせた郷土料理等の情報発信を実施(通年) ・各種宣伝媒体(フリーペーパー・公共交通機関等)での県産農産物の情報発信を実施(通年) </div> <p>iii)消費者の理解度・共感度の醸成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都及び大阪市の中央卸売市場及び首都圏・中京圏・関西圏の百貨店等におけるさくらんぼ知事メッセージ動画の放映(6月)[新] ・県内量販店や首都圏ホテルでの山形フェアなどにおいてシンボルマークを活用したPRを実施(4月～) ・山形さくらんぼ・総称山形牛が当たるプレゼントキャンペーンの実施(5、6月)[新] ・各種広報媒体を活用した県産さくらんぼ及び県産農林水産物のPR(6月、7月)[新] </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> </div>	<p>【目標指標】</p> <p>①おいしい山形ホームページへのアクセス数(延べ閲覧者数)</p> <p>②多言語ホームページへのアクセス数(延べ閲覧者数)</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <p>①3,178,776件(H27)</p> <p>②12,000件(H28(見込み))</p> <p>〔直近〕</p> <p>①2,754,116件(R1)</p> <p>②5,642件(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①4,500,000件(R2)</p> <p>②24,000件(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <p>・農産物等流通戦略推進事業費</p>	<p>おいしい山形推進機構</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・県内量販店や首都圏ホテルでの山形フェアなどにおいてシンボルマークを活用したPRを実施(4月～) ・県総合文化芸術館魅力発信モールを活用した県産農産物等のPR[新] <p>iv) 農林水産・観光・商工団体等との連携</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県・庄内エリアアフターDC関連(「食の都庄内」ブランド戦略会議)事業と連携した県産農産物のPRに向けた打合せ(9月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県・庄内エリアアフターDCと連携した県産農産物のPR(10月～12月) </div> <p>v) 外国人に向けた本県食文化等の発信の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい山形推進機構ホームページ等における県産農産物等を情報発信(英語、中国語(繁体字)、タイ語)(通年) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい山形推進機構ホームページ等における県産農産物等を情報発信(英語、中国語(繁体字)、タイ語)(通年) </div> <p>vi) 国際大会における事前キャンプの支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前キャンプの情報収集。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前キャンプの情報収集。 </div> <p>vii) インバウンド観光との連携プロモーションの実施</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国(ハワイ州、カリフォルニア州等)での県産米等プロモーションに出品する商品の書類商談を実施(4月～5月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国(ハワイ州、カリフォルニア州等)での県産米等プロモーションの実施(10月) </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい山形ホームページや山形駅、仙台空港駅等への広告バナーの掲出など情報発信を行ってきた結果、消費者への周知が図られている。「山形ブランド」の創出・定着には、県産農産物等統一キャッチフレーズ・シンボルマークのCI活動と産地イメージにつながる県産農産物等の更なる情報発信が必要である。 ・誘客力のある各種イベント等を活用した県産農産物等の周知とトップセールスや各種事業での消費者等への理解・共感を醸成する取組みを進め、消費者等に対して販売に結びつく魅力ある情報発信を行うことが必要である。 			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(2) 県産農産物等販路拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○マーケットインの視点による大消費地への県産農林水産物等の販路拡大と、有利販売に結びつく鮮度・品質を保持した輸送体制の確立とその活用を促進するとともに、新たな販路開拓に取り組んでいる生産者への需給マッチング支援に取り組む。</p> <p>【担当課】 6次産業推進課 農政企画課 農業技術環境課 森林ノミクス推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地づくりと販売戦略・物流戦略の一体的な展開。 県産農産物主要都市別販路・販売拡大戦略(プラン)等に基づき、産地見学・商談会等の実施や山形フェアの実施場所拡大等を通じた県産農産物の販売拡大の推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 県産農産物の市場における流通ニーズ調査の実施</p> <div data-bbox="387 400 1368 539" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方主要5都市(札幌市、名古屋市、金沢市、広島市、福岡市)の販路開拓コーディネーターによる消費地ニーズ等の情報収集、産地へのフィードバック(4月～随時、上半期6回実施) </div> <div data-bbox="387 539 1368 639" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方主要5都市(札幌市、名古屋市、金沢市、広島市、福岡市)の販路開拓コーディネーターによる消費地ニーズ等の情報収集、産地へのフィードバック(4月～随時) </div> <p>ii) 県産農産物の流通促進</p> <div data-bbox="387 695 1368 762" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮城県(仙台市)内の百貨店・量販店等でのフェア実施団体への支援(4月～) </div> <div data-bbox="387 762 1368 863" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏・関西圏、地方主要5都市の実需者を対象とした商談会の実施。 宮城県(仙台市)内の百貨店・量販店等でのフェア実施団体への補助(4月～) </div> <p>iii) 食材提案による需要の創出・販路の開拓</p> <div data-bbox="387 919 1368 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏・関西圏のホテル・レストランにおける山形フェアの開催(4月～) 首都圏及び地方都市等の大手企業社員食堂における山形フェアの開催(4月) </div> <div data-bbox="387 1019 1368 1158" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏・関西圏のホテル・レストランにおける山形フェアの開催(4月～) 首都圏及び地方都市等の大手企業社員食堂における山形フェアの開催(4月～) 首都圏・関西圏、地方主要5都市の実需者を対象とした商談会の実施。 </div> <p>iv) 直売所の魅力の向上・販売力の強化</p> <div data-bbox="387 1214 1368 1353" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地直売所情報提供サービスによる情報発信(通年) 産地直売所を巡って県産農林水産物が当たるプレゼントキャンペーンの実施(6月～8月) <p>[新]</p> </div> <div data-bbox="387 1353 1368 1420" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地直売所情報提供サービスによる情報発信(4月～) </div> <p>v) 高付加価値輸送体制の確立</p> <div data-bbox="387 1476 1368 1505" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①東京中央卸売市場における県産農産物の取扱金額割合 ②主要都市の中央卸売市場における県産農産物(野菜・果実)の取扱金額 ③森林管理認証の取得団体数(累計) <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①野菜:1.28% 果実:5.64%(H27) ②5,562 百万円(H27) ③- <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①野菜:1.38%(R1) 果実:5.13%(R1) ②5,072 百万円(R1) ③2 件(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①野菜:1.40% 果実:5.80%(R2) ②6,100 百万円(R2) ③5件(R2) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的農産物販路・販売拡大事業費 ・県産農産物等流通戦略推進事業費 ・学校給食における食育・地産地消促進事業費 	<p>おいしい山形推進機構</p> <p>県産農産物主要都市別販路・販売拡大プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・庄内空港を活用した小口混載による県産農産物の輸出可能性や事業者ニーズの調査の実施。</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・庄内空港を活用した小口混載による県産農産物の輸出可能性や事業者ニーズの調査の継続。</p> <p>vi) 給食向け県産農林水産物の利用拡大[関連]</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食へのさくらんぼの無償提供(6～7月4トン超) ・県産農林水産物の利用状況に係る市町村への調査(7月) ・学校給食への総称山形牛、やまがた地鶏、水産物の無償提供(8月～) ・学校給食における県産農林水産物や郷土料理等の提供に対する助成。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への総称山形牛、やまがた地鶏、水産物の無償提供。 ・学校給食における県産農林水産物の使用割合改善に向けた市町村への情報提供等。 ・学校給食における県産農林水産物の利用拡大に向けた取組みへの助成。 <p>vii) オリ・パラでの農林水産物の利用</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 オリ・パラ関連イベントの情報収集。 ・最上総合支庁にて GAP 取得研修会を開催。 →栽培きのこの JGAP を取得し、2 団体で 3 品目取得(4 月) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 オリ・パラ関連イベントを活用したPR, 需要・販路拡大の取組み。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏・関西圏のホテル・レストラン等での山形フェアや商談会の開催等により、新規取引の開拓、継続取引による販路拡大を支援しており、引き続き実需マッチングを推進する必要がある。 ・地方主要都市の販路開拓コーディネーターと連携した販路開拓や消費地と産地とのマッチングを進めていく必要がある。 ・宮城県(仙台市)へは、量販店や青果商と連携した現地販売プロモーションでは、来県を促し農産物の購入に結び付けられるような情報発信を一体的に実施していく必要がある。 ・県内の市町村、農業協同組合、食育実践団体等を対象とした山形県食育・地産地消推進会議を開催し、情報交換・情報共有を図ったほか、「山形のうまいもの(三訂版)」の活用などにより、食育・地産地消の推進の強化を図った。目標指標に対し概ね順調に推移していると考えているが、今後も継続した取組みを行っていく必要がある。 ・各市町村担当者との意見交換会を開催(R1.8/23～8/30)、計画改定委員への意見照会を踏まえ、第1回計画改定委員会(R2.9/7)開催し、市町村の食育、地産地消の推進状況や食育・地産地消の推進に係る課題の把握、今後の展開方向等についての意見交換・情報共有を図った。目標指標に対し概ね順調に推移しているが、今後も継続した取組を行っていく必要がある。 			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議																						
<p>(3)「山形ブランド」評価向上プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○さくらんぼや「つや姫」などに続く「日本ブランド」を目指す県産農林水産物の創生と、これらが全体を牽引する「山形ブランド」の定着・確立に取り組む。</p> <p>【担当課】 6次産業推進課 農業技術環境課 園芸農業推進課 森林ノミクス推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の至宝 雪国やまがた伝統野菜、雪国やまがたブランド等の取組みによる山形ブランドの確立。 ・地理的表示保護制度の登録促進とこれらを活用したブランド化の推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i)「食の至宝雪国やまがた伝統野菜」の評価向上</p> <table border="1" data-bbox="387 368 1368 571"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」シンボルマークの使用の呼びかけを実施。</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」シンボルマークの使用の呼びかけを実施。</td> </tr> <tr> <td>・首都圏における食の至宝 雪国やまがた伝統野菜PR大使によるプロモーションの実施(年2回)</td> </tr> </table> <p>ii)「雪国やまがたブランド」の構築</p> <table border="1" data-bbox="387 628 1368 799"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・おいしい山形推進機構ホームページによる情報発信(通年)</td> </tr> <tr> <td>・雪下野菜の生産及び販売状況の情報収集。</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・おいしい山形推進機構ホームページにおける情報発信(通年)</td> </tr> </table> <p>iii)地理的表示(GI)の登録促進</p> <table border="1" data-bbox="387 857 1368 1059"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・地理的表示の取得に向けた情報収集(総合支庁及び担当課へ)</td> </tr> <tr> <td>・GI登録促進ワーキング会議の開催(9月)</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・地理的表示(GI)保護制度セミナーの開催。</td> </tr> <tr> <td>・首都圏等におけるPRイベントの実施[新]</td> </tr> </table> <p>iv)山菜・きのこの流通販売の拡大及び認知度の向上[関連]</p> <table border="1" data-bbox="387 1115 1368 1350"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・最上総合支庁にて GAP 取得研修会を開催。 →栽培きのこの JGAP を取得し、2 団体で 3 品目取得(4 月)【再掲】</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・きのこ料理コンクール等の開催(12 月)</td> </tr> <tr> <td>・首都圏等のフェアにおける山菜・きのこのプロモーションの実施。</td> </tr> <tr> <td>・促成山菜の消費拡大に向けて、首都圏で販促活動のを実施(2月)</td> </tr> </table> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜PR大使」の活動により認知度が向上し、新たな取引先の開拓につながっているが、ニーズ・需要を見据えた生産拡大が課題である。 ・地理的表示(GI)登録に向けた取組の結果、地理的表示(GI)登録を目指す製品の掘り起しが進 	【令和2年9月末までの取組実績】	・「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」シンボルマークの使用の呼びかけを実施。	【令和2年度の今後の取組予定】	・「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」シンボルマークの使用の呼びかけを実施。	・首都圏における食の至宝 雪国やまがた伝統野菜PR大使によるプロモーションの実施(年2回)	【令和2年9月末までの取組実績】	・おいしい山形推進機構ホームページによる情報発信(通年)	・雪下野菜の生産及び販売状況の情報収集。	【令和2年度の今後の取組予定】	・おいしい山形推進機構ホームページにおける情報発信(通年)	【令和2年9月末までの取組実績】	・地理的表示の取得に向けた情報収集(総合支庁及び担当課へ)	・GI登録促進ワーキング会議の開催(9月)	【令和2年度の今後の取組予定】	・地理的表示(GI)保護制度セミナーの開催。	・首都圏等におけるPRイベントの実施[新]	【令和2年9月末までの取組実績】	・最上総合支庁にて GAP 取得研修会を開催。 →栽培きのこの JGAP を取得し、2 団体で 3 品目取得(4 月)【再掲】	【令和2年度の今後の取組予定】	・きのこ料理コンクール等の開催(12 月)	・首都圏等のフェアにおける山菜・きのこのプロモーションの実施。	・促成山菜の消費拡大に向けて、首都圏で販促活動のを実施(2月)	<p>【目標指標】</p> <p>①東京都中央卸売市場におけるトップブランド品目数</p> <p>②地理的表示(GI)保護制度登録件数(県産農林水産物及びその加工品)(累計)</p> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <p>①13 品目(H26)</p> <p>②0件(H28)</p> <p>【直近】</p> <p>①15 品目(R1)</p> <p>②4 件(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①20 品目(R2)</p> <p>②5件(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の至宝雪国やまがた伝統野菜推進事業費 	<p>おいしい山形推進機構</p>
【令和2年9月末までの取組実績】																										
・「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」シンボルマークの使用の呼びかけを実施。																										
【令和2年度の今後の取組予定】																										
・「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」シンボルマークの使用の呼びかけを実施。																										
・首都圏における食の至宝 雪国やまがた伝統野菜PR大使によるプロモーションの実施(年2回)																										
【令和2年9月末までの取組実績】																										
・おいしい山形推進機構ホームページによる情報発信(通年)																										
・雪下野菜の生産及び販売状況の情報収集。																										
【令和2年度の今後の取組予定】																										
・おいしい山形推進機構ホームページにおける情報発信(通年)																										
【令和2年9月末までの取組実績】																										
・地理的表示の取得に向けた情報収集(総合支庁及び担当課へ)																										
・GI登録促進ワーキング会議の開催(9月)																										
【令和2年度の今後の取組予定】																										
・地理的表示(GI)保護制度セミナーの開催。																										
・首都圏等におけるPRイベントの実施[新]																										
【令和2年9月末までの取組実績】																										
・最上総合支庁にて GAP 取得研修会を開催。 →栽培きのこの JGAP を取得し、2 団体で 3 品目取得(4 月)【再掲】																										
【令和2年度の今後の取組予定】																										
・きのこ料理コンクール等の開催(12 月)																										
・首都圏等のフェアにおける山菜・きのこのプロモーションの実施。																										
・促成山菜の消費拡大に向けて、首都圏で販促活動のを実施(2月)																										

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>んでおり、令和2年8月に「山形ラ・フランス」が登録され、令和元年8月には「尾花沢牛」がGI登録申請を行うなど、山形ブランドの定着・確立に向けた動きが着実に進んでいる。更なる推進には、地理的表示(GI)の登録を目指す製品の掘り起こし・働きかけを行いGI登録に向け検討を重ねていく必要がある。</p>			
<p>(4) 食育・地産地消 県民運動展開プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○子どもから大人まで、地域の農林水産物や郷土食を味わう経験を通して、地域に対する愛着を深め、将来的には県産農林水産物を買って支える消費者づくりや若者の県内定着・回帰につながる食農教育と地産地消を推進する。</p> <p>【担当課】 6次産業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第2次山形県食育・地産地消推進計画」に基づき、関係部局や食育実践団体、市町村等と連携し、家庭、学校、地域における食育の取組みを促進。 ・今後の推進方向について、計画改定とあわせて検討。 ・市町村と生産者団体等と連携し、学校給食における県産食材の利用拡大を図るほか、社会福祉施設等での地産地消を推進。 ・県と包括連携協定を締結したキューピー(株)と連携し、同社の強みを活かして食育・地産地消の取組みを推進。 ・第18回全国農林水産物直売サミット(H31.10.17～18)の本県での開催を契機としたさらなる直売所の活性化、地産地消の推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 食育の県民運動</p> <div data-bbox="385 770 1364 1074" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育推進計画の未策定市町村、県産農林水産物の利用割合の改善に向けた市町村への働きかけ、情報提供等の支援。 ・市町村等が行う食育推進事業や、学校給食における県産農林水産物提供への支援。 ・包括連携協定を締結するキューピー(株)と連携した食育・地産地消の取組み(8月ベジアップキャンペーンの実施、県産果実の利用拡大に向けた打合せの実施) ・県産農林水産物に係る若者の理解の促進等を目的とした「高校生山形のうまいもの商品開発プロジェクト」の実施(6月企画応募7校 11件、7月企業とのマッチング6校、7月～商品開発打合せの実施) </div> <div data-bbox="385 1074 1364 1377" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、食育推進計画の未策定市町村、県産農林水産物の利用割合の改善に向けた市町村への働きかけ、情報提供等の支援。 ・市町村等が行う食育推進事業や、学校給食における県産農林水産物提供への支援。 ・「やまがた食育県民大会」の開催(11/18) ・包括連携協定を締結するキューピー(株)と連携した食育・地産地消の取組みの推進(子ども食堂での食育イベントの実施、県産果実を使用した商品開発) ・県産農林水産物に係る若者の理解の促進等を目的とした「高校生山形のうまいもの商品開発プロジェクト」の実施(商品化・販売PR) </div> <p>ii) 山形の食の「語り部」づくり・魅力の発信</p> <div data-bbox="385 1433 1364 1498" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形のうまいもの」や農林水産省の紹介サイト「うちの郷土料理」を活用した情報発信、食 </div>	<p>【目標指標】 学校給食における県産農林水産物の使用割合</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 45%(H27) 〔直近〕 44.7%(R1)</p> <p>【目標値】 55%(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育・地産地消推進事業費 ・学校給食における食育・地産地消促進事業費 	<p>やまがた食育協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>文化の普及・継承への支援(4月農林水産部 facebook にて「うちの郷土料理」と郷土料理レシピの発信)</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形のうまいもの」や農林水産省の紹介サイト「うちの郷土料理」を活用した情報発信、食文化の普及・継承への支援。 <p>iii) 給食向け県産農林水産物の利用拡大</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食へのさくらんぼの無償提供(6～7月4トン超) ・県産農林水産物の利用状況に係る市町村への調査(7月) ・学校給食への総称山形牛、やまがた地鶏、水産物の無償提供(8月～) ・学校給食における県産農林水産物や郷土料理等の提供に対する助成。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への総称山形牛、やまがた地鶏、水産物の無償提供。 ・県産農林水産物の利用率増加に向けた市町村との意見交換、情報共有。 ・学校給食における県産農林水産物や郷土料理等の提供に対する助成。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村担当者との意見交換会を開催(R1.8/23～8/30)、計画改定委員への意見照会を踏まえ、第1回計画改定委員会(R2.9/7)開催し、市町村の食育、地産地消の推進状況や食育・地産地消の推進に係る課題の把握、今後の展開方向等についての意見交換・情報共有を図った。目標指標に対し概ね順調に推移しているが、今後も継続した取組を行っていく必要がある。 			
<p>(5) 県産農産物等輸出拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本県食文化等の発信と併せた県産農産物・加工品の海外市場での販路開拓と業務用等の新たな分野への取引拡大を推進する。 ○新規輸出先国の開拓、既存輸出先国での販路拡大に向けた事業の展開と、販売拠点の設置を促進する。 <p>【主担当課】 6次産業推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出向け水稻多収システムの求評調査を実施し、海外で受け入れられる品質と食味グレードについて検討 ・EUを対象とした国別輸出アクションプランの改訂とアクションプランを活用した新規輸出者の掘り起こしを実施 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 県産米の輸出拡大</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県産米輸出拡大チーム会議(第1回)を9月1日開催し、県産米の輸出拡大に向けた意見交換を実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県産米輸出拡大チーム会議(第2回)を開催し、輸出向け水稻多収システムの求評調査を実施(11月) ・米国(ハワイ州、カリフォルニア州)での県産米等プロモーションの実施(10月)【再掲】 <p>ii) さくらんぼの輸出拡大</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①県産農産物輸出货量 ②国別アクションプラン策定数(累計) <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①987t(H27) ②0件(H27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1,650t(R1) ②8件(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1,300t(R2) ②8件(R2) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産農産物・食品輸出拡大強化事業費 ・戦略的農産物販路・販売拡大事業費 ・県産米等輸出力強化推進事業費 	<p>山形県産農産物国別輸出アクションプラン検討チーム</p> <p>山形県産米輸出拡大チーム</p> <p>山形さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア(クアラルンプール)、台湾(台北市)の高級スーパー等における販売プロモーションを実施(7月) ・「山形さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議」における輸出に関する情報共有と課題の整理(6月) 			
	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア、台湾の高級スーパー等における販売プロモーションを継続。 ・「山形さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議」における輸出に関する情報共有と課題の整理継続。 			
	<p>iii) 県産畜産物の輸出拡大</p>			
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香港の高級スーパーにおいて「総称山形牛」等のフェアを開催(8/27～8/30) 			
	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイにおける「総称山形牛」等県産食材プロモーションの実施。 			
	<p>iv) 国別輸出アクションプランの策定</p>			
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EU、シンガポールのアクションプラン改訂に向けた調査・分析(随時) 			
	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EU、シンガポールのアクションプランの改訂(3月) ・アクションプランを活用した輸出促進セミナーの開催(11月) 			
	<p>v) 東アジアへの輸出拡大</p>			
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾(台北市)の高級スーパーにおいてさくらんぼの販売プロモーションを実施(7/10～12) ・香港の高級スーパーにおいてメロンの販売プロモーションを実施(7/9～12) 			
	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香港、台湾におけるりんご、西洋なし等の販売プロモーションの実施(11月～) 			
	<p>vi) ASEANへの輸出拡大</p>			
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア(クアラルンプール)の高級スーパーにおいてさくらんぼの販売プロモーションを実施(7/10～12) ・マレーシア(クアラルンプール)の高級スーパーにおいてメロンの販売プロモーションを実施(7/24～26) 			
	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア、タイ、フィリピンでのりんご、西洋なし等の販売プロモーションの実施(11月～) ・タイにおける「総称山形牛」等県産食材プロモーションの実施【再掲】 			
	<p>vii) EUへの輸出促進</p>			
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p>			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・EUのアクションプラン改訂に向けた調査・分析(随時)【再掲】 【令和2年度の今後の取組予定】 ・EUのアクションプランの改訂(3月)【再掲】 ・アクションプランの活用による輸出事業者の掘り起こし。 <p>viii)北米への輸出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 【令和2年9月末までの取組実績】 ・米国(ハワイ州、カリフォルニア州等)での県産米等プロモーションに出品する商品の書類商談を実施(4月～5月)【再掲】 【令和2年度の今後の取組予定】 ・米国(ハワイ州、カリフォルニア州)での県産米等プロモーションの実施(10月)【再掲】 ・アクションプランの活用による輸出事業者の掘り起こし【再掲】 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売プロモーションについては、コロナ禍で渡航ができないため、現地スタッフに依頼し実施している。プロモーションは、高級スーパー等小売が中心であり、一般消費者への山形ブランドの認知度は高まってきているが、県産農産物等の輸出数量をさらに伸ばしていくには、ICT等を活用して情報発信に努めるとともに、業務用取引の拡大が必要である。 ・輸出先国ごとに輸出パートナーが固定化しつつあるほか、輸出先国や輸出取組者も固定化傾向にある。輸出量の拡大が見込まれる国や地域を対象とした国別輸出アクションプランの活用による新規取組者の掘り起こし並びに、アクションプランに最新の情報を反映させるための定期的な改訂が必要である。 			
<p>(6) 輸出基盤対策プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○生産者や輸出事業者等が輸出する上で抱える課題の解決に向けた対策の構築と支援等の強化に取り組む。</p> <p>【主担当課】 6次産業推進課 農業技術環境課 畜産振興課 水産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内空港を活用した小口混載による県産農産物の輸出可能性調査を継続。 ・山形県国際経済振興機構における、県内事業者と海外企業とのマッチング支援等の取組みを継続して実施。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p>i) 県産農産物等の輸出実現支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 【令和2年9月末までの取組実績】 ・山形県国際経済振興機構と連携した、県内事業者と海外企業とのマッチング支援等を継続実施(随時) ・グローバル産地形成支援事業費補助金により、海外のニーズやロットの確保、輸出先国の求める農薬規制等に対応した生産体制を構築する産地を支援(3件)(随時) 【令和2年度の今後の取組予定】 ・グローバル産地形成支援事業費補助金により、海外のニーズやロットの確保、輸出先国の求める農薬規制等に対応した生産体制を構築する産地を支援。 ・山形県農産物等輸出促進事業費補助金による、JAや農業法人等の輸出の取組みに対する支援の実施。 	<p>【目標指標】 県産農産物輸出货量</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 987t(H27) 【直近】 1,650t(R1)</p> <p>【目標値】 1,300t(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産農産物・食品輸出拡大強化事業費 ・戦略的農産物販路・販売拡大事業費 ・農産物の輸出適合性確保対策事業費 	<p>庄内地域農水産物等輸出促進会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>ii) 海外輸送体制の確立</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内空港を活用した小口混載による県産農産物の輸出可能性調査を実施【再掲】 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内空港を活用した小口混載による県産農産物の輸出可能性調査を継続【再掲】 </div> <p>iii) 地域商社を活用した輸出展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東北・食文化輸出推進事業協同組合」の活動に関する情報収集の実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東北・食文化輸出推進事業協同組合」の活動に関する情報収集の実施。 </div> <p>iv) 輸出促進に向けた県産農産物の検疫対策</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾等輸出手続きに関する情報提供(6/5 タイ向け、7/2 台湾向け) ・台湾等輸出生果実選果技術研修会の開催(5/28 台湾・ベトナム、7/21 台湾、8/7 アメリカ、9/18 ベトナム) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾等輸出相手国・地域の検疫条件に関する情報提供(随時) ・台湾等輸出相手国・地域の検疫に適合するための手続きに関する情報提供(随時)。 ・農産物輸出検疫制度説明会(2月) ・台湾等輸出生果実選果技術研修会を開催(3月) ・タイ向け青果物の選果及びこん包施設に係る衛生証明書発行の開始(随時) </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出先国ごとに輸出パートナーが固定化しつつあるほか、輸出取組者も固定化傾向にある。アクションプランを活用したセミナーの開催などによる、新規輸出取組者の掘り起こしが必要である。 ・庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系は、物量の安定確保や輸出検査機器が未整備等の課題があり、本格運用に向け継続した検討が必要である。 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略4: 県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

戦略分野3: 環境農業～エコ農産物の付加価値向上と環境や安全に配慮した生産管理の導入促進～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) エコ農産物生産推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○「環境保全型農業直接支払交付金」を活用して環境保全型農業の面的拡大を図るとともに、エコ農産物に対する消費者の理解促進と評価向上を図る。</p> <p>【主担当課】 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業直接支払交付金の活用や有機・特別栽培農産物認証の推進等により、環境保全型農業の面的拡大を図るとともに、消費者交流イベントや情報サイト「山形 eco 農家」等により、エコ農産物の理解の醸成とブランド化を推進する。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 環境保全型農業の面的拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境直払担当者会議に代わる制度説明資料の送付(4月)(コロナ対応) ・市町村に対する制度変更、現地確認方法等に関する指導(高畠町、鶴岡市) ・環境直払の申請受付(現在集計中) ・有機JAS認証取得希望者等への情報提供、指導(9月末現在5件) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業等の推進体制見直しに関する会議を開催(12月) ・有機JAS認証取得希望生産者への情報提供や認証申請に関する指導等により、有機・特別栽培農産物認証制度を推進。 ・環境保全型農業直接支払交付金の活用により環境保全効果が高い営農活動の拡大を支援(11月担当者会議) ・有機・特別栽培農産物認証制度の推進(制度説明会の開催)(2月) </div> <p>ii) 環境保全型農業の技術開発</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライシメーターによる果樹園土壌養水分の数値化(園芸農業研究所) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌化学性・物理性の年次変化の定点観測及び有機物運用効果の調査。 ・農地土壌の炭素貯留に関する調査。 </div> <p>iii) エコ農産物に対する消費者の理解促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者と生産者の交流イベント「エコエリア農楽隊」を実施(庄内地区、8/30) ・情報サイト「山形 eco 農家」によりエコ農産物等の情報を発信(月1回更新) ・エコエリアやまがた推進コンクールの開催(応募事例取りまとめ中) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報サイト「山形 eco 農家」によりエコ農産物等の情報を発信(月1回更新) ・エコエリアやまがた推進コンクールの開催。 ・消費者理解の促進を目的とした有機農業推進フォーラムの開催。 </div>	<p>【目標指標】 環境保全型農業直接支払交付金取組面積</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 7,561ha(H27)</p> <p>【直近】 6,254ha(R1)</p> <p>【目標値】 11,000ha(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業推進事業費 ・環境保全型農業直接支援対策費 	<p>エコエリアやまがた推進協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議																	
	<p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域によって環境保全型農業直接支払交付金の取組みに差がみられることから、取組みが少ない市町村に対し、環境保全型農業の実施を働きかける必要がある。 ・環境保全型農業の取組みをさらに推進するために、GAPの普及促進を図り、食品安全と環境保全に一体的に取り組むことにより山形県の農業を持続的に発展させる必要がある。 																				
<p>(2) 有機農産物生産拡大・ブランド化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○有機農業の技術開発と生産技術のマニュアル化により生産者の拡大及び生産性の向上を図るとともに、積極的な情報発信など、県産有機農産物の消費者理解の促進と評価向上を図りブランド化を推進する。</p> <p>【担当当課】 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村の推進体制整備を促進するとともに、野菜や水稻の有機栽培技術開発や熟練農業者等による新規取組者への技術的サポート体制の構築等により有機農業の拡大と定着の推進 ・イベントやマッチング等による消費者との交流促進やインターネット等を活用した多方面の実需者への情報発信により消費者理解の促進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 有機農業の生産拡大</p> <table border="1" data-bbox="387 632 1368 804"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・オープンフィールドの設置(8か所)及び技術実証、ほ場検討会等の実施。</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・オープンフィールド(8か所)にて実証された技術等の普及。</td> </tr> <tr> <td>・有機農業の取組や有機JAS制度等に関する農業者への指導・助言体制の強化。</td> </tr> </table> <p>ii) 有機農業の技術開発</p> <table border="1" data-bbox="387 858 1368 1094"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・農業総合研究センターにおいて県産有機野菜の安定生産技術構築の実施(ニンジン、ねぎ等・試験実施中)</td> </tr> <tr> <td>・有機農業オープンフィールドにて、水稻の省力低コスト除草技術の実証の実施(実証中)</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・農業総合研究センターにおいて県産有機野菜の安定生産技術の構築の実施[新]</td> </tr> <tr> <td>・有機農業オープンフィールドにて、水稻の省力低コスト除草技術の実証の実施。</td> </tr> </table> <p>iii) 有機農産物の評価向上</p> <table border="1" data-bbox="387 1149 1368 1353"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・山形県産オーガニックマルシェの開催(8/22, 23)</td> </tr> <tr> <td>・有機農業者による消費者交流イベントの開催支援(9/19、芸工大との合同イベント等)</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・首都圏での有機農産物等に関する商談会への出展支援。</td> </tr> <tr> <td>・山形県産オーガニックマルシェの開催(10/24、10/25)</td> </tr> </table> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「匠」が不在の市町村での取組み拡大を図るとともに、国補助事業の活用等により各地域での取組充実を促進する必要がある。 ・「オーガニックライフスタイルエキスポ」への出展や県内スーパーとの連携による販売会の実施によ 	【令和2年9月末までの取組実績】	・オープンフィールドの設置(8か所)及び技術実証、ほ場検討会等の実施。	【令和2年度の今後の取組予定】	・オープンフィールド(8か所)にて実証された技術等の普及。	・有機農業の取組や有機JAS制度等に関する農業者への指導・助言体制の強化。	【令和2年9月末までの取組実績】	・農業総合研究センターにおいて県産有機野菜の安定生産技術構築の実施(ニンジン、ねぎ等・試験実施中)	・有機農業オープンフィールドにて、水稻の省力低コスト除草技術の実証の実施(実証中)	【令和2年度の今後の取組予定】	・農業総合研究センターにおいて県産有機野菜の安定生産技術の構築の実施[新]	・有機農業オープンフィールドにて、水稻の省力低コスト除草技術の実証の実施。	【令和2年9月末までの取組実績】	・山形県産オーガニックマルシェの開催(8/22, 23)	・有機農業者による消費者交流イベントの開催支援(9/19、芸工大との合同イベント等)	【令和2年度の今後の取組予定】	・首都圏での有機農産物等に関する商談会への出展支援。	・山形県産オーガニックマルシェの開催(10/24、10/25)	<p>【目標指標】 有機農業の取組面積</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 696ha(H27) 〔直近〕 609ha(R1)</p> <p>【目標値】 990ha(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業推進事業費 ・環境保全型農業直接支援対策費 	<p>有機農産物ブランド化推進専門部会</p>
【令和2年9月末までの取組実績】																					
・オープンフィールドの設置(8か所)及び技術実証、ほ場検討会等の実施。																					
【令和2年度の今後の取組予定】																					
・オープンフィールド(8か所)にて実証された技術等の普及。																					
・有機農業の取組や有機JAS制度等に関する農業者への指導・助言体制の強化。																					
【令和2年9月末までの取組実績】																					
・農業総合研究センターにおいて県産有機野菜の安定生産技術構築の実施(ニンジン、ねぎ等・試験実施中)																					
・有機農業オープンフィールドにて、水稻の省力低コスト除草技術の実証の実施(実証中)																					
【令和2年度の今後の取組予定】																					
・農業総合研究センターにおいて県産有機野菜の安定生産技術の構築の実施[新]																					
・有機農業オープンフィールドにて、水稻の省力低コスト除草技術の実証の実施。																					
【令和2年9月末までの取組実績】																					
・山形県産オーガニックマルシェの開催(8/22, 23)																					
・有機農業者による消費者交流イベントの開催支援(9/19、芸工大との合同イベント等)																					
【令和2年度の今後の取組予定】																					
・首都圏での有機農産物等に関する商談会への出展支援。																					
・山形県産オーガニックマルシェの開催(10/24、10/25)																					

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	り有機農産物の販路拡大支援の効果が現れてきていることから、具体的な販路拡大に繋がるよう、取組みを継続するとともにフォローアップを行っていく必要がある。			
<p>(3) 安全農産物生産推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○「やまがた農産物安全・安心取組認証制度」に導入した山形県版GAPの定着による県内生産者の安全・安心の取組みレベルの向上と、輸出促進にも繋がる国際水準GAP認証取得を積極的に推進する。</p> <p>【担当課】 農業技術環境課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際水準GAPの認証拡大に向けて、GAP指導員の育成や各種GAP研修会、認証取得ガイダンス研修会の開催などにより推進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 認証GAPの推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内農業教育機関(3校)を対象にした国際水準GAPの認証取得の支援(6月～) ・国際水準GAP認証取得に取組む生産者に対するGAP理解度測定調査並びに技術的支援の実施(各農業技術普及課1～2名選定:6月～8月にGAP理解度測定調査実施) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際水準GAP認証取得に取り組む生産者に対する技術的支援・助言等の実施(随時) ・JGAP指導員基礎研修受講者の資質向上を図るため、指導員育成研修会の開催(11/17～18) ・GAPに対する理解醸成及び国際水準GAP認証取得を推進するため、生産者等を対象にしたGAP基礎研修及び国際水準GAP認証ガイダンスの開催(12/1,2,11) </div> <p>ii) 山形県版GAPの推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオン山形北に「山形県GAP認証農産物販売コーナー」を設置(R2.4.24～) ・県版GAPの今後のあり方について山形県GAP推進協議会構成団体との意見交換を実施(5.25～9.25、15団体) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県におけるGAPの推進方策等を検討するため、「山形県GAP推進協議会」を開催(10/7、2月) </div> <p>※取組団体数:やまがた農産物安全・安心取組認証団体 35 団体+山形県版 GAP 認証団体 14 団体(やまがた農産物安全・安心取組認証団体と重複しない) iii) 病害虫対策の確立</p> <p>iii) 病害虫対策の確立</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんご黒星病情報(伝染源対策等)の発行(第2号～第10号) ・県関係機関、農協が連携してりんご黒星病特別巡回調査を実施(17回) ・りんご黒星病広域一斉調査の実施(5.29～6.9、8.31～9.4) ・伝染源対策と生育期防除を組み合わせた防除対策実証ほ(17ヶ所)の設置 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源密度低下のための落葉の処理や、伝染源からの孢子飛散を防止するため、堆肥散布による被害葉の被覆等、伝染源対策について周知(随時) </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①県産農産物の食品衛生法違反件数 ②「山形県版GAP」に取り組む農家割合 ③国際水準GAP認証農場数 <p>【現状値】</p> <p>〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①0件(H27) ②15.7%(H28) ③33 農場(H28) <p>〔直近〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①0件(R1) ②32.0%(R2) ③79 農場(R2) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①0件(R2) ②50%(R2) ③66 農場(R2) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心農産物生産推進事業費 ・農産物の輸出適合性確保対策事業費 ・有害動植物防除対策推進事業費 	<p>安全・安心ブランドやまがた産地協議会</p> <p>山形県GAP推進協議会</p> <p>山形県りんご黒星病撲滅対策会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<div data-bbox="387 172 1364 306" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年版の県防除基準におけるりんご黒星病対策について、各種研修会等を通じ生産者に広く周知するとともに、冬季のせん定を含めた次年度に向けた防除対策を指導(随時) ・DMI (EBI) 剤に過度に依存しない、りんご黒星病防除体系の構築・普及。 ・地域特産作物(ふきのとう)の農薬の適用拡大試験を実施。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版GAPの第三者認証取得は25件215農場、国際水準GAPの認証取得は36件79農場に拡大するなど、GAPの取り組みは拡大している。 ・県版GAPや国際水準GAPの認証取得を促進するためには、指導体制の更なる強化を図るとともに、認証を希望する生産者や団体の掘り起こしと丁寧な指導・助言が必要である。 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略5: 畜産業の競争力強化

戦略分野1: 畜産生産～山形生まれ山形育ちの畜産物の生産拡大とブランド力向上～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 地域で支える畜産クラスター推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○地域の中心となる畜産担い手を育成・確保するとともに、担い手の規模拡大や省力化・生産性向上に資する施設・機械の整備と家畜の増頭を支援し、畜産生産基盤の強化を推進する。</p> <p>【担当課】 畜産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術向上研修会の開催や、特に肉用牛繁殖・酪農経営の後継者等に対しては、重点指導などできめ細かな支援を実施し、畜産担い手を育成。 ・意欲ある担い手に対して、国庫や県単事業により生産基盤の拡大を支援し、経営の安定化を図るとともに競争力を強化。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 若手の畜産担い手の育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合支庁と肉用牛の担い手育成のための研修計画を検討(6/12) ・畜産研究所、全農山形、県酪農協との間で酪農の担い手育成のための研修計画を検討(6/10) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉用牛の担い手育成のための研修会を開催(1回:12月) ・酪農の担い手育成のための研修会を開催(2月) </div> <p>ii) 畜舎等の生産基盤強化の支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営競争力強化支援事業(県単)において、27地区(事業費約3億円)を採択し、施設整備等を支援。 ・畜産クラスター事業(国庫)により、5地区(事業費計約68億円)の施設整備を支援(工程管理)。機械導入についても国の採択に基づき支援。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採択した県単事業の円滑な実施を支援するとともに、令和3年度の事業要望を取りまとめ。 </div> <p>iii) キャトルセンターの設置支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全農山形県本部で設置したキャトルセンターから29頭の和牛子牛が最上子牛市場へ出荷。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全農山形県本部の乳用牛育成センター及びキャトルセンターを核とした酪農経営と肉用牛経営が連携した初妊牛や和牛子牛の生産・流通システムの構築の支援。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、予定どおり研修会の開催等が行われていない状況にあるが、若手の生産者を中心に飼養管理技術の向上(ICT技術の導入含む)が図られている。高齢化等による戸数の減 	<p>【目標指標】 畜産による産出額</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 447億円(H26) 〔直近〕 472億円(H30)</p> <p>【目標値】 500億円(R2)</p>	<p>【ハード】 ・畜産経営競争力強化支援事業費</p> <p>【ソフト】 ・畜産経営技術対策事業費</p>	<p>やまがたの和牛増頭戦略協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>少が続いているため、後継者や新規就農者の担い手を継続的に育成・確保していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備や機械導入への支援により、増頭が図られ、担い手の生産基盤の強化が着実に進んでいる。畜産経営の安定化と畜産による産出額 500 億円の達成に向けて、中小家族経営の所得向上に必要な施設等の整備等と併せ、規模拡大や生産性向上等の取組みを地域ぐるみで支援していく必要がある。 			
<p>(2) やまがたの和牛増頭加速化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○和牛繁殖雌牛の増頭や一貫経営への移行推進、ET(受精卵移植)技術の活用により、和牛子牛の増産を図るとともに、優秀な県産種雄牛の造成等により、「総称山形牛」のブランド力を強化する。</p> <p>【担当課】 畜産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁殖雌牛の増頭及び乳用牛への和牛受精卵移植による和牛子牛の増産を推進。 繁殖性が低下している高齢牛を能力の高い雌牛に入れ替える取組みを奨励し、子牛の生産効率の向上を推進。 優良な県産種雄牛の造成を継続するとともに、普及利用を図りながら、「総称山形牛」のブランド力を強化。 和牛肉のおいしさの「見える化」により、食味に優れた高品質な「総称山形牛」をPR。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 和牛繁殖雌牛の増頭</p> <div data-bbox="387 703 1364 839" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁殖雌牛導入を支援する生産基盤拡大加速化事業(国庫)に458頭要望。 繁殖雌牛の増頭を図るため施設整備に畜産経営競争力強化支援事業(県単)で5戸、畜産クラスター事業(国庫)で1戸を支援。 </div> <div data-bbox="387 839 1364 940" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和牛塾や家畜人工授精師向けのスキルアップ研修会の開催。 一貫経営や規模拡大農家を中心に巡回指導の実施。 </div> <p>ii) 優良県産種雄牛の造成</p> <div data-bbox="387 995 1364 1166" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肉用牛育種改良推進会議の開催(7/7) 候補種雄牛の発育等の能力検定(1頭:5月～9月) 「冬景21」号と「美結喜」号の2頭が県産種雄牛としてデビュー(7/7) 県産種雄牛の人工授精用精液を供給(3,281本9月末日時点) </div> <div data-bbox="387 1166 1364 1337" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肉用牛育種改良推進協議会を開催(2回) 候補種雄牛の発育等の能力検定を実施(3頭) 候補種雄牛の現場後代検定材料牛生産のための調整交配を実施(11月～1月、2頭) 引き続き、県産種雄牛の人工授精用精液を供給。 </div> <p>iii) ET(受精卵移植)技術の活用による和牛子牛の増産</p> <div data-bbox="387 1393 1364 1490" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和牛受精卵(体外受精卵)を畜産研究所で50個製造し、畜産農家に配布。 うち10個を全農山形乳用牛育成センターに配布し、受精卵移植(ET)による和牛子牛生産 </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①肉用牛産出額 ②繁殖雌牛頭数 <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①110億円(H26) ②6,140頭(H27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①122億円(H30) ②7,690頭(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①142億円(R2) ②7,500頭(R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜産経営競争力強化支援事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> やまがたの和牛増頭戦略事業費 肉用牛改良増殖対策事業費 	<p>やまがたの和牛増頭戦略協議会</p> <p>肉用牛育種改良推進協議会</p> <p>山形県肉牛協会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>を支援。</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全農山形乳用牛育成センターへ和牛受精卵を配布し、生まれた子牛を同キャトルセンターで育成後、県内の子牛市場で販売。 <p>iv) 総称山形牛ブランドの向上</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい山形推進機構と連携した総称山形牛のプレゼントキャンペーンを実施(5月) ・総称山形牛を学校給食用の食材として県内の学校等に無償提供(8月～) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛肉の「おいしさの指標」の見える化に係る表示方法の検討や共進会等での試行。 ・食味に特長をもつ「福福照」号産子の低コスト飼養体系のモデル実証。 ・総称山形牛を学校給食用の食材として県内の学校等に引き続き無償提供(～3月まで) <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖雌牛の頭数は着実に増加している。しかし、県内の和牛子牛の自給率は2割程度に留まっており、繁殖雌牛の増頭支援など、引き続き、和牛子牛の増産対策に取り組んでいく必要がある。 ・気高系の「冬景21」号と「美結喜」号の2頭が県産種雄牛としてデビュー(7月7日)。「冬景21」号は枝肉重量が期待され、「美結喜」は上物率の向上が期待される。今後、産地間競争の激化が見込まれることから、県産種雄牛の利用拡大による「総称山形牛」の更なる高品質化とブランド力強化の取組みを一層推進していく必要がある。 			
<p>(3) 酪農生産性向上・消費拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】</p> <p>○乳用牛群検定事業の活用等により個体能力を把握し、生産性を高めるとともに、県産牛乳の消費拡大を図り酪農家の所得向上を推進する。</p> <p>【主担当課】 畜産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳用牛の能力を最大限発揮できる飼養管理の実践と、高能力が期待されるゲノミック評価※済み性判別受精卵を活用した優良後継牛を確保し、生乳生産量の拡大及び所得の向上を推進。 ※遺伝子レベルで能力を評価。 ・本県の酪農と乳業が連携し、県産飼料利用等のこだわりのある生乳生産等による高付加価値化を一層推進するとともに、その特徴を活かして製造された商品を牽引役として県産牛乳・乳製品全体の販路を開拓・拡大。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p>i) 乳用牛のベストパフォーマンス実現の支援</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛群検定の実施への支援(4月～、対象50戸) ・北米よりゲノミック評価済み受精卵を5個導入し、畜産研究所の乳用牛に移植(4月) ・7月5日ゲノミック由来の産子誕生(本事業2例目:H31年度移植分) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲノミック評価済み受精卵由来の子牛から卵子を採取し体外受精卵を製造(3月) ・乳用牛ベストパフォーマンス実現セミナー及び意見交換会の開催(2月) <p>ii) 県産牛乳等の消費拡大</p>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①乳用牛産出額 ②経産牛1頭当たり生乳生産量 <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①81億円(H26) ②7,254kg(H23～27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①87億円(H30) ②7,581kg(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①93億円(R2) ②7,700kg(R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営競争力強化支援事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳用牛改良増殖対策事業費 	<p>山形県ミルクブランド推進協議会</p> <p>山形県牛乳普及協会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全農山形県本部と連携した福祉施設や病院等への牛乳配布(5月、6月) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県牛乳普及協会、山形県ミルクブランド推進協議会と連携した消費拡大PRの実施。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛群検定の実施や飼養管理技術の向上により、1頭当たり乳量は増加しているものの、乳用初妊牛価格の高止まり等により、後継牛の導入が困難な状況が続いていることから、高能力後継牛の確保対策等に継続的に取り組み、生乳生産量の拡大と所得向上を図っていく必要がある。 ・牛乳・乳製品の産地間競争が激化していることから、高付加価値牛乳の生産と新たな乳製品の開発を支援していく必要がある。 			
<p>(4) 県産銘柄豚生産・販路拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○繁殖性や肉質に優れた種豚を作り出し、普及利用を図ることにより、県産銘柄豚の生産拡大と販路拡大を推進する。</p> <p>【主担当課】 畜産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産豚肉の生産性とブランド力を高めるため、改良型種豚の普及利用を推進。 ・県産銘柄豚の生産拡大を支援するとともに、山形県産豚肉銘柄推進協議会と連携した各種イベントや商談会等でのPRにより販路を拡大。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 改良型種豚の作出</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)山形県系統豚普及センターでの、改良型ランドレース種(H30年度養豚研究所より雄3頭譲渡)由来の交雑母豚の生産を支援。 ・養豚研究所から県内養豚農家に対して改良型デュロック種の人工授精用精液を供給。(4月～9月:1,250本) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)山形県系統豚普及センターでの改良型ランドレース種由来の交雑母豚の生産と養豚農家への供給を支援。 ・引き続き、養豚研究所から県内養豚農家に対して人工授精用精液を供給。 <p>ii) 県産豚肉の銘柄化の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への豚肉提供による食育活動とPRを酒田市内で実施(7/9) ・モンテディオ山形へ県産銘柄豚を贈呈。ホームゲームのハーフタイムで行われた贈呈式において、県産銘柄豚が選手からPRされた(7/11) ・養豚研究所から県内養豚農家に対し、優良種豚の人工授精用精液を供給。(4月～9月:2,188本) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県産豚肉銘柄推進協議会と連携して、各種商談会・イベント・首都圏デパート催事等で県産銘柄豚のPRの実施。 ・引き続き、養豚研究所から優良種豚の人工授精用精液を供給。 	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①豚産出額 ②豚枝肉上物率 <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①128億円(H26) ②46%(H23～27) <p>〔直近〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①117億円(H30) ②49.0%(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①172億円(R2) ②50%(R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営競争力強化支援事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営競争力強化支援事業費 ・豚改良増殖対策事業費 ・山形県産豚肉銘柄推進事業費 	<p>山形県産豚肉銘柄推進協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議				
	<p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで、優良種豚の精液利用等による県産豚肉の品質向上の取組みにより、県産豚肉の枝肉上物率は順調に上昇している。また、県産銘柄豚は県内外で販売されるとともに、輸出も行われ品質等の面で高く評価されている。今後、国際化の進展等に伴い、産地間競争が激化していくことが見込まれることから、改良型種豚の普及利用等により、高付加価値豚肉の生産向上と県産銘柄豚の生産拡大に向けた取組みを一層推進していく必要がある。 							
<p>(5) 養鶏生産・販路拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○肉用鶏や採卵鶏の規模拡大を支援するとともに、やまがた地鶏については、新規参入者の確保や民間における種卵生産体制の確立を図りながら、養鶏全体の生産拡大と販路開拓・拡大を推進する。</p> <p>【担当課】 畜産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 産出額の増加に向けて、意欲ある養鶏生産者の規模拡大や6次産業化(加工)の取組みを引き続き支援。 やまがた地鶏振興協議会と連携した取組みにより、やまがた地鶏の知名度向上を図るとともに、販路開拓等による需要拡大と生産拡大を一体的に推進。 <p>②令和2年度 of 主な取組みの内容</p> <p>i) 養鶏の生産拡大</p> <table border="1" data-bbox="387 671 1368 842"> <tr> <td data-bbox="387 671 1368 738"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> やまがた地鶏の生産拡大を図るため関係市町と打ち合わせ。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 738 1368 842"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲ある養鶏生産者の規模拡大や生産性向上に向けた施設整備・機械導入計画の掘り起こしを行い、国庫や県単事業により支援。 </td> </tr> </table> <p>ii) やまがた地鶏の販路拡大</p> <table border="1" data-bbox="387 895 1368 1201"> <tr> <td data-bbox="387 895 1368 1034"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> やまがた地鶏取扱い店マップをやまがたアグリネット、おいしい山形推進機構、(公社)山形県畜産協会のHPに掲載(4月) やまがた地鶏を学校給食用の食材として無償提供(8、9月) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1034 1368 1201"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知名度向上や販路開拓のため、やまがた地鶏振興協議会と連携し、各種イベントでのPRの実施。 やまがた地鶏の生産性向上や販売等に関する研修会の開催。 引き続き、やまがた地鶏を学校給食用の食材として無償提供(3月まで) </td> </tr> </table> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜産クラスター事業(国庫)を活用し、規模拡大や付加価値、鶏肉・鶏卵の生産による畜産産出額の増加につながるよう、指導・支援していく必要がある。 やまがた地鶏については、やまがた地鶏振興協議会と連携して、実需者とのマッチングを行っているものの、安定した販路が開拓出来ず飼養羽数も伸び悩んでいる。やまがた地鶏の飼養羽数の拡大のためには販売拡大が不可欠であり、各種イベントでのPRを通じた知名度の向上や販促活動に引き続き取り組む必要がある。 	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> やまがた地鶏の生産拡大を図るため関係市町と打ち合わせ。 	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲ある養鶏生産者の規模拡大や生産性向上に向けた施設整備・機械導入計画の掘り起こしを行い、国庫や県単事業により支援。 	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> やまがた地鶏取扱い店マップをやまがたアグリネット、おいしい山形推進機構、(公社)山形県畜産協会のHPに掲載(4月) やまがた地鶏を学校給食用の食材として無償提供(8、9月) 	<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知名度向上や販路開拓のため、やまがた地鶏振興協議会と連携し、各種イベントでのPRの実施。 やまがた地鶏の生産性向上や販売等に関する研修会の開催。 引き続き、やまがた地鶏を学校給食用の食材として無償提供(3月まで) 	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 鶏産出額 やまがた地鶏飼養羽数 <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 34億円(H26) 16,000羽(H27) <p>〔直近〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 33億円(H30) 6,200羽(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> 42億円(R2) 20,000羽(R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜産経営競争力強化支援事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜産経営競争力強化支援事業費 やまがた地鶏産地形成推進事業費 	<p>やまがた地鶏振興協議会</p>
<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> やまがた地鶏の生産拡大を図るため関係市町と打ち合わせ。 								
<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲ある養鶏生産者の規模拡大や生産性向上に向けた施設整備・機械導入計画の掘り起こしを行い、国庫や県単事業により支援。 								
<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> やまがた地鶏取扱い店マップをやまがたアグリネット、おいしい山形推進機構、(公社)山形県畜産協会のHPに掲載(4月) やまがた地鶏を学校給食用の食材として無償提供(8、9月) 								
<p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知名度向上や販路開拓のため、やまがた地鶏振興協議会と連携し、各種イベントでのPRの実施。 やまがた地鶏の生産性向上や販売等に関する研修会の開催。 引き続き、やまがた地鶏を学校給食用の食材として無償提供(3月まで) 								

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議											
<p>(6) やまがた畜産ブランド推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○新たな県産畜産加工品の開発により高付加価値化を推進するとともに、安全・安心な畜産物の生産により県産畜産物の評価向上を図る。</p> <p>【担当課】 畜産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな国際環境下で産地間競争を勝ち抜くため、県産飼料等にこだわった畜産物生産や加工品開発による高付加価値化と有利販売を一層推進。 ・農場HACCP及び畜産GAPの取組みを一層推進するとともに、家畜伝染病の防疫対策を強化。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 県産畜産品の高付加価値化</p> <table border="1" data-bbox="387 400 1364 604"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・新たな畜産加工品の開発(豚肉、牛肉、牛乳等)に関する情報交換(随時)</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・山形肉牛協会、山形県産豚肉銘柄推進協議会、山形県牛乳普及協会、山形県ミルクブランド推進協議会、やまがた地鶏振興協議会等の団体やその構成員との連携により、新たな畜産加工品開発への支援と県産加工品のPRの実施。</td> </tr> </table> <p>ii) 安全安心な本県畜産物の生産の推進</p> <table border="1" data-bbox="387 660 1364 930"> <tr> <td>【令和2年9月末までの取組実績】</td> </tr> <tr> <td>・畜産 GAP 認証の事前指導を実施した結果、8月までに2農場で現地審査が実施され、認証取得の見込み。</td> </tr> <tr> <td>・農場 HACCP 認証取得の普及拡大に向けた指導を実施。</td> </tr> <tr> <td>【令和2年度の今後の取組予定】</td> </tr> <tr> <td>・農場 HACCP 指導員の養成(2名)と農場 HACCP 認証取得に向けた事前指導の継続実施</td> </tr> <tr> <td>・畜産GAP認証取得に向けた事前指導の継続実施。</td> </tr> <tr> <td>・高病原性鳥インフルエンザのモニタリング検査の実施。</td> </tr> </table> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産畜産物の新たな加工品開発が進んでいるものの、更に伸ばしていくためには、食品製造業者と連携した取組みや法人経営の事業者の取組みを重点的に支援していく必要がある。 ・農場HACCP認証農場については、継続的な指導により着実に増えている(19 農場)。一方で、畜産GAP認証農場は指導員の現地指導により昨年度より2農場増加し、計 8 農場となる見込み。更に普及啓発を図りながら認証取得に向けた指導を行っていく必要がある。 	【令和2年9月末までの取組実績】	・新たな畜産加工品の開発(豚肉、牛肉、牛乳等)に関する情報交換(随時)	【令和2年度の今後の取組予定】	・山形肉牛協会、山形県産豚肉銘柄推進協議会、山形県牛乳普及協会、山形県ミルクブランド推進協議会、やまがた地鶏振興協議会等の団体やその構成員との連携により、新たな畜産加工品開発への支援と県産加工品のPRの実施。	【令和2年9月末までの取組実績】	・畜産 GAP 認証の事前指導を実施した結果、8月までに2農場で現地審査が実施され、認証取得の見込み。	・農場 HACCP 認証取得の普及拡大に向けた指導を実施。	【令和2年度の今後の取組予定】	・農場 HACCP 指導員の養成(2名)と農場 HACCP 認証取得に向けた事前指導の継続実施	・畜産GAP認証取得に向けた事前指導の継続実施。	・高病原性鳥インフルエンザのモニタリング検査の実施。	<p>【目標指標】 畜産農家等の新たな畜産加工食品の開発件数(H29～32の累計)</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 6件(H27) 〔直近〕 9件(R1)</p> <p>【目標値】 12件(H29～R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産競争力強化支援事業費 ・山形県産豚肉銘柄推進事業費 ・やまがた地鶏産地形成推進事業費 ・農畜産物放射性物質検査事業費 ・家畜個体識別等情報活用促進事業費 ・高病原性鳥インフルエンザ対策事業費 <p>ほか</p>	<p>山形県ミルクブランド推進協議会</p> <p>山形肉牛協会</p> <p>山形県産銘柄豚推進協議会</p> <p>やまがた地鶏振興協議会</p>
【令和2年9月末までの取組実績】															
・新たな畜産加工品の開発(豚肉、牛肉、牛乳等)に関する情報交換(随時)															
【令和2年度の今後の取組予定】															
・山形肉牛協会、山形県産豚肉銘柄推進協議会、山形県牛乳普及協会、山形県ミルクブランド推進協議会、やまがた地鶏振興協議会等の団体やその構成員との連携により、新たな畜産加工品開発への支援と県産加工品のPRの実施。															
【令和2年9月末までの取組実績】															
・畜産 GAP 認証の事前指導を実施した結果、8月までに2農場で現地審査が実施され、認証取得の見込み。															
・農場 HACCP 認証取得の普及拡大に向けた指導を実施。															
【令和2年度の今後の取組予定】															
・農場 HACCP 指導員の養成(2名)と農場 HACCP 認証取得に向けた事前指導の継続実施															
・畜産GAP認証取得に向けた事前指導の継続実施。															
・高病原性鳥インフルエンザのモニタリング検査の実施。															

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略5: 畜産の競争力強化

戦略分野2: 耕畜連携・自給飼料～耕種農家と畜産農家の連携による県産飼料の生産・利用拡大～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 県産飼料生産拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○耕畜連携の強化とともに、飼料基盤の整備や水田フル活用による飼料生産を推進し、県産飼料の生産・利用拡大を図る。</p> <p>【担当課】 畜産振興課 県産米ブランド推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料生産ほ場の整備や施設・機械の導入を支援し、省力的かつ効率的な飼料生産と利用拡大を一層推進。 ・飼料用米及び稲WCSの広域流通を推進し、生産・利用を拡大。 <p>②令和2年度の実績と今後の取組の内容</p> <p>i) 県産飼料の基盤整備</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営競争力強化支援事業(県単)により、自給飼料生産のための機械整備(3地区)、水田放牧施設整備(1地区)、草地改良(5地区)を支援。 ・堆肥センターの機能強化を図るため畜産環境対策総合支援事業に申請し、1事業主体の2地区が採択された。年度内完成に向けて、執行管理の支援を実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産クラスター事業(国庫)や畜産経営競争力強化支援事業(県単)により、施設整備や機械導入、草地更新等を引き続き支援。 </div> <p>ii) 飼料用米の生産・利用の拡大[関連]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各総合支庁管内のマッチング協議会を通じ需給調査を実施中。 ・酒田市の集落営農法人と酪農法人・肉用牛農家の間で、飼料用米及び稲WCSの受給契約のマッチングを推進(4月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のマッチング協議会における具体的活動(生産・流通・利用)の支援。 </div> <p>iii) 耕畜連携の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲WCS用として茎葉タイプの品種による栽培実証を5月中旬～9月上旬に6地区(天童市、飯豊町、最上町、真室川町、酒田市)(1品種・1系統)で実施。 ・稲WCS用茎葉型の品種(山形飼糯138号)の品種登録に向けての準備に向けた打合せ(5月、9月) ・原種生産供給体制整備に向けた現地打合せ(6月、7月、8月) ・稲WCSの茎葉型品種の特性についての研修会及び実証圃の現地視察(8/7)参加者30名 ・子実用とうもろこしの栽培・給与実証の実施(1地区)(5月～10月) ・耕作放棄地等の未利用農地を活用した簡易放牧の取組みへの支援を実施(小国町、川西町) ・小国町古田地区約3ha(全体で6.1ha)でのレンタルカウによる放牧の取組みを実施中。 </div>	<p>【目標指標】</p> <p>①飼料作物の作付面積(飼料用米含む)</p> <p>②県内飼料生産・利用のための耕畜連携組織数</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <p>①10,333ha(H27)</p> <p>②66組織(H27)</p> <p>〔直近〕</p> <p>①10,070ha(R1)</p> <p>②71組織(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①11,200ha(R2)</p> <p>②75組織(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営競争力強化支援事業費 ・草地開発事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自給飼料生産対策事業費 	

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・米沢市の繁殖農家が新たに簡易放牧の取組みを計画しており、資材導入を県単事業により支援、農業技術普及課で技術支援を実施。 ・堆肥の高品質化による利活用促進を図るため、畜産クラスター事業(国庫)を活用した施設改修に向けた体制づくりを支援(1地区2個所)(4月～) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲WCS用として茎葉型品種による栽培実証を6地区で実施(4月～9月)、また、給与実証を6地区(2畜種)で実施(11月～2月) ・子実用とうもろこしの栽培・給与実証をそれぞれ1地区で実施(栽培実証は4月～9月、給与実証は10月～2月) ・コントラクター(飼料作物栽培・収穫調製作業請負組織)の育成強化を図るため、コントラクター等研究会を開催(1回:最上11月) ・堆肥の高品質化による利活用促進を図るため、畜産クラスター事業(国庫)を活用した施設改修に向けた体制づくりを支援(1地区2個所) </div> <p>iv)置賜地域での飼料自給力の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯豊町及び川西町での実証に向けた関係者打合せ(4月) ・実証圃の播種(飯豊町:5/28、川西町:6/8) ・子実用とうもろこし(令和元年度収穫)を給与した牛の枝肉成績収集(継続中) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯豊町及び川西町での収穫調製技術の実証(10月中旬) ・肥育牛への給与実証の実施(令和元年度収穫:継続中。令和2年度収穫:11月～) ・子実用とうもろこし(令和元年度収穫)を給与した牛の枝肉成績収集・肉質の分析(継続中) ・コスト等分析の総括、並びに、経営モデルの提示(資料による啓発)(3月) </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草地更新や自給飼料生産用機械導入を支援したことにより、収量の向上や飼料収穫・調整作業等の効率化がはかられたものの、更に良質な飼料生産の取組みをひろげていくためには継続した支援が必要である。 ・稲WCSや飼料用米の地域内マッチングは定着しているものの、更なる需要拡大に向けて、コントラクターの育成・強化による飼料生産拡大や広域マッチング、稲WCSにおける茎葉タイプ品種の普及推進を図る必要がある。 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

戦略分野1: 人材育成～やまがた森林ノミクスを支える人材の育成・確保～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 森林ノミクスを支える人材育成・確保プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○森林ノミクスを支える人材を確保するため、県立農林大学校林業経営学科や緑の雇用制度等を活用して若い林業就業者の育成を図るとともに、県産木材の安定供給を担う技術者の育成に取り組む。 ○森林組合等の林業事業体の経営基盤の強化を図ることにより、林業・木材産業における就業者の所得の向上と雇用の改善を図る取組みを推進する。</p> <p>【担当課】 森林ノミクス推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立農林大学校林業経営学科卒業生の林業関係団体・企業等への着実な就業を支援。 ・林業の新規就業者を確保するための施策の展開、青年・指導林業士の認定・活動の促進。 ・意欲と能力のある林業経営者の育成強化を図るため、集約化を推進する技術者や木材生産等の現場を管理する技術者の育成。 ・「意欲と能力のある林業経営者」等の公募・公表と育成、着実な再造林等の取組みの指導。 ・学部・学科構成やカリキュラム編成等大学の具体的な事項を定める基本計画について、基本計画検討委員会を設置し検討を進めるとともに、新校舎の基本・実施設計等、キャンパス整備を実施【再掲】 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 林業の新規就業の促進確保</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林大学校森林経営学科学生への緑の青年就業準備給付金の説明(6/26)、希望者面談(7/27)を行い、給付を決定(7/31、21人) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林大学校森林経営学科学生への緑の青年就業準備給付金の給付(11月、1月) ・新規就業を検討している方を対象とした就業支援講習会の開催(11月) ・農林大学校生や就業希望者を対象とした就業ガイダンスの開催(2月) </div> <p>ii) 林業技術者の育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業事業体を対象とした森林作業道作設技術者養成研修(7/28～31)及び路網作設高度技能者養成研修(8/27,28)を開催。 ・青年林業士等を対象にしたスマート林業研修会の開催(9/8、93人) ・市町村業務を支援する「地域林政アドバイザー」の養成と市町村や県林務職員の知識・技術向上を図る研修会を開催(8/24,25、41人) ・森林経営管理法に基づく「意欲と能力のある林業経営者」等の実行に向けた意見交換等を実施(14者) ・令和2年度の「意欲と能力のある林業経営者」等の公募を開始(9月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォレストリーダーや森林施業プランナーなどの林業技術者を対象とした、素材生産や再造林等の技術向上を図るための研修会の開催。 ・森林技術職員の技術向上を図るための市町村職員や林業普及指導員等を対象とした研修会の開催。 </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①林業の新規就業者数(4年間の累計) ②森林施業プランナーの数 ③林業士数(指導林業士+青年林業士) <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①222人(H24～27) ②28人(H28) ③51人(H28) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①189人(H29～R1) ②51人(R1) ③71人(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①270人(H29～R2) ②50人(R2) ③71人(R2) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑の青年就業準備給付金事業費 ・やまがた森林ノミクス森林管理システム推進事業費(人材育成推進事業) ・林業技術向上対策事業費 ・林業普及指導事業費 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県林業グループ連絡協議会

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p data-bbox="387 172 1364 236">・森林経営管理法に基づく「意欲と能力のある林業経営者」等の公募・公表と育成、確実な実行の指導[拡]</p> <p data-bbox="360 261 831 288">iii) 林業士(指導林業士・青年林業士)の育成</p> <div data-bbox="387 295 1364 395" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 301 748 323">【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul data-bbox="396 333 1106 389" style="list-style-type: none"> ・青年林業士スキルアップ研修会を開催(7/6、38人) ・青年林業士等を対象にしたスマート林業研修会の開催(9/8、93人) </div> <div data-bbox="387 399 1364 499" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 405 734 427">【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul data-bbox="396 437 1117 493" style="list-style-type: none"> ・青年・指導林業士のスキルアップ研修の実施(10月以降) ・青年・指導林業士の新規認定候補者の養成研修の実施(1月、2月) </div> <p data-bbox="360 525 925 552">iii) 明日の農林業を担う専門職大学構想の推進[関連]</p> <div data-bbox="387 558 1364 957" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 564 748 587">【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul data-bbox="396 596 1352 951" style="list-style-type: none"> ・学部学科構成、カリキュラム編成等を定める基本計画を検討するため、基本計画検討委員会を設置し、検討委員会を2回(5/29、9/14)開催し、基本計画の中間報告を策定。 ・大学の名称を「東北農林専門職大学(仮称)」に決定。 ・「就農等支援検討PT」(事務局:農政企画課)を設置し、関係団体と連携して専門職大学卒業生が県内で就農・就業しやすい仕組み等を検討。 ・各総合支庁において「地域連携PT」(事務局:各総合支庁)を設置し、市町村、関係団体と連携して、専門職大学の実習先等、大学と地域の連携について検討。 ・「附属農林大学校機能強化検討PT」(事務局:農林大学校)を設置し、専門職大学の附属校となる農林大学校の人材育成方針や教育環境等を検討。 ・大学校舎の基本・実施設計の委託業者について、公募型プロポーザル方式により選定し、9月から設計業務を開始。 </div> <div data-bbox="387 960 1364 1158" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 967 734 989">【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul data-bbox="396 999 1352 1152" style="list-style-type: none"> ・基本計画の検討(基本計画検討委員会の設置等)(~R3) ・「就農等支援検討PT」、「地域連携PT」、「附属農林大学校機能強化検討PT」における検討(~R3) ・大学校舎の基本・実施設計(~R3) ・大学建設予定地にある、農林大学校旧学生寮の解体(~R3) </div> <p data-bbox="331 1174 860 1201">③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul data-bbox="360 1211 1364 1503" style="list-style-type: none"> ・「緑の青年就業準備給付金」について、2年生11人全員に加え、新1年生14人のうち10人が給付金を申請しているほか、これまで、給付した全学生が卒業後に林業関係に就業している。また、就業支援講習会や就業ガイダンスの参加者が、就業に結び付くケースが出てきているなど、新規就業者は概ね順調に推移しているが、今後も、着実に新規就業者を確保していくためには、引き続き、緑の青年就業準備給付金の支援のほか、就業支援講習会、就業ガイダンスの効果的な周知・開催やフォローアップ等を行っていく必要がある。 ・林業事業体の中核を担うフォレストリーダーや森林施業プランナーなどの林業技術者は着実に増加しているが、事業体の経営力を向上するためには、さらなるキャリアアップのほか、収益性の高い林業・木材産業を実践できる人材の育成が必要がある。 			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・青年・指導林業士は、新型コロナウイルス感染症の影響で養成研修ができず、令和2年4月の新規認定者はいないが、引き続き、新規認定に向けて取り組むとともに、認定者の活動を一層促進していく必要がある。 ・「意欲と能力のある林業経営者」等の公募・公表と育成を引き続き行うとともに、経営管理の確実な実行や事業体の経営力の強化を行っていく必要がある。 ・基本計画検討委員会などを設置し、R2. 9月に委員会において基本計画中間報告を策定。その後、大学名称を「東北農林専門職大学(仮称)」に決定するなど、予定どおり、大学設置に向けた検討が進んでいる。 ・今後は、専門職大学のR5.4月の開学に向け、教員の招聘や個別科目の具体的な内容の検討、多彩な臨地実務実習先の確保、校舎を始めとするキャンパス整備など、この大学に県内外から多くの学生が集まる魅力ある大学となるよう準備を進める必要がある【再掲】 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

戦略分野2:木材生産・加工～木を育て・使い・再び植える「緑の循環システム」の構築～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 再造林推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○再造林を推進するための会議を開催し、民間主導により再造林を支援する基金制度を創設するなど、再造林の推進体制及び支援体制の構築を図り、再造林率を向上させる。</p> <p>【主担当課】 森林ノミクス推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村森林整備計画や県作成の「皆伐・更新施業の手引き」等に基づき、伐採事業者と造林事業者が連携して主伐(皆伐)後の再造林を適正かつ計画的に実施するよう、指導を徹底。 ・行政と山形県再造林推進機構が連携して、持続的に再造林を支援する取組を実施。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i)再造林の推進体制の整備</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆伐・再造林の適正かつ計画的な実施に向け、伐採及び造林事業者 14 者と意見交換等を実施。 ・伐採事業者と造林事業者のマッチングや、森林所有者への伐採事業者斡旋など、事業者間連携等に関する相談窓口を「山形県再造林推進機構」へ4月に設置。 ・再造林の低コスト化を図る、低密度植栽技術に関する検討会議を6月に開催。 ・再造林の低コスト化を図る低密度植栽技術の確立に向けた実証試験を実施中(5か所) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伐採及び造林事業者間の連携強化や情報共有、森林所有者の意欲向上、主伐と再造林の一体的かつ計画的な実行など再造林の取組みの加速化を図る、「山形県再造林加速化対策会議」の開催。 ・伐採と再造林の関係事業者を対象に、森林所有者に対して皆伐から再造林・保育までの一連した施業提案手法等を学ぶ研修会の開催。 </div> <p>ii)再造林の支援体制の構築</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再造林の普及啓発や伐採・造林事業者の連携した取組みを促進するため、森林経営計画の変更や地上レーザ機器のレンタル経費の支援を実施[1森林組合] ・「山形県再造林推進機構」と連携した、補助率 100%(国・県 90%、機構の基金 10%相当)の再造林支援を継続実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗木生産施設整備への支援を実施するとともに、苗木生産技術向上と新規参入者の育成を図るための種苗生産者講習会の開催。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山形県における皆伐・更新施業の手引き」について、研修会や意見交換等により徐々に理解が深まっているが、関係事業者への一層の浸透を図るため、森林経営計画の認定や伐採届の受理などの業務を担う市町村と連携し、皆伐・再造林の一体的な取組みに向けた指導を引き続き強化していく必要がある。 	<p>【目標指標】</p> <p>①再造林率</p> <p>②再造林を支援する基金制度の創設</p> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <p>①33%(H27)</p> <p>②-</p> <p>【直近】</p> <p>①64%(R1)</p> <p>②制度運用(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①100%</p> <p>②制度創設(H29)</p> <p>制度運用(H30～)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林施業支援事業費 ・森林環境緊急保全対策事業費(森林資源再生事業) ・やまがた森林ノミクス推進事業費(再造林支援制度推進事業) <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまがた森林ノミクス森林管理システム推進事業費(再造林加速化対策事業) 	<p>山形県再造林加速化対策会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・山形県再造林推進機構と連携した再造林経費の100%支援制度等により、再造林率は着実に上昇しているが、森林所有者の再造林意欲が依然低調なことから、引き続き、伐採事業者と造林事業者の連携による森林所有者への働きかけを強化していく必要がある。</p>			
<p>(2) 県産木材安定供給プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○県産木材の生産拡大に向けた森林施業の集約化、路網の計画的な整備、高性能林業機械の導入等の低コスト作業システムを構築することにより、持続可能で収益性の高い森林経営を推進する。 ○県産木材や県産木材製品の高付加価値化に向けて、森林認証やJAS認定の取得を推進する。</p> <p>【担当課】 森林ノミクス推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施業の集約化を一層推め、低コスト作業システムを構築して県産木材の安定供給を推進。 ・県産木材製品の高付加価値化の取組みを推進。 <p>②令和2年度の実績と今後の取組予定</p> <p>i) 施業の集約化の推進</p> <div data-bbox="385 502 1366 703" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画の策定、変更に向けた森林組合等への指導を実施(4月～随時) ・航空レーザ測量の実施に向けた市町村アンケートを実施(5月) ・高度な森林・地形情報を収集する航空レーザ測量の発注(9月) ・森林調査の省力化、精度向上に向けた地上型レーザ測量研修会の開催(8/5) ・森林整備活動支援交付金等の活用による森林の境界明確化を実施。 </div> <div data-bbox="385 703 1366 874" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主伐主体の計画への変更を促進するため、森林組合等への訪問指導。 ・航空レーザ測量による高度な森林・地形情報の収集と、森林簿等の精度向上。 ・航空レーザ測量の活用方法に関する研修会の開催(11月) ・森林整備活動支援交付金等の活用による森林の境界明確化の推進。 </div> <p>ii) 林内路網の整備促進</p> <div data-bbox="385 930 1366 1034" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林道開設6路線、林道改良1路線、林業専用道3路線について工事を実施。 ・継続路線の引き続きの計画検討と市町村との連携により新規路線の具体的な計画を検討。 </div> <div data-bbox="385 1034 1366 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林道開設6路線、林道改良1路線、林業専用道3路線について工事の実施。 ・継続路線の引き続きの計画検討と市町村との連携により新規路線の具体的な計画の検討。 </div> <p>iii) 高性能林業機械の導入推進</p> <div data-bbox="385 1193 1366 1329" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の補助事業等を活用し、事業者の高性能林業機械等の導入を支援[9台(6事業者)交付決定] ・森林環境譲与税を活用し、高性能林業機械のレンタル経費を支援(28台決定) </div> <div data-bbox="385 1329 1366 1433" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の補助事業等を活用し、事業者の高性能林業機械等の導入の支援9台[6事業者] ・森林環境譲与税を活用し、高性能林業機械のレンタル経費の支援(28台) </div> <p>iv) 間伐の推進</p> <div data-bbox="385 1489 1366 1516" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①木材(素材)生産量 ②高性能林業機械保有台数 ③林内路網整備 ④森林管理認証の取得団体数(累計) ⑤JAS製品出荷量 <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①36万^m (H27) ②82台 (H26) ③117km (H27) ④ー ⑤28千^m (H27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①53.5万^m (R1) [速報値] ②154台 (H30) ③123km (R1) ④2件 (R1) ⑤78千^m (R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①60万^m (R2) ②150台 (R2) ③152km (R2) ④5件 (R2) ⑤85千^m (R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林施業支援事業費 ・民有林林道整備事業費 ・林業成長産業化総合対策事業費 ・森林整備促進・林業等再生基金事業費 ・やまがた森林ノミクス森林管理システム推進事業費(高性能林業機械トライアル支援事業) <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林整備地域活動支援事業費 ・やまがた森林ノミクス推進事業費(県産製材品高度化促進事業) ・東京オリンピック・パラリンピック木材供給事業 ・やまがたの木利用拡大プロジェクト事業費 ・森林環境緊急保全対策事業費(森林資源循環利用促進事業) <p>【やまがた緑環境税】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート林業推進事業費(航空レーザ測量事業) 	

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・やまがた緑環境税活用事業による間伐を 803ha実施見込み(8月末現在)。また、搬出間伐を促進するため、搬出支援事業計画量 45,496m³を承認し、年度内に搬出見込み。</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・森林経営計画に基づく路網整備と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムによる搬出間伐の促進。</p> <p>v) 県産木材の流通拡大</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>・原木輸送用のグラブ付トラックの導入を支援[2台(2事業体交付決定)]</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響等を含めた森林・林業関係団体との意見交換会を実施(7/6 森林ノ整備事業協同組合、7/10 県森林組合連合会・県木材産業協同組合)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている原木生産の出荷に対する支援の検討</p> <p>・滞留した大径材の活用に向けた木材製材設備の整備を支援(1事業体9月交付決定)</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・原木輸送用のグラブ付トラックの導入の支援[2台(2事業体)]</p> <p>・原木生産団体との意見交換会の実施</p> <p>・集成材工場の入荷制限に伴い林内等に一時保管している原木の虫害防止対策を支援(9月)</p> <p>vi) 森林認証取得の促進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>・県有林での SGEC 森林管理認証定期審査を受験(7/2,3)、認証維持決定。</p> <p>・県 HP で森林管理認証に係る PR を実施。</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・森林管理認証制度の普及、PR活動の実施。</p> <p>vii) 県産木材製品の高付加価値化の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <p>・JAS認証取得を支援(7月に1事業体取得)</p> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <p>・JAS認証取得の支援(1事業体)</p> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <p>・森林経営計画の策定や高性能林業機械の導入等により、森林組合等の事業体の素材生産体制は間伐主体に強化されつつあるが、増大する利用期の人工林資源を将来にわたり循環利用してくためには、大型運搬車等の通行が可能な林道等の整備や、高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムを実践し生産性や収益性の高い、適切かつ積極的な伐採に取り組むとともに、伐採後の再生林を確実に実行していくことが必要である。</p> <p>・森林クラウドや航空レーザ測量等のリモートセンシング技術等の活用により、高精度の森林・地形情報を解析・把握・共有し、低コスト作業システムの実践を促進していく必要がある。</p> <p>・製材・加工施設等のJAS認定の取得により、JAS製品出荷量は着実に増加しているが、多様化す</p>			

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>るニーズ(川下)に対応した県産木材の安定供給や付加価値向上を図るため、森林管理認証やJAS認証製材工場の着実な増加や、広葉樹材製品の開発・流通拡大、需給情報を共有するプラットフォームの整備等を促進していく必要がある。</p>			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

戦略分野3:木材利用～県民総参加による県産木材の率先利用の促進～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 県産木材率先利用プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○県産木材の利用を促進するため、公共施設や民間施設の木造化・木質化を推進するとともに、県民全体で県産木材を利用する「しあわせウッド運動」の推進、木質バイオマス供給施設整備への支援を推進する。</p> <p>【担当課】 森林ノミクス推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設及び民間施設の木造化・木質化の推進。 ・県民のライフステージに応じて、県民運動等による県産木材利用を体系的に推進。 ・木質バイオマス供給施設整備への支援及び燃料の安定供給体制の整備。 <p>②令和2年度の中核取組の内容</p> <p>i) 公共施設の木造化の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の木造化の推進を図るため、公共施設等県産木材利用拡大推進会議幹事会を開催(7/3) ・県の「やまがたの公共建築物等における木材の利用の促進に関する基本方針」改定にあわせて、各市町村が策定している木材利用促進に関する基本方針の改定の指導を実施(4月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の「やまがたの公共建築物等における木材の利用の促進に関する基本方針」改定にあわせて、各市町村が策定している木材利用促進に関する基本方針の改定の指導を実施(随時、市町村ごとに個別に指導) </div> <p>ii) 民間施設の木造化・木質化の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新築民間木造施設への助成を実施(145件中一般住宅99件、事務所・店舗等6件申込み) ・新型コロナウイルス感染症の影響等を含めた森林・林業関係団体との意見交換会を実施(7/6 森林ノミクス推進事業協同組合、7/10 県森林組合連合会・県木材産業協同組合)【再掲】 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新築民間木造施設への助成の実施。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により減退している木材需要を喚起する支援の検討。 </div> <p>iii) 県産木材を活用する「しあわせウッド運動」の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年8月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産木材を有効に活用した民間木造施設の顕彰を実施。(7/1 から 11/30 まで募集中) ・県産木材を利用した積木を障がい者就労施設で製作し、県内の認可保育所へ順次配布(今年度は村山・置賜の60施設予定) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産木材を有効に活用した民間木造施設の顕彰を実施。 ・県産木材を利用した積木を障がい者就労施設で製作し、県内の認可保育所へ配布。 </div> <p>iv) 木質バイオマスの利用促進</p>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①公共施設の木造化率 ②民間施設(産業用建築物)の木造化率 ③木質バイオマス供給量 <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①66%(H27) ②43%(H27) ③34千t(H27) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①56%(R1) ②37%(R1) ③201千t(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①100%(R2) ②55%(R2) ③106千t(R2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・やまがた森林ノミクス推進事業費 ・林業成長産業化総合対策事業費 	<p>公共施設等県産木材利用拡大推進会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス施設用の低質材(C・D材)の搬出経費に対する支援を実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス施設用の低質材(C・D材)の搬出経費に対する支援の実施。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の木造化の全庁的な推進や、新築民間木造施設への助成等により、公共施設や民間施設の木造化率は全国でも上位に位置しているが、人口減少に伴い新築住宅着工戸数の減少が見込まれ、新型コロナウイルス感染症の影響により木材需要が低迷している中、木材需要を回復し、さらに拡大していくためには、住宅・非住宅分野の双方において、県内外での県産木材の利用促進を図っていく必要がある。 ・木質バイオマス発電施設の整備が進み、燃料となる原木集荷が県内各地で始まり、CD材の需要が増加していることから、今後も安定供給していくことが必要である。 			
<p>(2) 林工連携推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】</p> <p>○林業・木材関係者と工業分野、住宅分野等の他産業が連携して木材等の森林資源を活用する「林工連携」を推進するための支援体制を構築するとともに、付加価値の高い新製品の開発を支援する。</p> <p>【主担当課】</p> <p>森林ノミクス推進課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林工連携コンソーシアムの運営。 ・林工連携による付加価値の高い新製品開発の促進。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 林工連携の推進体制の構築</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林工連携コンソーシアム総会を開催し、今年度計画等について決定(8/5) ・会員の意識醸成を図るため、秋田県立大学木材高度加工研究所の栗本教授を講師に研修会を開催(8/5) ・「スマート林業」部会研修会(スマート林業研修会)を開催(9/8、93人) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林工連携コンソーシアムの運営。 ・「新用途開発」、「新素材」の2テーマによる研究会の開催(10～11月予定) <p>ii) 新製品の開発推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業スーパータタルサボ事業(申請)による支援を実施(1件) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会等コンソーシアム事業や中小企業支援事業等により、新技術・製品の開発の促進。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林工連携による森林資源を起点とした新たな技術・製品の開発を推進するため、やまがた産業技術振興基金を活用し、林工連携コンソーシアムの運営を行い、他産業との連携による新製品の開発支援を行うことができた。引き続き中小企業支援のツール(補助金等)の活用を図りながら、3つの個別テーマによる研究会を実施し、県産木材を活用した製品開発等を推進していく必要がある。 	<p>【目標指標】</p> <p>①推進体制の設立</p> <p>②林工連携による新製品開発件数(H29～32の累計)</p> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <p>①—</p> <p>②—</p> <p>【直近】</p> <p>①設立(H29)</p> <p>②7件(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①設立(H29) 運営(H30～)</p> <p>②7件(R2)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまがた森林ノミクス推進事業費(林工連携推進事業) 	<p>山形県林工連携コンソーシアム</p>

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

戦略分野4: 特用林産～「森の恵み」を活用した中山間地域での所得向上と雇用の創出～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) やまがた山菜・きのこの日本一産地化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○日本一の「山形ブランド」の定着と産出額の向上を図るため、関係者が一体となって生産から加工、流通・販売までの総合的な取組みを推進する。</p> <p>【主担当課】 森林ノミクス推進課 6次産業推進課 園芸農業推進課 農村計画課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産供給体制の整備や実需者への情報提供による需要拡大、一般消費者の認知度向上、山菜・きのこの魅力や収穫体験等の情報発信などのブランド化戦略を具現化。 たらのきは立枯れ症状の実態把握と対策技術の検討。 うるい、ふきのとうは養成株の充実に向け、株養成法の改善による収量の確保。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 山菜・きのこの生産振興</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> たらのきの立枯れ症状の発生実態把握に向けた担当者会議を開催(4/17) たらのきの立枯れ症状の発生実態調査を実施中(7/2 から8か所、新庄市・金山町・真室川町) ふきのとう「春音」の養成株の充実に向けた実証ほを設置(5月～、酒田市) 特用林産物等の生産基盤整備等を行う事業者に対する助成を実施(15 団体交付決定) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> たらのきの立枯れ症状の発生実態把握に向けた担当者会議の開催(12 月) 特用林産物等の生産基盤整備等を行う事業者に対する助成を実施(15 団体) </div> <p>ii) 山菜・きのこの流通販売の拡大及び認知度の向上</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山菜・きのこの振興を図る「山形県山菜・きのこ振興会」の総会を開催(7/7) 栽培きのこの JGAP の取得。(H30、R1 に最上総合支庁で GAP 取得の研修会を開催し、4 月に 1 団体が 2 品目取得) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> きのこ料理コンクール等の開催(12 月) 首都圏等のフェアにおける山菜・きのこのプロモーションの実施。 </div> <p>iii) 山菜・きのこによる観光・交流の拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山菜・きのこ総合案内のホームページによる山菜・きのこの販売店の情報やイベントの情報等を発信。 山菜時期(5 月)のアクセス数:7,000 件程 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山菜・きのこ総合案内のホームページによる山菜・きのこの販売店の情報やイベント情報等を随時更新して発信。 </div>	<p>【目標指標】 山菜・きのこの産出額</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 63 億円(H26) 〔直近〕 63 億円(H30)</p> <p>【目標値】 74 億円(R2)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 園芸大国やまがた産地育成支援事業費 園芸大国やまがた推進事業費 山の幸振興対策支援事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山の幸総合対策事業(やまがた山菜きのこブランド化戦略) やまがた促成山菜産地強化プロジェクト事業費 	<p>山形県山菜・きのこ振興会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <p>[推進体制整備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産山菜・きのこは首都圏の市場関係者の評価は高いものの、実需者へのアプローチ、一般消費者へのPRが不足しており、需要が伸びていないことから、生産振興から流通・販売、観光交流まで幅広い事業を展開するため、具体的取組みの実施体制や効果的なプロモーションの実施方法等について、関係機関と調整を進めていく必要がある。 <p>[促成山菜]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たらのき「春かおり」の栽培技術については、最上産地研究室の成果や現地実証結果を踏まえ、技術の普及・定着を図っていく。一方で、立枯れ症状の発生が拡大しており、今年度の現地実態調査を踏まえて、次年度以降、関係機関が連携しながら対策方法を組み立てていく必要がある。また、置賜地域では新たな産地拡大の動きが見られており、その動きを後押しするため、産地に合った技術の構築が求められる。 ・うるい、ふきのとうは、養成株の充実不足や労働力不足により生産が縮小していることから、安定生産技術や省力化技術の実証を行っている。今後も、産地の先進事例等を収集・実証しながら、技術構築を図る必要がある。 ・県内のきのこ生産は、生産者の高齢化が進行している中、生産施設は小規模かつ旧式の生産施設がほとんどで、他県の工場型低コスト生産地との競争が激しくなっている一方、生産技術は全国的にもトップレベルであることから、多品目生産や独自性の高いきのこの栽培技術の開発等が必要となっている。 			

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略7:水産業のさらなる振興

戦略分野1:海面漁業～海面漁業のブランド化と庄内浜産水産物の消費拡大による漁業者の所得向上～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 海面漁業生産基盤強化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○漁業就業者の確保や持続可能な経営体の育成、老朽化した漁船や漁港施設の更新など水産関係のインフラ整備による機能回復、栽培漁業や資源管理による水産資源の維持・増大に取り組み、漁業生産基盤の強化を図る。</p> <p>【担当課】 水産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業就業者の確保や持続可能な経営体の育成 ・老朽化した漁船や漁港施設の更新など水産関係のインフラ整備による機能強化 ・栽培漁業や資源管理による水産資源の維持・増大に取り組み、漁業生産基盤の強化を図る。 <p>②令和2年度の主な取組の内容</p> <p>i) 水産業の人材育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規漁業就業者総合支援対策事業による、漁業就業準備研修を実施中(研修者2名) ・夏期の漁業就業者フェア出展は見合わせ(新型コロナ対策のため)。今後のフェア出展方法の検討を実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回山形県水産業担い手育成プロジェクト会議の開催(12月)、ワーキングチーム会議の開催(漁業就業部門10月、加工流通部門10月) ・研修制度の認知度向上のため、漁業研修制度の積極的なPR活動を支援(通年継続) ・次年度のフェアに向けたPR素材準備への支援(DVD作成、パンフレット作成等) ・就業希望者の実情に合わせた漁業研修等の新規・独立就業支援の実施(通年継続) </div> <p>ii) 漁業のトップランナーの育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業成長産業化地域創出事業による漁具のリースを開始。 ・操業の効率化に有効な情報を新最上丸から提供(沖合スルメイカ情報の発信等) ・広域浜プラン実証調査事業が交付決定され、念珠関総括支所における活魚出荷試験について底曳き網漁業解禁以降(9月から)の実施に向けて関係各所と打ち合わせを実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船に加え、漁具も対象となる国の支援事業(水産業成長産業化地域創出事業)の活用を促進するとともに、操業の効率化に有効な情報を新最上丸からの提供。 ・国の支援事業(広域浜プラン実証調査事業)を活用し、産地市場での活魚出荷の取組を促進させ、漁獲物の高付加価値化による漁業収入増を図る(周年) </div> <p>iii) 漁場環境の保全と水産資源の維持・増大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イワガキ増殖礁のブロック作成・据付工事の着工(遊佐町女鹿:7/15 契約済) ・イワガキ増殖礁の詳細設計業務委託(鶴岡市鼠ヶ関:7/8 契約済) ・水産高校、漁業者、県関係各所が協力し、アワビ放流方法の改良を実施(暮坪地区) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> </div>	<p>【目標指標】</p> <p>①漁業の新規就業者数(4年間の累計)</p> <p>②トップランナー(漁業所得400万円以上の経営体)数</p> <p>③漁業試験調査船「最上丸」新船建造</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <p>①51人(H24～27)</p> <p>②23経営体(H27)</p> <p>③25年経過(H28)</p> <p>【直近】</p> <p>①19人(H29～R1)</p> <p>②25経営体(R1)</p> <p>③竣工(R1)</p> <p>【目標値】</p> <p>①70人(H29～R2)</p> <p>②43経営体(R2)</p> <p>③竣工(R1)</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続的漁業経営支援事業費 ・試験調査船新造事業費 ・栽培漁業振興事業費 ・漁港・漁場整備事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸漁業振興調査事業費 ・漁業生産体制強化対策事業費 ・新規漁業就業者総合支援対策事業費 ・栽培漁業センター管理運営費 ・栽培漁業振興事業費 ・水産多面的機能発揮対策推進事業費 	<p>栽培漁業推進検討会</p> <p>山形県水産業再生委員会</p> <p>山形県広域水産業再生委員会</p> <p>山形県水産業担い手育成プロジェクト会議</p> <p>山形県水産多面的機能発揮対策協議会</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> ・イワガキ増殖礁のブロック作成・据付工事の実施(遊佐町女鹿:12/25 完成予定) ・イワガキ増殖礁の詳細設計の実施(鶴岡市鼠ヶ関:12/25 完成予定) <p>iv) 漁業試験調査船「最上丸」の新船建造など水産関係インフラの維持整備</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県管理漁港の長寿命化、機能強化、機能保全工事の着工(酒田市飛島:6/5 契約済) ・由良漁港西側船揚げ場外工事の着工(8月契約) ・山形県漁協豊浦支所の荷捌き施設の整備のため、関係機関等との調整など条件整理を実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県管理漁港の長寿命化、機能強化、機能保全工事の実施(R3.3.26 完成予定) ・由良漁港西船揚げ場の外工事の実施(R3.3.31 完成予定) ・海岸施設設計業務委託の実施(10月予定) ・山形県漁協豊浦支所の荷捌き施設の整備(R3.3 下旬完成予定) </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近の令和元年度では新規漁業者数が8名で、年間の就業者数の目標(4年間で70名、18名/年)には届いていない。新規漁業就業者PR事業においては移住フェアに出展し、首都圏からの就業者確保に努めているが、効果をより高めるため、年2回開催される漁業就業者フェアにも出展し、就業者の確保を図る必要がある。 ・コロナ禍の影響で、首都圏からの往来が控えられていることから、新規就業者確保PRについては、実施の方法について検討が必要となっている。 ・漁船や漁撈機器の老朽化による生産性の低下や、資源状況の悪化等に伴う漁場探索費用の増嵩への対応として、漁船や機器の更新や効率的な操業への切り替えが必要である。 ・アワビに関しては、放流を丁寧にすることで食害を防ぐことができ、放流効果が高まる知見が得られたが、磯見漁業者は減少・高齢化しており、現場に即した手法で普及する必要性がある。 			
<p>(2) 県産水産物付加価値向上推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○鮮度保持技術や蓄養技術を活用した「庄内おばこサワラ」に続く新たな山形ブランドの創出による県産水産物の付加価値向上に取り組む。</p> <p>【主担当課】 水産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド魚のプロモーションを継続し、県内外に周知を図ることにより、一層の付加価値向上による漁業者の所得向上の確保。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 新たなトップブランド水産物の創出</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内浜ブランド創出協議会の開催(6/19、9/15) ・ズワイガニ部会(7/22、8/4)の開催。 ・「庄内北前ガニ(10/2～1/15)」「庄内おばこサワラ(10/10～12/1)」によるキャンペーンを実施。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「天然とらふぐ」によるキャンペーンを実施(12月～翌3月) ・新たなブランド化魚種の検討。 </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①海面漁業・養殖業生産額 ②水産物平均単価 ③「庄内おばこサワラ」の平均単価 <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①24億円(H26) ②450円/kg(H27) ③1,450円/kg(H27) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内浜トップブランド水産物創出事業費 ・イワガキ資源回復・地域ブランド化事業費 	<p>庄内浜ブランド創出協議会</p> <p>「食の都庄内」ブランド戦略会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・観光分野、食の都庄内と連携したプロモーションの実施。 ・先進地から講師を招聘し、漁業者等を対象とした講演会の開催。</p> <p>ii) 鮮度保持技術及び蓄養技術の推進</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業者によるヒラメの蓄養実証試験を5月から実施し、7-8月に市場へ出荷した結果好評価(500円/kg⇒1300~2000円/kg) ・漁業試験調査船「最上丸」により、紅エビ(ホッコクアカエビ)の活魚出荷のための漁具の改良実証試験を実施し、ゲンゲ類の混獲を約3割削減することが可能(R2.4) ・イワガキの漁港内蓄養試験を実施(R2.5~7) <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県栽培漁業センターの水槽を活用し、漁業者・県漁協・県等が一体となって蓄養のモデルケースの確立。9月以降は、フグ類などで実施。 ・「最上丸」による新規漁場開拓、漁場環境調査、活魚出荷による付加価値向上のための漁具の改良と漁法の検証。 ・蓄養魚の販売体制の検討と実需者(仲卸・飲食店等)に対する需要喚起(求評会等)を実施し評価向上による需要拡大の強化。 <p>iii) 大型クロマグロの漁獲の安定化</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期漁獲状況を把握し、関係者間の情報共有により、地区ごとの資源管理を実施。 ・最上丸により、漁業者からの要望があれば漁場等の調査が可能な体制を整備。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁獲状況の迅速な把握と情報共有し、地区ごとの漁獲可能量の配分を実施。 ・漁業者からの要請に応じて改良漁具や漁場等の情報提供を実施。 <p>iv) 養殖の活性化</p> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年秋に港内に設置したアカモクは、藻体が2m以上に生長し、漁港内での海藻養殖の可能性を確認。 ・9月~10月の早期に大型種苗を設置することでより高成長することが判明。 ・令和2年度も食用に適したアカモク種苗を継続生産。 ・閉鎖循環式陸上養殖システムによるサクラマス種苗の飼育試験を継続実施。 <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖循環式陸上養殖システムによるサクラマス種苗の飼育試験の継続。 ・漁港内での海藻養殖のため、種苗を付着させた基質を漁港に設置(暮坪、堅苔沢、酒田) ・食用に適したアカモク種苗(冬季成熟型)の大量生産(2月採苗) ・アカモク以外に可能性のある食用海藻を探索。 <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「庄内北前ガニ」の基準を拡大し、プロモーションの実施による認知度向上とともに、品質の維持 	<p>【直近】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①22億円(H30) ②557円/kg(H30) ③1,677円/kg(R1) <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①33億円(R2) ②590円/kg(R2) ③2,000円/kg(R2) 		

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>のための選別技術の向上等のための取組が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定供給に向け、出荷量を確保するため、蓄養に取組む漁業者の拡大が必要である。 			
<p>(3) 県産水産物利用拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○「庄内浜の魚消費拡大総合プロジェクト」の展開により、県内消費の拡大に向けた積極的な情報発信とPRの強化、魚料理の良さを知る機会の提供による魚食普及の推進に取り組む。</p> <p>【担当課】 水産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 庄内浜の魚消費拡大プロジェクトの展開により、「やまがた庄内浜の魚応援店」や量販店と連携した県内消費の拡大に向けたキャンペーンやイベントを実施し、SNSを活用した情報発信を実施。 庄内浜文化伝道師による食育・魚食普及活動の推進。 県漁協による新たな水産加工品の商品化及び販路の拡大。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 県内における認知度向上及び消費拡大</p> <div data-bbox="385 539 1364 639" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 急速冷凍機を使った加工品開発、試験販売の実施(ヒラメ) 庄内浜文化伝道師による食育教室を4回実施。 </div> <div data-bbox="385 639 1364 874" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内陸地区において、旬の魚キャンペーンの実施(9/14～12/15) 量販店での取り扱い強化に向け、加工品開発支援、実需者に向けた需要喚起の実施。 「庄内浜のさかなかんたんレシピ」のシリーズ化。 庄内浜文化伝道師講座として、子供を対象とした食育教室(庄内地区12回)、料理教室(内陸地区5回)の実施。 庄内浜文化伝道師活動としてラジオやイベント等を利用した庄内浜の魚のPRの実施。 </div> <p>ii) 低利用魚を活用した水産加工品製造・販売の支援</p> <div data-bbox="385 930 1364 1031" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ対策として、水産加工品の職員向け販売の実施(6月) ラボでの加工試作 6件、商品化1件(サザエ燻製) </div> <div data-bbox="385 1031 1364 1131" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> おいしい魚加工支援ラボを活用した水産加工品開発の支援の継続。 水産加工に取り組む漁業者等の事業展開を支援。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 内陸地域でのプロモーションにおいては、内陸地域で庄内浜の水産物を積極的に扱う「やまがた庄内浜の魚応援店」(R2.9月末時点:119店舗)や量販店による積極的なPR活動が必要である。 庄内浜文化伝道師による浜の食文化の伝承や魚食普及活動への消費者の関心が高いことから、継続して取り組む必要がある。 急速冷凍装置による冷凍加工は、休漁期の県漁協直売所への安定供給に有効であるが飲食店等への流通には、保管時の品質劣化等の課題があることから、引き続き検証が必要である。 おいしい魚加工支援ラボの開設により、漁業者や漁家女性等による加工品に関する研修会や加工品の試作が行われ、水産研究所のサポートにより加工のレベルアップに繋がっている。 	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 県内内陸部における庄内浜産水産物の流通比率 ② 低利用魚の平均単価 <p>【現状値】 【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 7.1% (H26～29の平均) ② 270円/kg (H29) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 6.3% (R1) ② 271円/kg (R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 15.0% (R2) ② 350円/kg (R2) 	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 庄内浜産水産物安定供給推進事業費 県産水産物販売力強化事業費 庄内浜の魚消費拡大事業費 庄内文化伝道師による魚食普及事業費 	<p>庄内浜の魚消費拡大総合プロジェクト推進本部</p> <p>庄内浜文化伝道師協会</p>

第3次農林水産業元気再生戦略 令和2年度の取組実績と今後の予定(令和2年9月末時点)

基本戦略7:水産業のさらなる振興

戦略分野2:内水面漁業～内水面漁業振興による地域活性化～

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 内水面漁業振興プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○観光を含む地域振興と連携した遊漁者の拡大等により内水面漁業の経営基盤を安定化させるとともに、水産資源の維持・増大、カワウ・ブラックバス等による漁業被害の低減、新しいニーズに対応する大型ブランドマスの開発及び普及に取り組む。</p> <p>【担当課】 水産振興課</p>	<p>①令和2年度の推進方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内水面漁業における遊漁者および組合員増大のため、新規アユ漁場の活用モデル実証事業の実施により、内水面漁業における遊漁者および組合員増大を推進。 ・カワウ・ブラックバスによる内水面漁業および養殖業への被害低減のため、漁協等が実施する駆除活動への支援を推進。 ・本県でこれまでに行ってない河川での外来魚駆除対策の効果検証の実施。 ・内水面養殖業の振興を図るため、民間養殖場における「ニジサクラ」の生産経営体数の増大。 <p>②令和2年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 遊漁者の増加対策</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内2か所のダム湖上流の新規アユ漁場におけるアユ釣り教室を支援(白川8/18) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来魚対策協議会(仮称)の中でR3年の遊漁教室開催に向けた打合せを釣り具メーカーや釣り雑誌出版社と実施(10月頃) ・新規アユ漁場におけるルアー釣りの普及に向けて、アユのルアー釣りのルール整備に向けて関係機関との調整の実施。 </div> <p>ii) 魚の棲み良い環境整備</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最上川本流におけるコクチバス対策のモデルケースを作り駆除対策の効果検証をするため、西置賜漁協と最上川第一漁協で実施中(6～3月) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北カワウ広域協議会に参加し、東北全域における情報共有と今後の調査方針について検討(未定) ・カワウ連絡協議会、カワウワーキンググループ会議を開催し情報共有と対策を検討(3月頃) ・外来魚対策協議会(仮称)を開催し、河川での外来魚駆除取組方針の検討の実施(10月頃) ・最上川本流におけるコクチバス対策のモデルケースを作り駆除対策の効果検証。(6～3月) </div> <p>iii) オリジナル大型ブランドマスの開発</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年9月末までの取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニジサクラ養殖用種苗について、9月中の分譲に向けて内水面水産センターで種苗生産中(約8,000尾、20g) ・民間養殖業者(3か所)での、試験飼育を継続し、飼育データを収集。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【令和2年度の今後の取組予定】</p> </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①内水面漁業生産額 ②県内水面漁協の遊漁証枚数(単協分) ③オリジナル大型ブランドマスの養殖取組み民間生産者数 <p>【現状値】 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①8.3億円(H26) ②12,310枚(H27) ③2経営体(H28) <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①6.2億円(H30) ②11,031枚(R1) ③5経営体(R1) <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①9.2億円(R2) ②17,000枚(R2) ③5経営体(R2) 	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケ・マス振興事業費 <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚類生息環境保全対策事業費 ・サケ・マス振興事業費 ・内水面漁業振興事業費 ・新規アユ漁場の活用モデル実証事業費 ・さくらます増殖施設管理運営費 	<p>山形県カワウ連絡協議会</p> <p>カワウワーキンググループ会議</p>

プロジェクト名	R2取組実績と今後の取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<div data-bbox="385 169 1368 304" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・民間業者におけるブランドマス試験飼育の産地拡大(継続)及び課題抽出の実施。 ・ブランド化に向けた生産・流通・販売戦略の策定に向け、プロジェクトチームを設置し、検討会の開催。 ・ニジサクラの養殖用種苗の生産及び採卵・処理方法の改良を行い、生産体制を強化。 </div> <p>③令和2年度のこれまでの取組みの評価及び課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サクラマスの放流数量の増大や釣り教室の開催などの取組みを行っているが、戦略策定時と比較して遊漁証販売枚数が減少しており、内水面漁業の経営基盤安定化のためには、組合員や遊漁者の獲得に向けた対策を継続して実施する必要がある。 ・新規アユ漁場を利用したアユルアー釣り教室を実施したが、天候不順や高水温の影響により十分な釣果を得られない事例があった。 ・カワウについて、営巣地における卵のドライアイス処理、銃器による駆除、花火による追い払いを実施することで、一時的な減少は見られるものの、春と秋に実施した飛来数調査において個体数は横ばいであり、その効果は限定的である。引き続き駆除活動等を隣県と連携し広域的に取り組んでいく必要がある。 ・ブラックバスについては、1部漁場で電気ショッカーボートによる駆除で、個体数が減少していることを内水試の調査で確認した。更に、今後は、漁協等が実施する駆除活動に加え、バス釣りをを行う方の協力も得ながら実施していく必要がある。 ・近年では、違法放流により繁殖したコクチバスによる被害が最上川においても顕在化している。湖沼においては、網漁具や電気ショッカーボートによるオオクチバスの駆除は効果があるが、河川は流れや濁りが駆除効果に影響を与えるため、効果的な手法の開発が必要である。 ・山形県が独自に開発した高成長、良食味のブランドマス「ニジサクラ」について、今後の安定生産に向け、種苗の量産と養殖に取り組む民間業者の増加を図るとともに、ブランド化に向けた流通・販売戦略を検討する必要がある。 			